

**平成30年度**

**滋賀県地震防災プラン県民意識調査**

**滋賀県総合政策部 防災危機管理局**



# 滋賀県地震防災プラン県民意識調査

## 目次

I 調査の概要	1
II 調査結果	7
1. 大規模地震について	7
(1)大規模地震への関心度	7
(2)大規模地震発生メカニズムの認知	11
(3)地震時の心配事	12
(4)大規模地震に関する情報提供方法	15
2. 避難所について	18
(1)避難生活をする場所	18
(2)避難生活をする場所を選んだ理由	19
(3)避難所の運営主体の認知	20
(4)福祉避難所の認知	20
(5)福祉避難所の開設方法認知	21
(6)避難場所と避難所の区別の認知	21
(7)要配慮者への合理的配慮の認知	22
(8)避難所生活での心配事	23
3. 家庭での備蓄について	24
(1)食料の備蓄日数	24
(2)食料を3日分以上備蓄していない理由	28
(3)食料を3日分以上備蓄していない人の確保手段	29
(4)備蓄食料の種類	29
(5)1週間を耐えしのご食料の有無	30
(6)飲料水の備蓄日数	34
(7)飲料水を3日分以上備蓄していない理由	38
(8)飲料水を1日分も備蓄していない人の確保手段	39
(9)携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数	39
(10)被災時のトイレの対応	42
(11)用意している持ち出し品	43

<b>4. 建物・家財の防災対策について</b> .....	44
(1)住居構造.....	44
(2)木造建築の着工年時.....	45
(3)無料耐震診断の認知.....	45
(4)耐震診断実施経験の有無.....	46
(5)耐震診断をしない理由.....	46
(6)耐震化についての要望.....	47
(7)家具の固定状況.....	47
(8)家具を固定していない理由.....	49
(9)建物や家財に関する保険への加入状況.....	50
(10)地震保険未加入理由.....	51
(11)生活再建支援制度の認知.....	52
<b>5. 地域での防災活動について</b> .....	53
(1)防災対策の相談先.....	53
(2)自主防災組織への加入状況.....	56
(3)自主防災組織の活動への参加状況.....	59
(4)自主防災組織の活動程度.....	61
(5)過去1年以内の地震防災訓練への参加有無.....	62
(6)参加した訓練の実施主体.....	65
(7)訓練に参加した感想.....	67
(8)訓練不参加理由.....	69
<b>6. 大規模地震が発生した時の行動について</b> .....	70
(1)家族の安否確認手段.....	70
(2)震災時の防災活動への参加意向.....	72
(3)参加意向のある地震発生後の防災活動.....	75
(4)自分自身の安全に対する意識.....	77
(5)一時避難想定場所.....	78
(6)避難する理由.....	78
(7)特別警戒区域の認知.....	79
(8)避難時の交通手段.....	79
<b>付 調査票</b> .....	81

# I 調査の概要



# I 調査の概要

## (1) 調査目的

滋賀県民の大規模地震に対する日ごろの考え方や対策状況等を調査し、意識の実態を把握することにより、今後の地震防災に係る施策を検討する上での基礎資料を得る。

## (2) 調査内容

本調査の質問内容の概要は、以下のとおりである。詳細については巻末の「付 調査票」を参照。

- 1 滋賀県に大きな被害を及ぼす大規模地震について
- 2 避難所について
- 3 あなたのお宅における備蓄について
- 4 あなたのお宅の耐震補強、家具の固定等について
- 5 自主防災組織・防災訓練について
- 6 大規模地震が突然発生したときの行動について

## (3) 調査実施概要

本調査は、以下の要領で実施した。

- |        |   |
|--------|---|
| 1 母集団  | 滋賀県内に居住する満 18 歳以上の男女（抽出時点）  |
| 2 標本数  | 2,000 サンプル  |
| 3 標本抽出 | 選挙人名簿より無作為抽出  |
| 4 調査地域 | 大津地域（1 市町）<br>…大津市<br>南部地域（4 市町）<br>…草津市、守山市、栗東市、野洲市<br>甲賀地域（2 市町）<br>…甲賀市、湖南市<br>東近江地域（4 市町）<br>…東近江市、近江八幡市、日野町、竜王町<br>湖東地域（5 市町）<br>…彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町<br>湖北地域（2 市町）<br>…米原市、長浜市<br>高島地域（1 市町）<br>…高島市<br>以上全 19 市町 |
| 5 調査期間 | 平成 30 年 7 月 20 日～8 月 7 日  |
| 6 調査方法 | 郵送調査法   |

7 回収状況

地域	標本数	回収数	回収率 (%)
大津地域	483	250	51.8%
南部地域	472	249	52.8%
甲賀地域	206	98	47.6%
東近江地域	325	173	53.2%
湖東地域	224	123	54.9%
湖北地域	219	133	60.7%
高島地域	71	40	56.3%
無回答	-	3	-
合計	2,000	1,069	53.5%

※但し、上記回収数は集計対象数。



(4) 標本構成

	標本数	男性	女性	無回答
大津地域	250	107	141	2
南部地域	249	114	132	3
甲賀地域	98	48	48	2
東近江地域	173	84	87	2
湖東地域	123	59	64	0
湖北地域	133	68	65	0
高島地域	40	17	23	0
無回答	3	0	1	2
全体	1,069	497	561	11

《性別》

	標本数	18歳 ～ 29歳	30歳 ～ 39歳	40歳 ～ 49歳	50歳 ～ 59歳	60歳 ～ 69歳	70歳以上	無回答
大津地域	250	24	43	57	31	46	47	2
南部地域	249	29	49	61	28	39	41	2
甲賀地域	98	14	12	21	11	21	19	0
東近江地域	173	20	31	29	19	33	39	2
湖東地域	123	16	19	29	16	19	24	0
湖北地域	133	11	25	30	18	21	28	0
高島地域	40	2	6	7	6	10	9	0
無回答	3	0	1	0	0	0	0	2
全体	1,069	116	186	234	129	189	207	8

《年齢》

	標本数	正社員	正社員以外	自営業	農林漁業	学生	無職	その他	無回答
大津地域	250	93	53	17	4	8	69	3	3
南部地域	249	94	59	13	3	8	69	1	2
甲賀地域	98	38	21	3	2	2	31	1	0
東近江地域	173	60	31	8	3	3	65	1	2
湖東地域	123	38	33	11	6	2	33	0	0
湖北地域	133	49	24	12	6	3	37	2	0
高島地域	40	12	8	3	2	1	12	1	1
無回答	3	0	0	0	0	0	1	0	2
全体	1,069	384	229	67	26	27	317	9	10

《職業》

	標本数	1年未満	1～5年未満	5～10年未満	10年以上	無回答
大津地域	250	1	7	13	228	1
南部地域	249	3	9	10	225	2
甲賀地域	98	0	2	1	95	0
東近江地域	173	2	1	2	166	2
湖東地域	123	0	6	4	113	0
湖北地域	133	0	4	1	128	0
高島地域	40	0	1	0	39	0
無回答	3	0	0	1	0	2
全体	1,069	6	30	32	994	7

《居住年数》

## (5) 摘要と標本誤差

- 1 図中の「n」は、回答総数 (Number) を示す。
- 2 すべての集計は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても、100%にならず、1%の範囲で増減することがある。
- 3 回答比率 (%) は、その設問の回答者数を基数 (n) として算出した。  
したがって、「○はいくつでも」のような複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100%を超える。
- 4 標本誤差 (サンプル誤差) はおおよそ下表のとおりである。

$$\varepsilon = 2 \sqrt{\frac{P(1-P)}{n}}$$

$\varepsilon$  : 標本誤差  
n : 標本の大きさ  
P : 回答比率

回答比率	基数	標本誤差 (%)	信頼範囲 (%)
10% (90%)	1,069	±1.8	8.2~11.8 (88.2~91.8)
20% (80%)	1,069	±2.4	17.6~22.4 (77.6~82.4)
30% (70%)	1,069	±2.8	27.2~32.8 (67.2~72.8)
40% (60%)	1,069	±3.0	37.0~43.0 (57.0~63.0)
50%	1,069	±3.1	46.9~53.1

この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答者が 1,069 人であり、その設問中の選択肢の回答率が 60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも ±3.0% である。」

## (6) 「防災に関する世論調査」の概要

内閣府調査との比較は以下の設問で引用されている。

問 3、問 17-1、問 21、問 21-2

内閣府調査は、以下の要領で実施されている。

- 1 調査目的 防災に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。
- 2 調査対象 全国の 18 歳以上かつ日本国籍を有する者 3,000 人  
有効回収数 (率) 1,839 人 (61.3%)
- 3 調査期間 平成 29 年 11 月 16 日～11 月 26 日
- 4 調査方法 調査員による個別面接聴取法
- 5 調査項目
  1. 災害に関する意識について
  2. 地震対策に関する意識について
  3. 防災情報 (自然災害全般) に関する意識について
  4. 防災訓練等に関する意識について
  5. 自助、共助、公助の対策に関する意識について
- 6 公開機関 内閣府大臣官房政府広報室
- 7 公開日 平成 30 年 1 月

## (7) 備考

本調査の結果を掲載するにあたり、留意すべき点を下記に記載する。

1 大阪府北部を震源とする地震について

発生日時…平成 30 年 6 月 18 日

滋賀県への影響…滋賀県南部で震度 5 弱、滋賀県北部で震度 4 を観測

2 米原市にて発生した竜巻について

発生日時…平成 30 年 6 月 29 日

滋賀県への影響…米原市内で 140 件の住家被害発生（7 月 2 日時点）

調査時の対応…対象者抽出の際に米原市夫馬、朝日、野一色、北方地区といった被害の大きい地域を除外



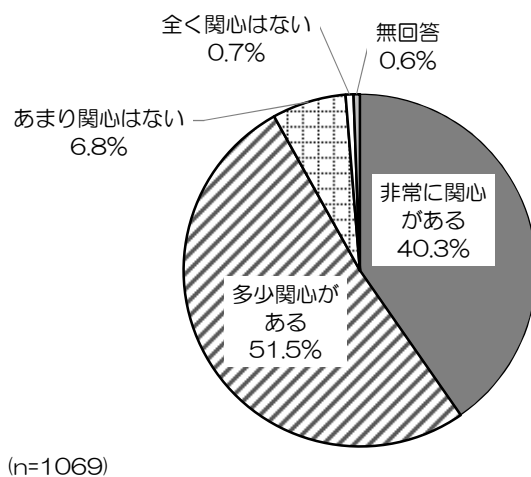
## II 調査結果



# 1 大規模地震について

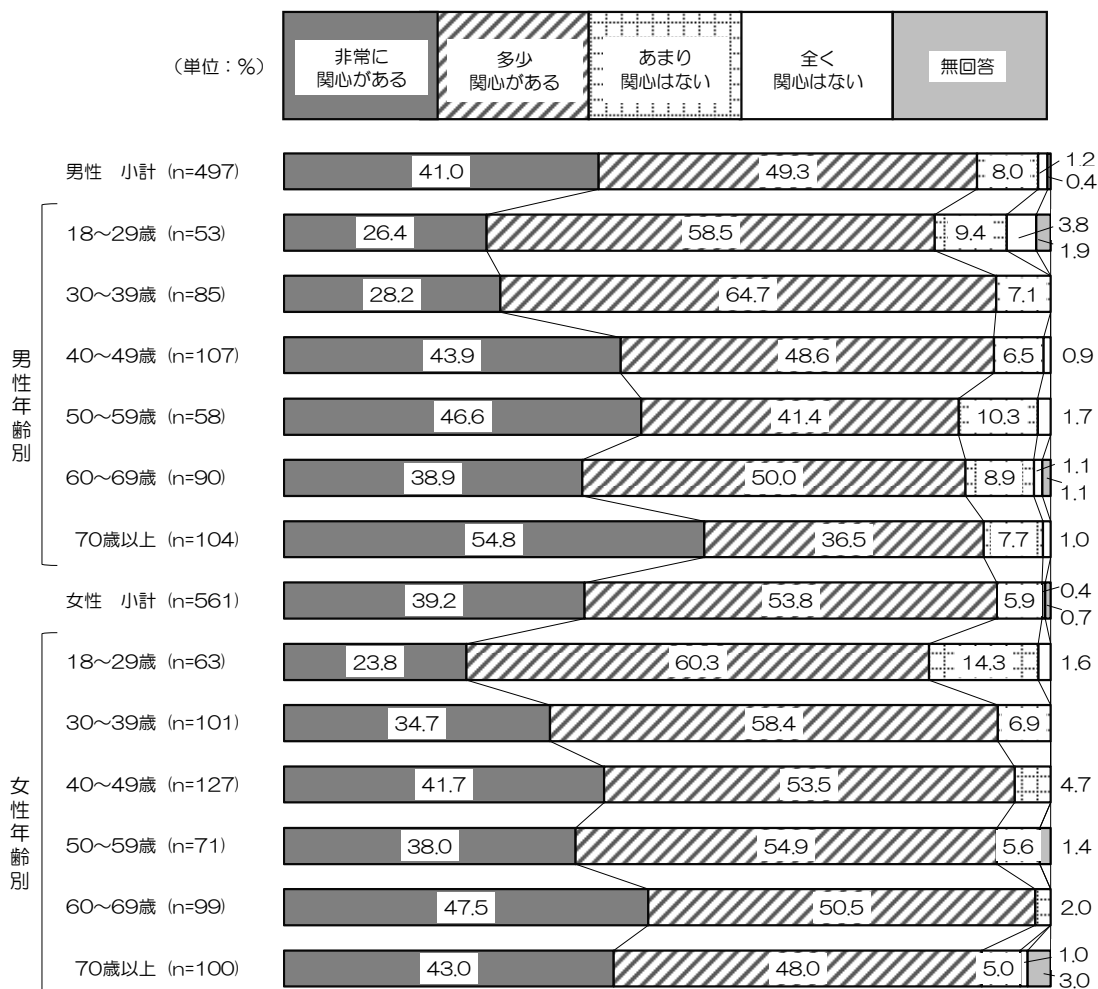
## (1) 大規模地震への関心度

問1. あなたは現在、大規模地震にどの程度に関心を持っていますか。(○は1つ)



大規模地震への関心についてたずねたところ、「非常に関心がある」(40.3%)と「多少関心がある」(51.5%)を合わせた91.8%が関心を持っている。

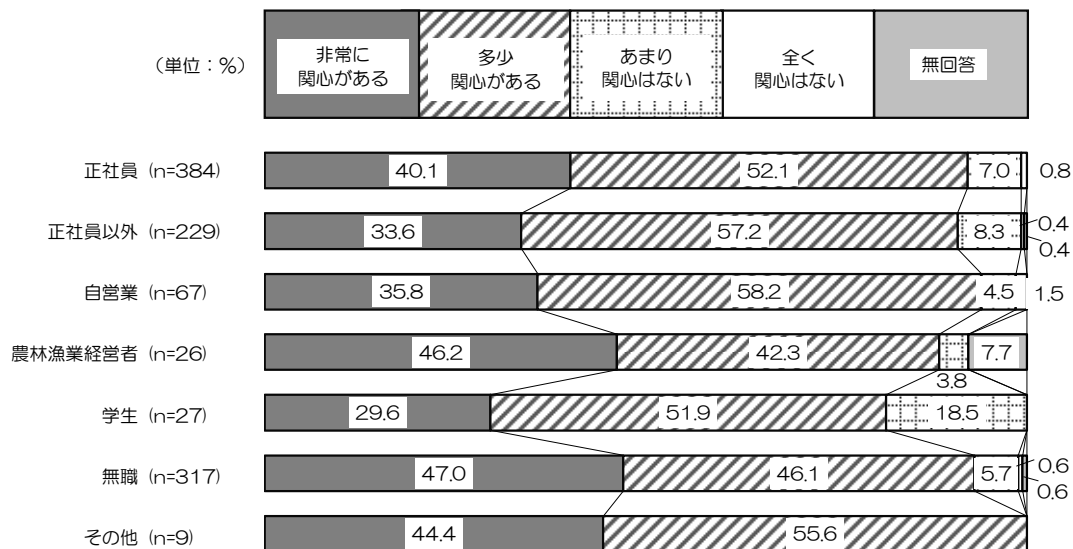
〔大規模地震への関心度（性・年齢別）〕



性・年齢別でみると、「非常に興味がある」については、『男性 70 歳以上』で 54.8%と最も高くなっている。一方、『男性 18~29 歳』『男性 30~39 歳』『女性 18~29 歳』では 2 割台と低い。

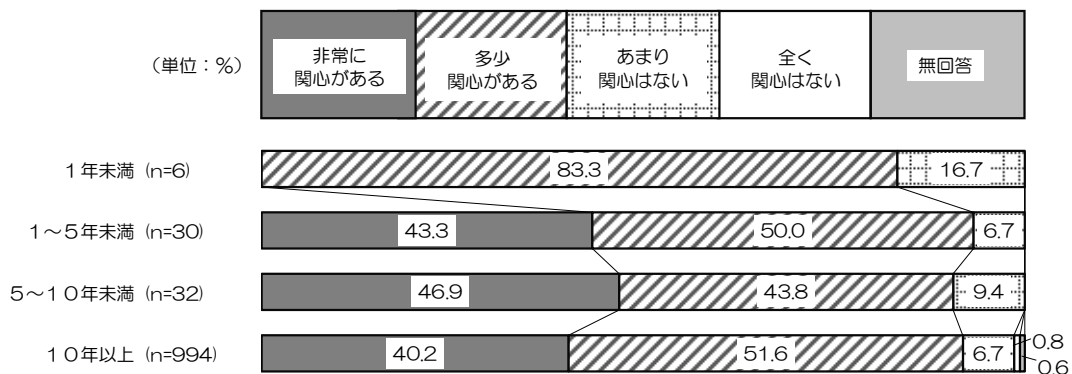


〔大規模地震への関心度（職業別）〕



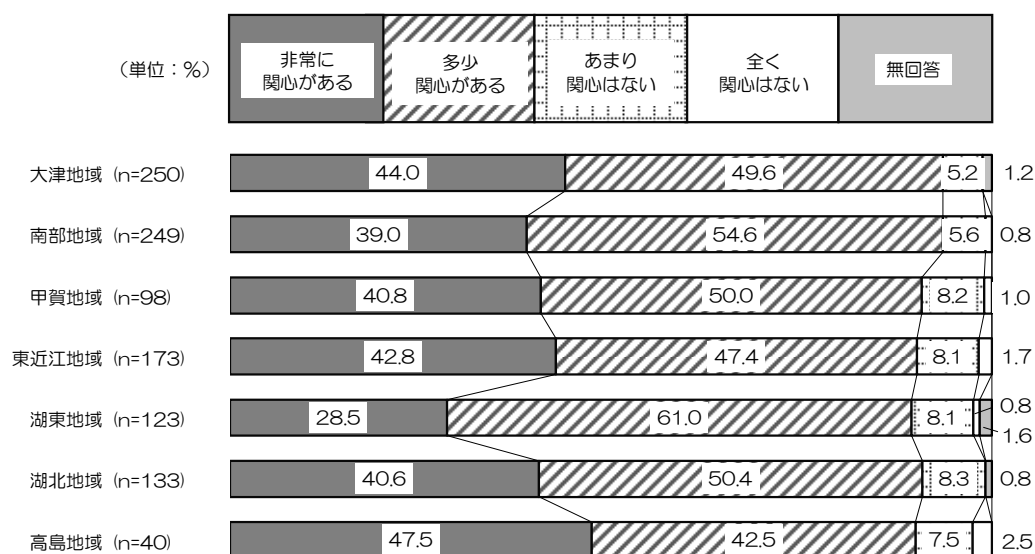
職業別でみると、「非常に興味がある」は『無職』で47.0%と高くなっている。（※『農林漁業経営者』『その他』はサンプル数が少ないため、参考値とする。）

〔大規模地震への関心度（居住年数別）〕



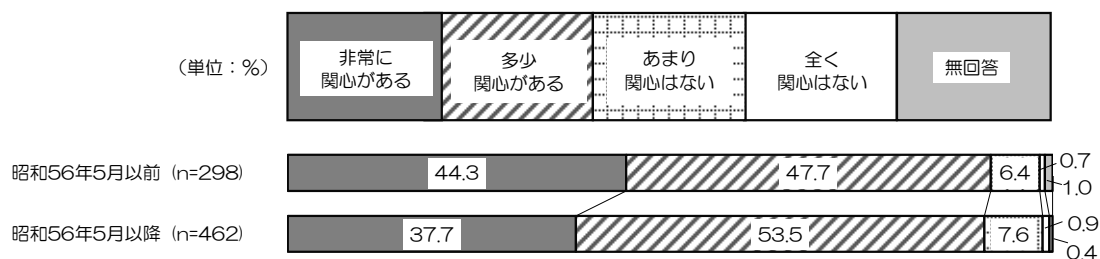
居住年数別でみると、サンプル数の少ない『1年未満』を除いて、「非常に興味がある」はいずれも4割台となっている。

〔大規模地震への関心度（地域別）〕



地域別でみると、「非常に関心がある」は『高島地域』で 47.5%と高いが、『湖東地域』では 28.5%と低く、19.0 ポイントの差がある。その他の地域ではいずれも 4 割前後となっている。

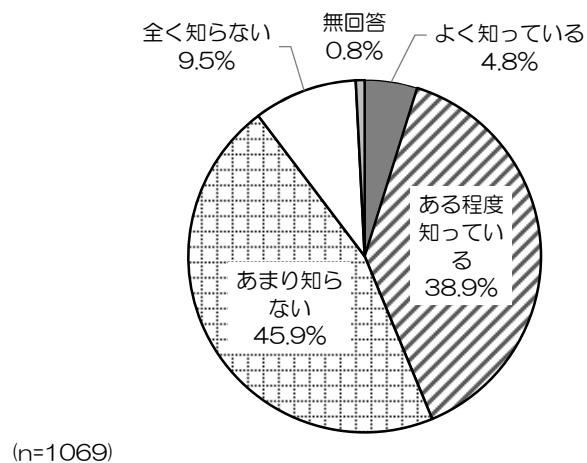
〔大規模地震への関心度（木造建築着工時期別）〕



木造建築着工時期別でみると、「非常に関心がある」は『昭和 56 年 5 月以前』で 44.3%と、『昭和 56 年 5 月以降』より 6.6 ポイント高くなっている。

## (2) 大規模地震発生メカニズムの認知

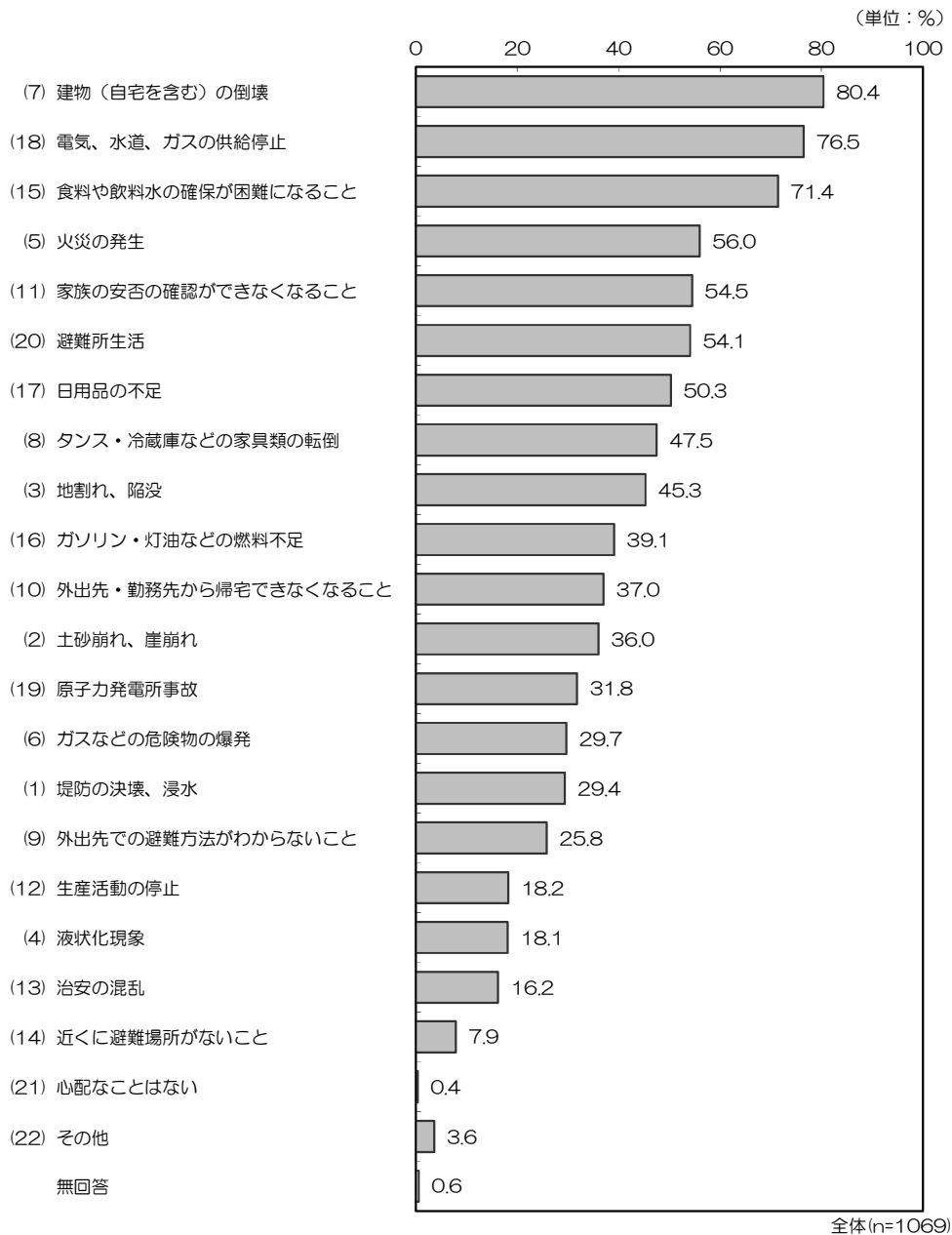
問2. あなたは、滋賀県に大きな被害を及ぼす大規模地震が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。（○は1つ）



大規模地震発生メカニズムの認知についてたずねたところ、「あまり知らない」が45.9%で最も高く、「全く知らない」(9.5%)と合わせると、55.4%と過半数が「知らない」と答えている。一方、「よく知っている」(4.8%)、「ある程度知っている」(38.9%)となっている。

### (3) 地震時の心配事

問3. あなたは、滋賀県に大きな被害を及ぼす大規模地震に関して、どのようなことが心配ですか。(〇はいくつでも)

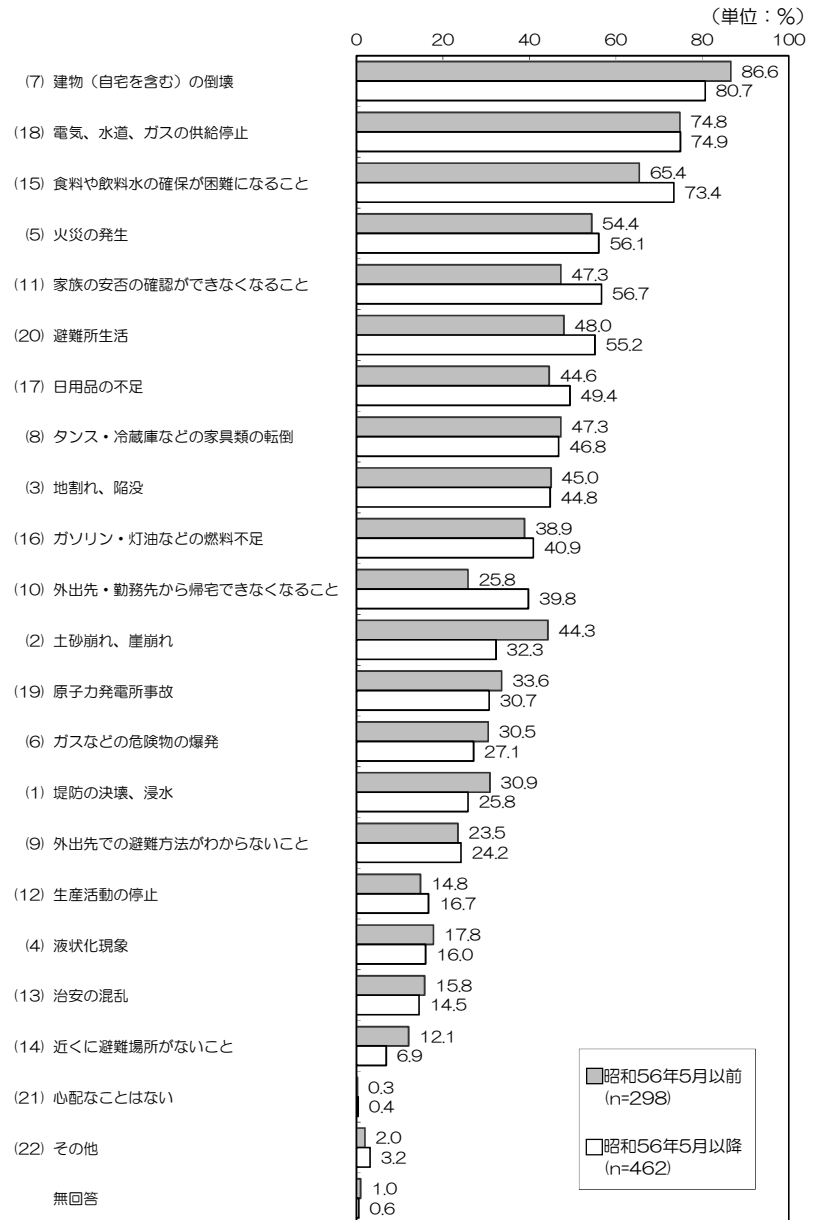


地震時の心配事についてたずねたところ、「建物（自宅を含む）の倒壊」（80.4%）、「電気、水道、ガスの供給停止」（76.5%）、「食料や飲料水の確保が困難になること」（71.4%）が7割以上で高い。以下、「火災の発生」（56.0%）、「家族の安否の確認ができなくなる」（54.5%）、「避難所生活」（54.1%）、「日用品の不足」（50.3%）が5割台で続く。

〔地震時の心配事（木造建築着工時期別）〕

木造建築着工時期別にみると、『昭和56年5月以前』は、「建物（自宅を含む）の倒壊」で5.9ポイント、「土砂崩れ、崖崩れ」で12.0ポイント、『昭和56年5月以降』より高くなっている。

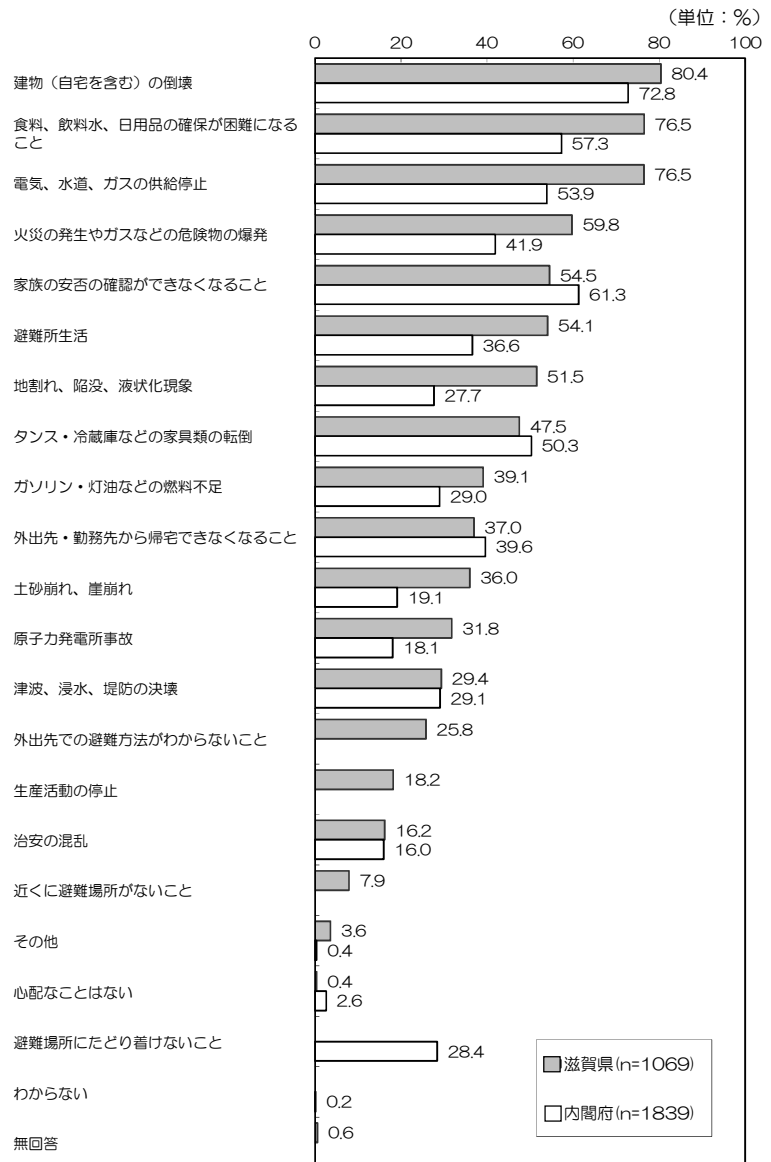
『昭和56年5月以降』は、「食料や飲料水の確保が困難になること」で8.0ポイント、「家族の安否の確認ができなくなること」で9.4ポイント、「避難所生活」で7.2ポイント、「外出先・勤務先から帰宅できなくなること」で14.0ポイント、『昭和56年5月以前』より高くなっている。



〔地震時の心配事（内閣府調査との比較）〕

内閣府調査との比較でみると、『滋賀県』の方が高い項目が多く、特に、「地割れ、陥没、液状化現象」は23.8ポイント、「電気、水道、ガスの供給停止」は22.6ポイント、「食料、飲料水、日用品の確保が困難になること」は19.2ポイント、『内閣府』より高くなっている。

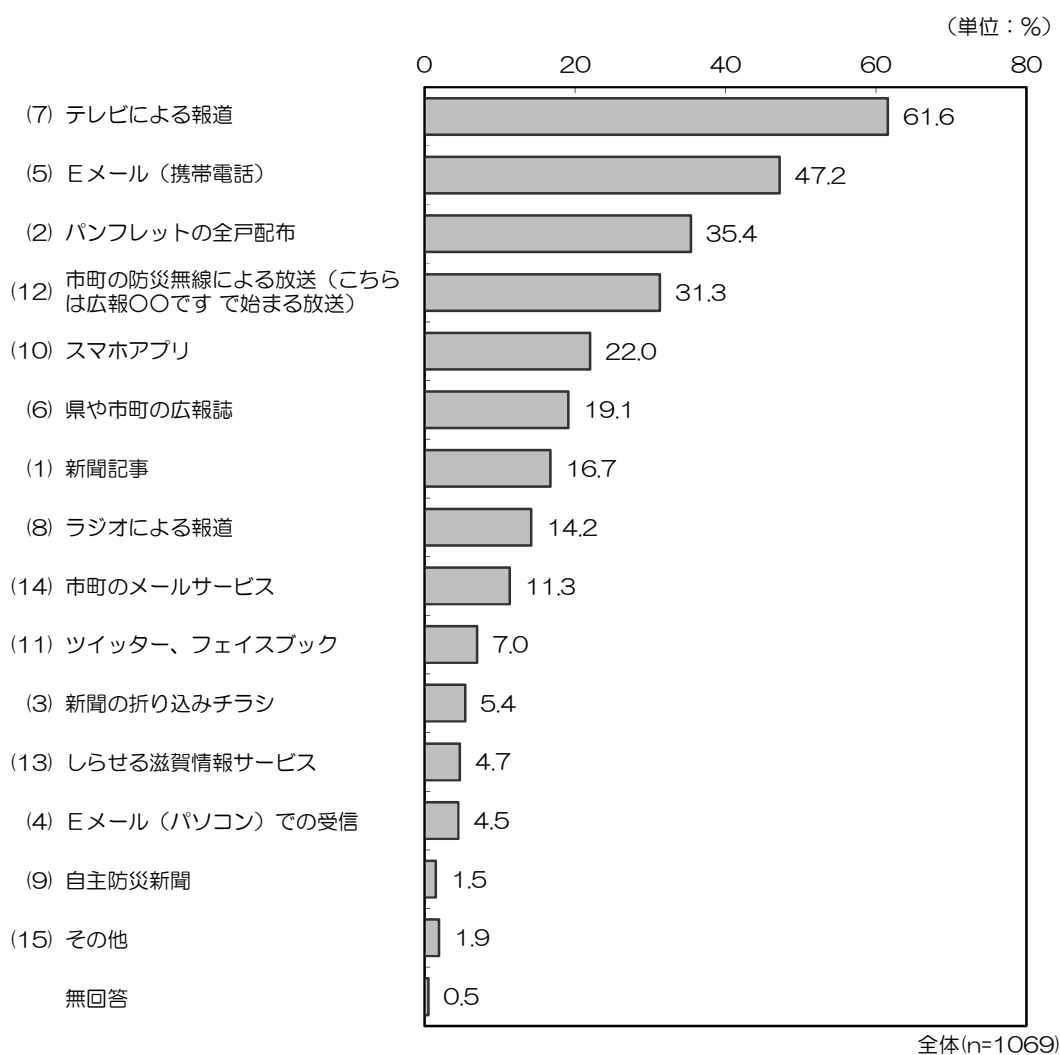
一方、「家族の安否が確認できなくなること」は、『滋賀県』は『内閣府』より6.8ポイント低い。



※滋賀県の「地割れ、陥没」「液状化現象」は「地割れ、陥没、液状化現象」として、「火災の発生」「ガスなどの危険物の爆発」は「火災の発生やガスなどの危険物の爆発」として、「食料や飲料水の確保が困難になること」「日用品の不足」は「食料、飲料水、日用品の確保が困難になること」として、再集計して比較した。また、滋賀県の「堤防の決壊、浸水」は内閣府の「津波、浸水、堤防の決壊」と比較した。

#### (4) 大規模地震に関する情報提供方法

問4. 平常時に県や市町から滋賀県に大きな被害を及ぼす大規模地震に関する情報が提供される場合、皆さまに確実に伝わると思う方法は次のどれですか。(〇は3つまで)



大規模地震に関する情報提供方法についてたずねたところ、「テレビによる報道」が61.6%で特に高くなった。以下、「Eメール (携帯電話)」(47.2%)、「パンフレットの全戸配布」(35.4%)、「市町の防災無線による放送 (こちらは広報〇〇です で始まる放送)」(31.3%)の順となっている。

〔大規模地震に関する情報提供方法（性・年齢別）〕

（単位：％）

		回答者数	(7) テレビによる報道	(5) Eメール（携帯電話）	(2) パンフレットの全戸配布	(12) 市町の防災無線放送（ここでは始まる放送）	(10) スマホアプリ	(6) 県や市町の広報誌	(1) 新聞記事	(8) ラジオによる報道	(14) 市町のメールサービス	(11) ツイッター、フェイスブック	(3) 新聞の折り込みチラシ	(13) スラッサーの滋賀情報サービス	(4) Eメール（パソコン）での受信	(9) 自主防災新聞	(15) その他	無回答
全体		1069	61.6	47.2	35.4	31.3	22.0	19.1	16.7	14.2	11.3	7.0	5.4	4.7	4.5	1.5	1.9	0.5
性・年齢別	男性 小計	497	58.1	47.5	32.2	30.8	23.1	19.1	16.9	18.7	10.9	6.6	6.6	3.8	6.0	1.0	2.2	0.4
	18～29歳	53	58.5	45.3	18.9	39.6	39.6	7.5	17.0	18.9	5.7	15.1	13.2	1.9	1.9	1.9	1.9	-
	30～39歳	85	63.5	47.1	28.2	27.1	24.7	15.3	11.8	14.1	12.9	11.8	4.7	1.2	3.5	1.2	2.4	-
	40～49歳	107	47.7	54.2	37.4	28.0	26.2	23.4	8.4	21.5	9.3	7.5	4.7	5.6	6.5	1.9	1.9	-
	50～59歳	58	55.2	56.9	29.3	27.6	34.5	10.3	15.5	24.1	10.3	5.2	8.6	5.2	6.9	-	-	1.7
	60～69歳	90	53.3	43.3	43.3	26.7	17.8	25.6	20.0	15.6	18.9	2.2	5.6	6.7	11.1	-	2.2	1.1
	70歳以上	104	70.2	40.4	28.8	37.5	8.7	23.1	27.9	19.2	6.7	1.9	6.7	1.9	4.8	1.0	3.8	-
	女性 小計	561	64.9	46.7	38.0	31.2	21.0	19.4	16.2	10.5	11.6	7.3	4.5	5.5	3.2	2.0	1.6	0.5
	18～29歳	63	65.1	41.3	30.2	23.8	27.0	19.0	11.1	4.8	3.2	36.5	4.8	7.9	-	-	1.6	-
	30～39歳	101	57.4	49.5	40.6	29.7	23.8	21.8	12.9	10.9	13.9	8.9	-	2.0	3.0	3.0	3.0	-
	40～49歳	127	58.3	52.8	43.3	22.8	28.3	15.7	8.7	6.3	18.9	3.1	6.3	5.5	4.7	1.6	2.4	0.8
	50～59歳	71	59.2	49.3	42.3	33.8	21.1	16.9	21.1	11.3	12.7	5.6	5.6	5.6	4.2	2.8	-	1.4
60～69歳	99	70.7	54.5	41.4	43.4	20.2	16.2	12.1	10.1	7.1	1.0	7.1	5.1	3.0	2.0	-	-	
70歳以上	100	79.0	30.0	27.0	34.0	6.0	27.0	33.0	19.0	9.0	-	3.0	8.0	3.0	2.0	2.0	1.0	

※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

性・年齢別にみると、『男性 70 歳以上』『女性 60～69 歳』『女性 70 歳以上』では、「テレビによる報道」が 7 割以上と特に高い。また、『男性 18～29 歳』『男性 50～59 歳』では「スマホアプリ」、『女性 18～29 歳』では「ツイッター、フェイスブック」、『男性 70 歳以上』『女性 70 歳以上』では「新聞記事」が、それぞれ高くなっている。

〔大規模地震に関する情報提供方法（地域別）〕

（単位：％）

		回答者数	(7) テレビによる報道	(5) Eメール（携帯電話）	(2) パンフレットの全戸配布	(12) 市町の防災無線放送（ここでは始まる放送）	(10) スマホアプリ	(6) 県や市町の広報誌	(1) 新聞記事	(8) ラジオによる報道	(14) 市町のメールサービス	(11) ツイッター、フェイスブック	(3) 新聞の折り込みチラシ	(13) スラッサーの滋賀情報サービス	(4) Eメール（パソコン）での受信	(9) 自主防災新聞	(15) その他	無回答
全体		1069	61.6	47.2	35.4	31.3	22.0	19.1	16.7	14.2	11.3	7.0	5.4	4.7	4.5	1.5	1.9	0.5
地域別	大津地域	250	66.0	50.8	34.8	18.8	21.6	16.4	16.8	14.4	10.4	8.0	4.0	6.4	4.4	1.6	1.6	0.4
	南部地域	249	63.9	48.2	35.3	30.1	25.7	23.3	17.3	11.6	8.0	9.6	6.4	3.2	3.2	2.8	2.4	0.8
	甲賀地域	98	60.2	43.9	34.7	45.9	23.5	11.2	17.3	18.4	16.3	7.1	9.2	6.1	5.1	2.0	2.0	-
	東近江地域	173	60.1	48.0	35.3	37.0	18.5	17.9	17.9	13.3	9.8	4.0	8.1	6.4	5.2	0.6	0.6	-
	湖東地域	123	62.6	51.2	37.4	21.1	18.7	26.8	15.4	17.9	15.4	5.7	2.4	3.3	0.8	1.6	1.6	0.8
	湖北地域	133	53.4	43.6	35.3	42.1	19.5	16.5	15.8	13.5	12.8	6.0	1.5	3.8	6.8	-	2.3	0.8
	高島地域	40	52.5	25.0	35.0	52.5	32.5	20.0	10.0	12.5	12.5	2.5	10.0	-	12.5	-	5.0	-

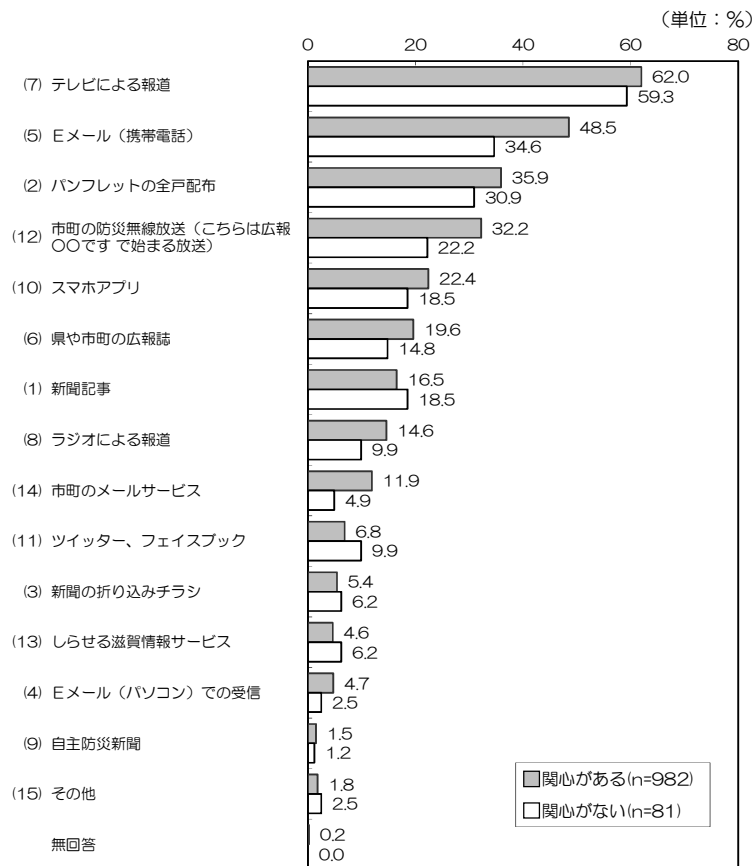
※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

地域別にみると、「市町の防災無線放送」は『甲賀地域』『湖北地域』『高島地域』では 4 割以上と高いが、『大津地域』『湖東地域』では 2 割前後と低くなっている。



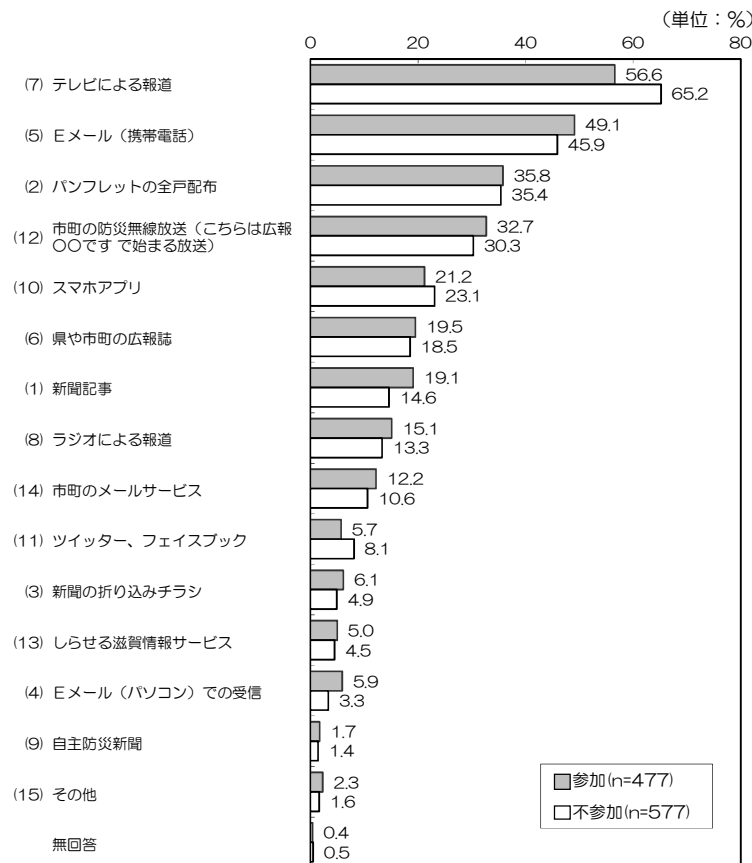
〔大規模地震に関する情報提供方法（大規模地震への関心度別）〕

大規模地震への関心度別にみると、『関心がある』の方が『関心がない』より高くなっている項目が多く、特に「Eメール（携帯電話）」で13.9ポイント、「市町の防災無線放送」で10.0ポイント高くなっている。



〔大規模地震に関する情報提供方法（地震防災訓練参加の有無別）〕

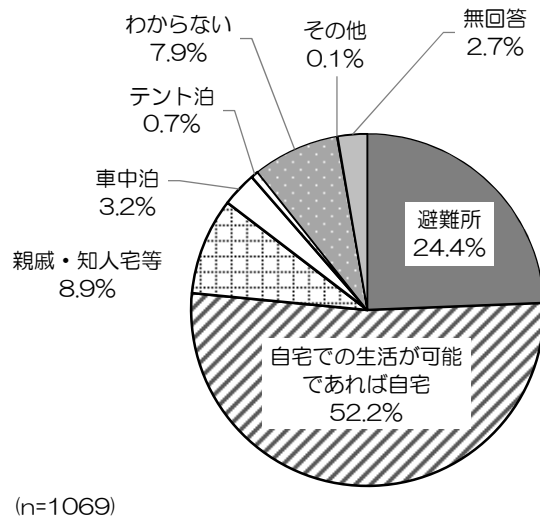
地震防災訓練参加の有無別にみると、『不参加』は『参加』より「テレビによる報道」が8.6ポイント高い。



## 2 避難所について

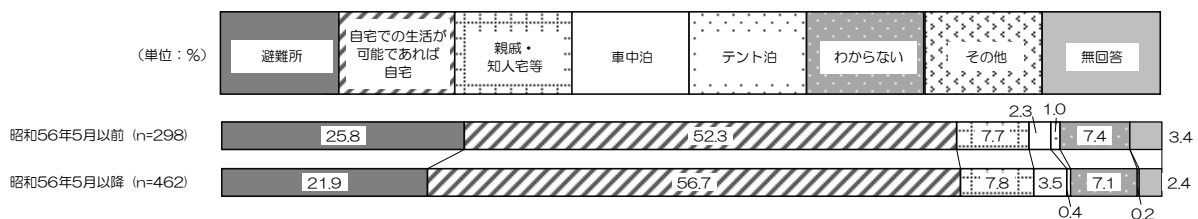
### (1) 避難生活をする場所

問5. 災害が発生した後、自宅が損壊した場合やライフラインが使えない場合、あなたはどこで避難生活をしますか。(〇は1つ)



避難生活をする場所についてたずねたところ、「自宅での生活が可能であれば自宅」が52.2%と半数以上を占めた。次いで、「避難所」(24.4%)、「親戚・知人宅等」(8.9%)、「わからない」(7.9%)の順となっている。

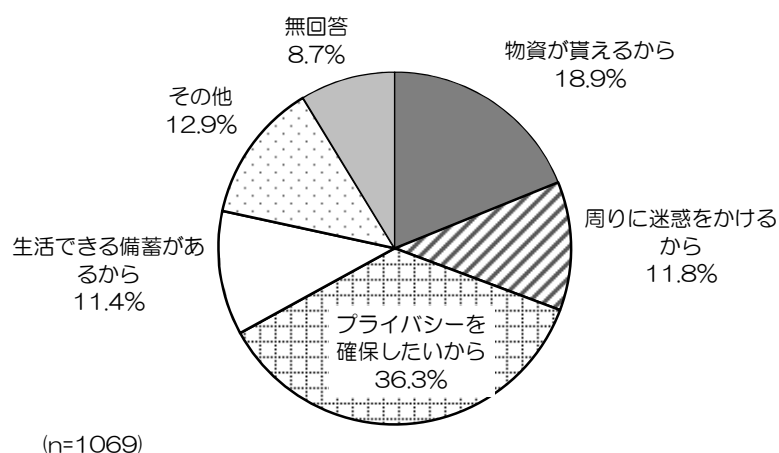
### 〔避難生活をする場所（木造建築着工時期別）〕



木造建築着工時期別にみると、『昭和56年5月以前』は『昭和56年5月以降』に比べて「避難所」が3.9ポイント高く、「自宅での生活が可能であれば自宅」が4.4ポイント低い。

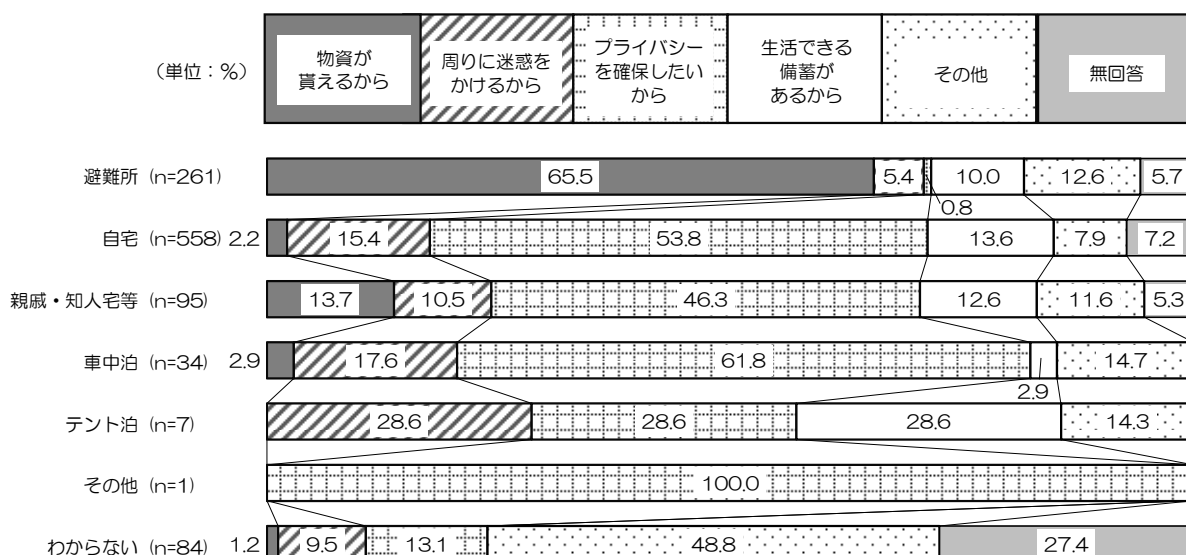
## (2) 避難生活をする場所を選んだ理由

問5-1. 問5で○をつけられた理由はどれですか。(○は1つ)



避難生活をする場所を選んだ理由についてたずねたところ、「プライバシーを確保したいから」(36.3%)、「物資が貰えるから」(18.9%)、「周りに迷惑をかけるから」(11.8%)、「生活できる備蓄があるから」(11.4%)の順となっている。

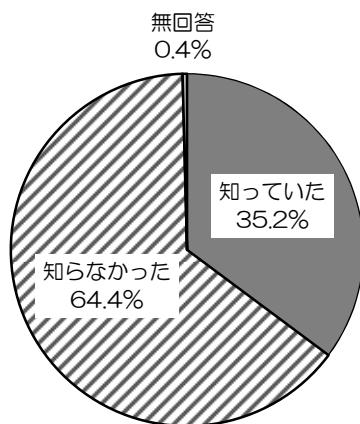
### 〔避難生活をする場所を選んだ理由 (避難生活の場所別)〕



避難生活の場所別にみると、『避難所』では「物資が貰えるから」が65.5%と非常に高い。『自宅』『親戚・知人宅等』『車中泊』では「プライバシーを確保したいから」がトップとなっている。

### (3) 避難所の運営主体の認知

問5-2. 避難所の運営は基本的に、そこで生活する避難者が行うということを知っていますか。(○は1つ)【問5で「1 避難所」を選んだ方のみ】

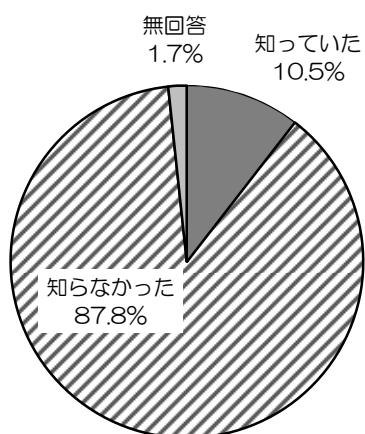


(n=261)

避難所の運営主体の認知についてたずねたところ、「知っていた」が35.2%で、約3分の2の64.4%が「知らなかった」としている。

### (4) 福祉避難所の認知

問6. 避難所には、一般避難所と福祉避難所があることを知っていますか。(○は1つ)

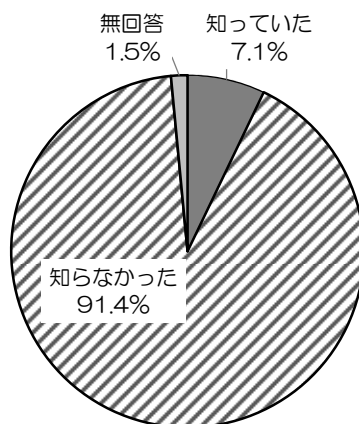


(n=1069)

福祉避難所の認知についてたずねたところ、「知っていた」は10.5%と約1割で、「知らなかった」が87.8%となっている。

## (5) 福祉避難所の開設方法認知

問6-1. 一般的に、福祉避難所は、一般避難所の避難者の状況により必要に応じて開設されるものであり、自宅等から直接避難することはできません。このことを知っていますか。(〇は1つ)

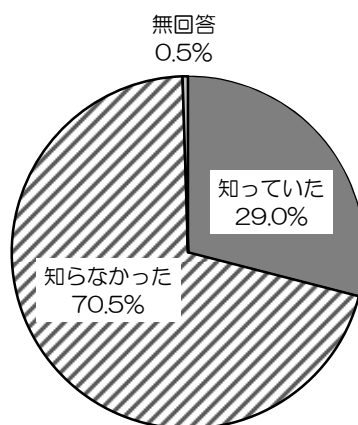


(n=1069)

福祉避難所の開設方法認知についてたずねたところ、「知っていた」は7.1%と1割以下で、「知らなかった」が91.4%となっている。

## (6) 避難場所と避難所の区別の認知

問7. 緊急に危険を避けるために避難する場所は「避難場所」、一時的に被災者が生活する場所は「避難所」として、2つは別のものとされています。このことを知っていますか。(〇は1つ)

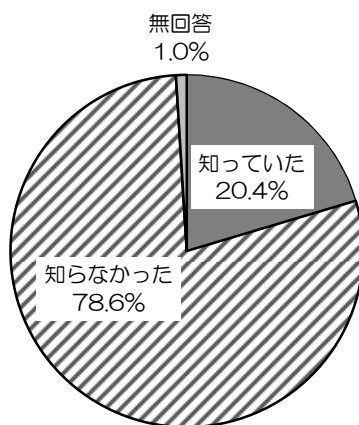


(n=1069)

避難場所と避難所の区別の認知についてたずねたところ、「知っていた」は29.0%と約3割で、「知らなかった」が70.5%となっている。

## (7) 要配慮者への合理的配慮の認知

問8. 平成28年4月に障害者差別解消法が施行され、災害時にも合理的配慮（女性、子ども、若者、高齢者、障害者、外国人等が、災害時に不都合を感じないように、過度の負担にならない範囲で必要かつ適当な変更や調整（配慮）を行うこと。）が求められていることを知っていますか。（○は1つ）

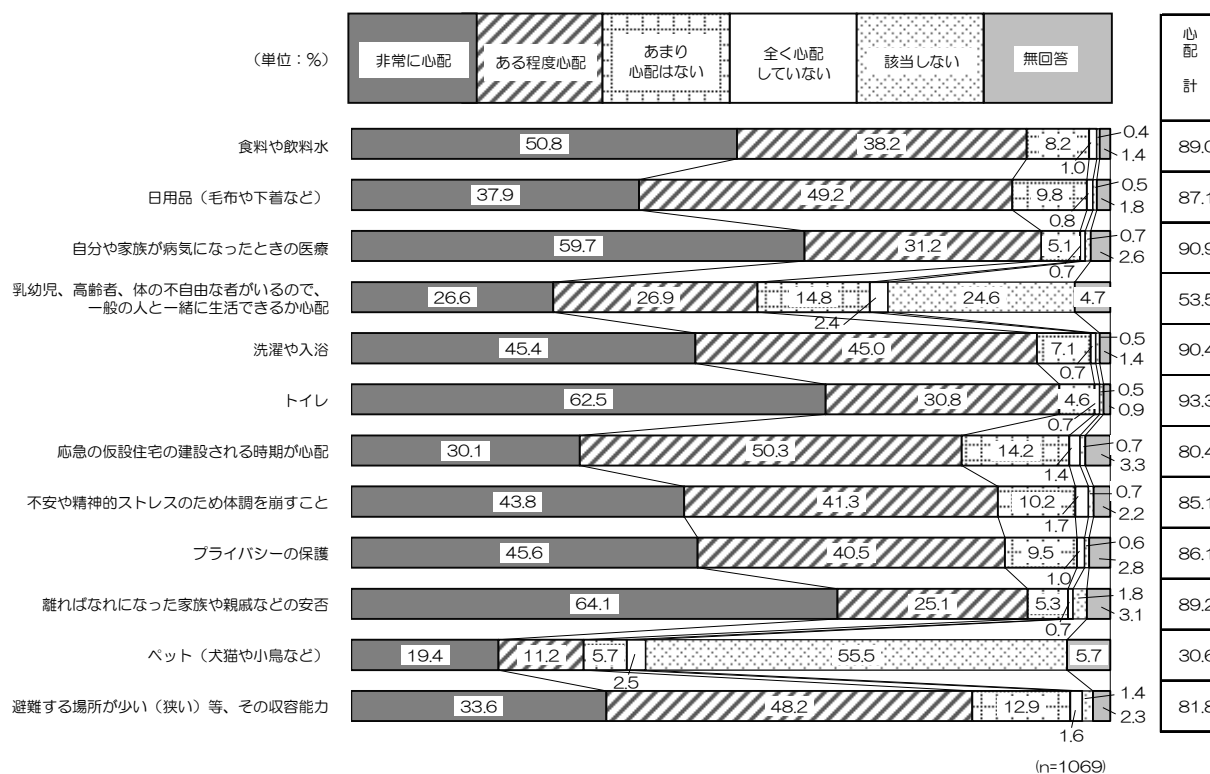


(n=1069)

要配慮者への合理的配慮の認知についてたずねたところ、「知っていた」は20.4%と約2割で、「知らなかった」が78.6%となっている。

## (8) 避難所生活での心配事

問9. あなたは避難所で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。(〇は1つ)



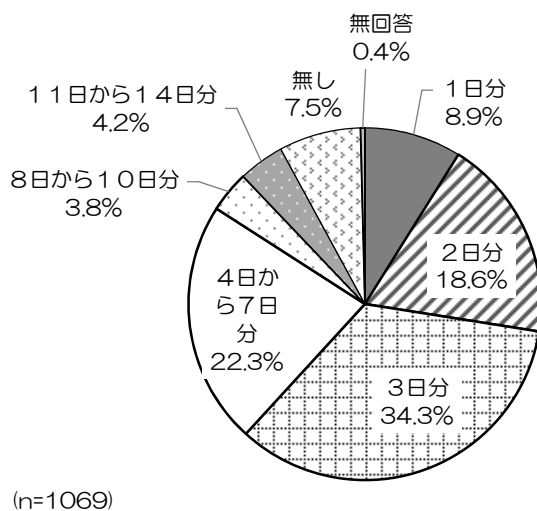
避難所生活での心配事についてたずねたところ、「非常に心配」では「離ればなれになった家族や親戚などの安否」(64.1%)、「トイレ」(62.5%)、「自分や家族が病気になったときの医療」(59.7%)、「食料や飲料水」(50.8%)の4項目が5割を超えていて高い。

「心配計」(「非常に心配」+「ある程度心配」)で見ると、「該当しない」が多い「乳幼児、高齢者、体の不自由な者がいるので、一般の人と一緒に生活できるか心配」「ペット」を除くと、「応急の仮設住宅の建設される時期が心配」「避難する場所が少ない(狭い)等、その収容能力」以外は85%以上となっている。

### 3 家庭での備蓄について

#### (1) 食料の備蓄日数

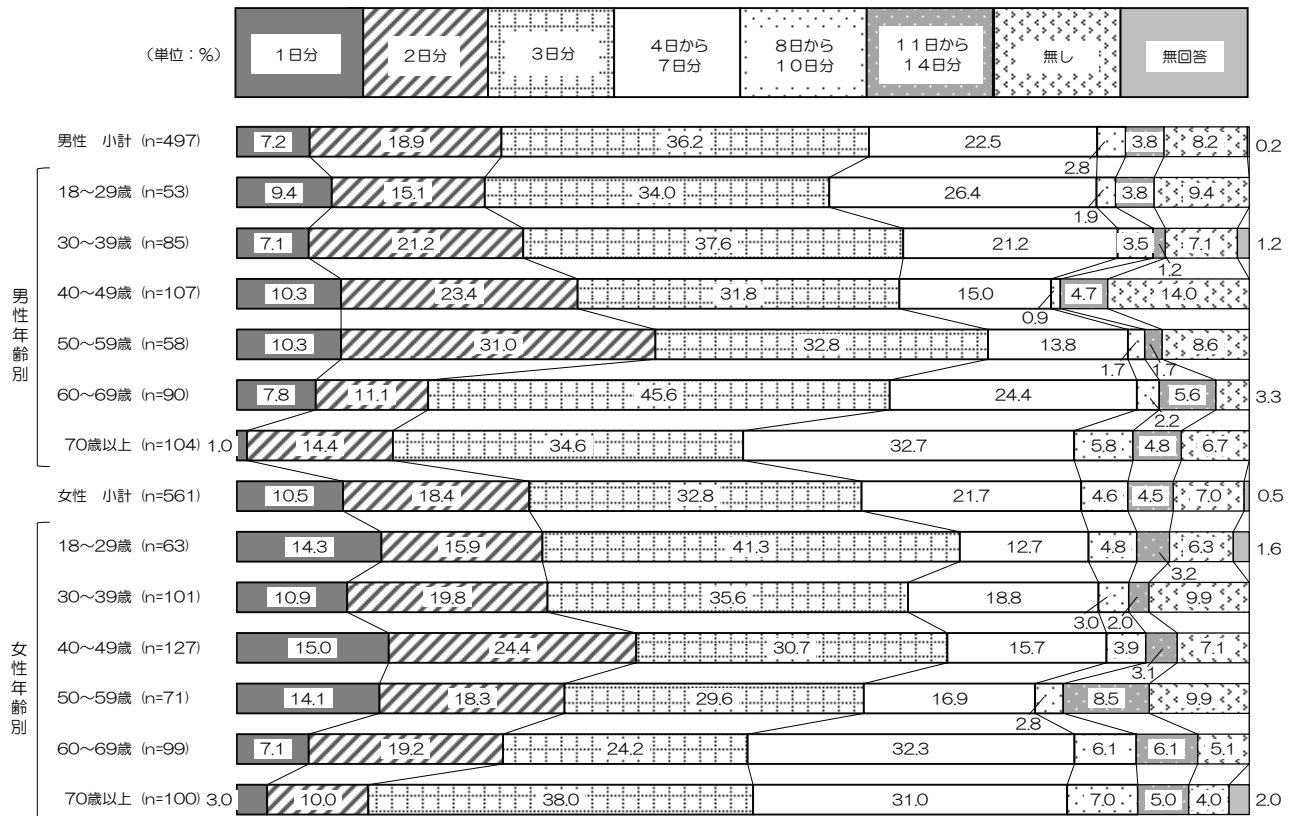
問10. 今、災害が発生したと仮定して、あなたのお宅では、利用できる食料は家族の何日分ありますか。(〇は1つ)



食料の備蓄日数についてたずねたところ、「3日分」が34.3%で最も高く、「4日から7日分」が22.3%で続いた。以下、「2日分」(18.6%)、「1日分」(8.9%)、「無し」(7.5%)の順となっている。「3日分」以上の合計は64.6%となっている。

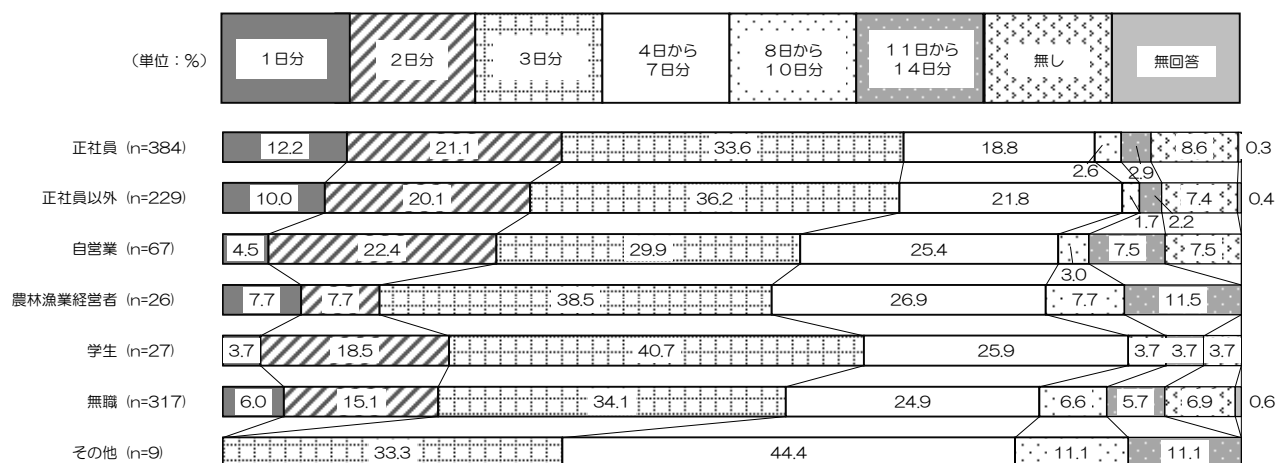


〔食料の備蓄日数（性・年齢別）〕



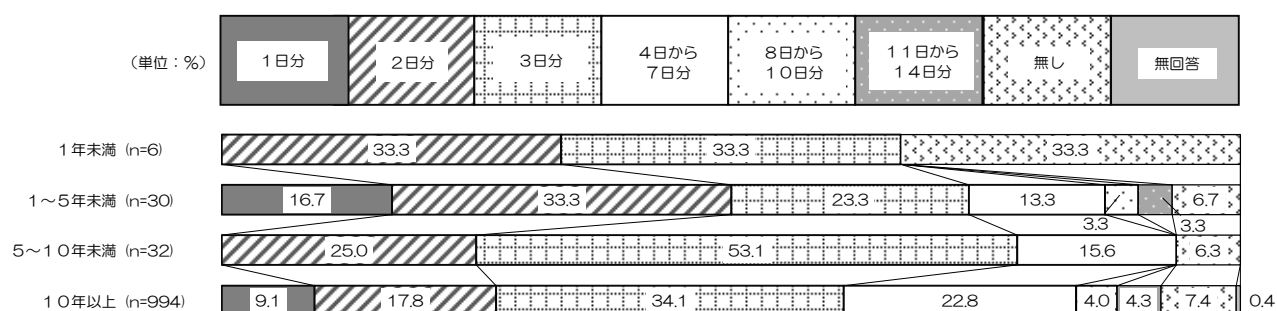
性・年齢別で見ると、『男性 60～69 歳』『男性 70 歳以上』『女性 70 歳以上』では 8 割前後が「3 日分」以上の備蓄をしているが、『男性 40～49 歳』『男性 50～59 歳』『女性 40～49 歳』では「3 日分」以上の備蓄をしているのは 5 割強にとどまっている。

〔食料の備蓄日数（職業別）〕



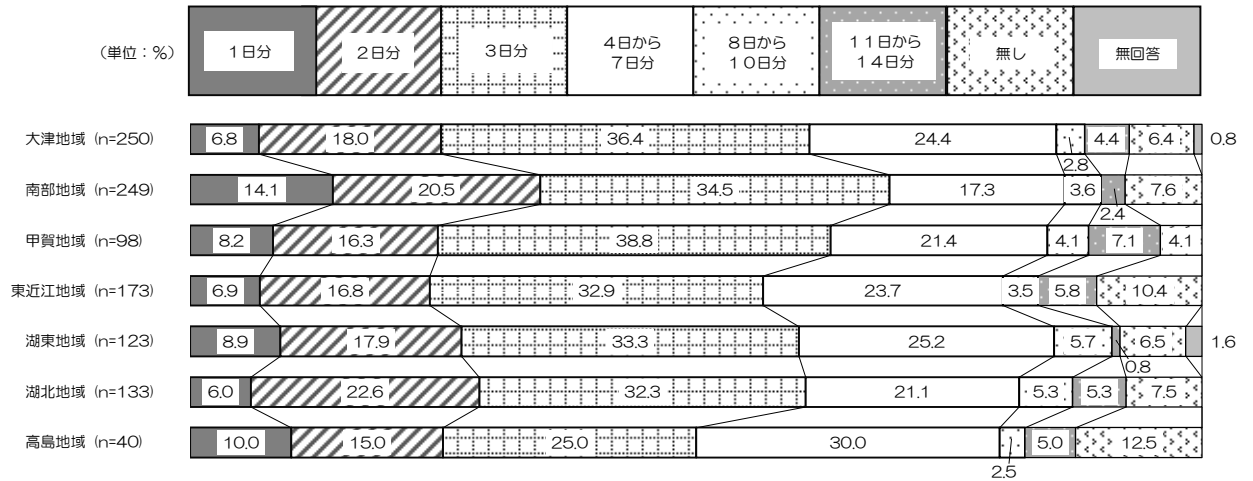
職業別でみると、『正社員』では、「3日分」以上の備蓄率が 57.9%と最も低い。

〔食料の備蓄日数（居住年数別）〕



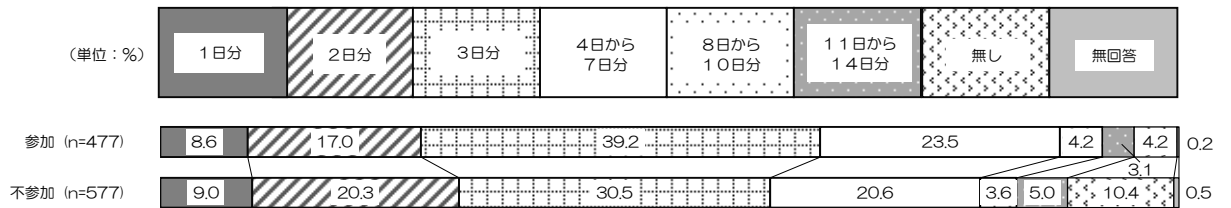
居住年数別でみると、『1～5年未満』では「3日分」以上の備蓄率が 43.2%と低い。（『1年未満』はサンプル数が少ないため、参考値とする。）

〔食料の備蓄日数（地域別）〕



地域別でみると、「3日分」以上の備蓄率は、『甲賀地域』で71.4%と最も高く、『南部地域』で57.8%と最も低くなっており、13.6ポイントの差がある。

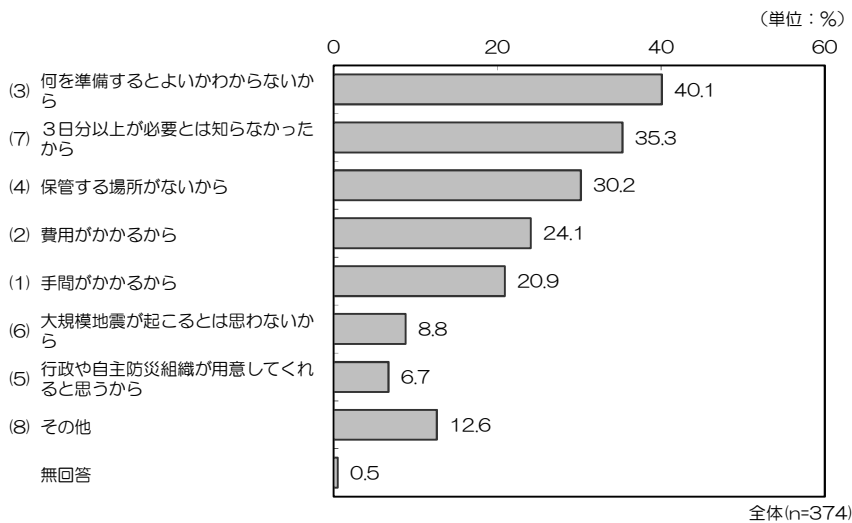
〔食料の備蓄日数（地震防災訓練参加の有無別）〕



地震防災訓練参加の有無別でみると、『参加』は『不参加』に比べて、「3日分」以上の備蓄率が10.3ポイント高くなっている。

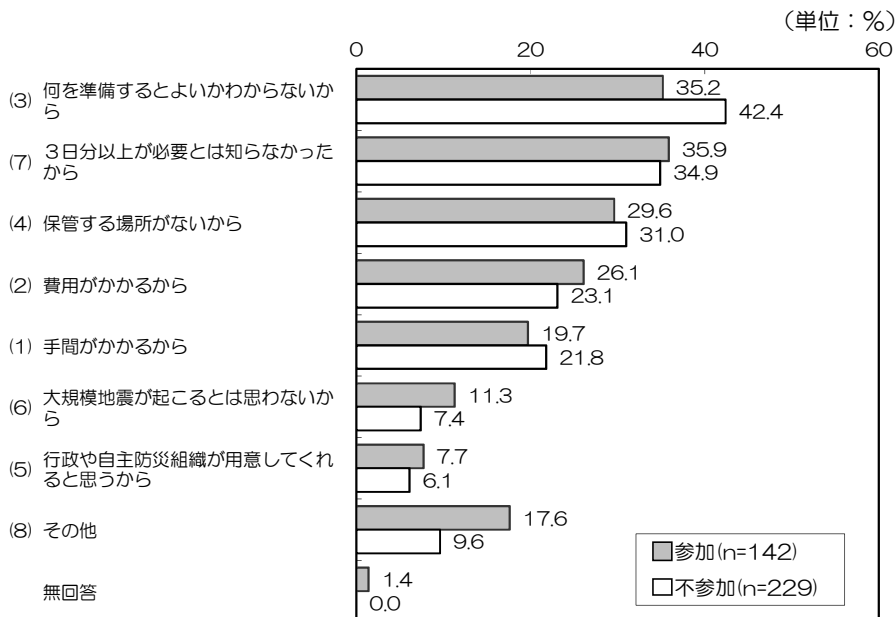
## (2) 食料を3日以上備蓄していない理由

問10-1. あなたのお宅で現在のところ3日以上以上の食料を用意してしないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)【問10で3日分未満に該当した方のみ】



食料を3日以上備蓄していない理由についてたずねたところ、「何を用意するとよいかわからないから」が40.1%で最も高く、以下、「3日以上が必要とは知らなかったから」(35.3%)、「保管する場所がないから」(30.2%)と続いている。

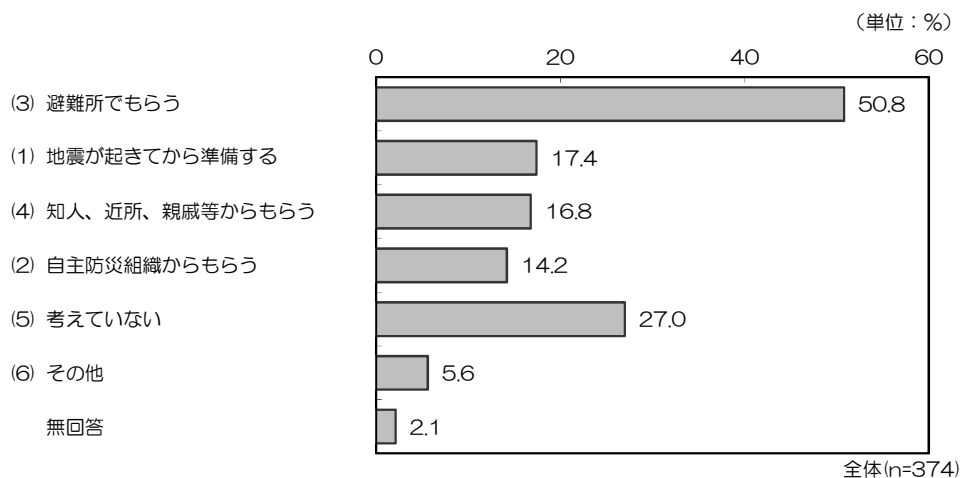
### 〔食料を3日以上備蓄していない理由(地震防災訓練参加の有無別)〕



地震防災訓練参加の有無別でみると、『不参加』は『参加』より「何を用意するとよいかわからないから」が7.2ポイント高くなっている。「3日以上が必要とは知らなかったから」は、参加の有無での差はほとんどみられない。

### (3) 食料を3日分以上備蓄していない人の確保手段

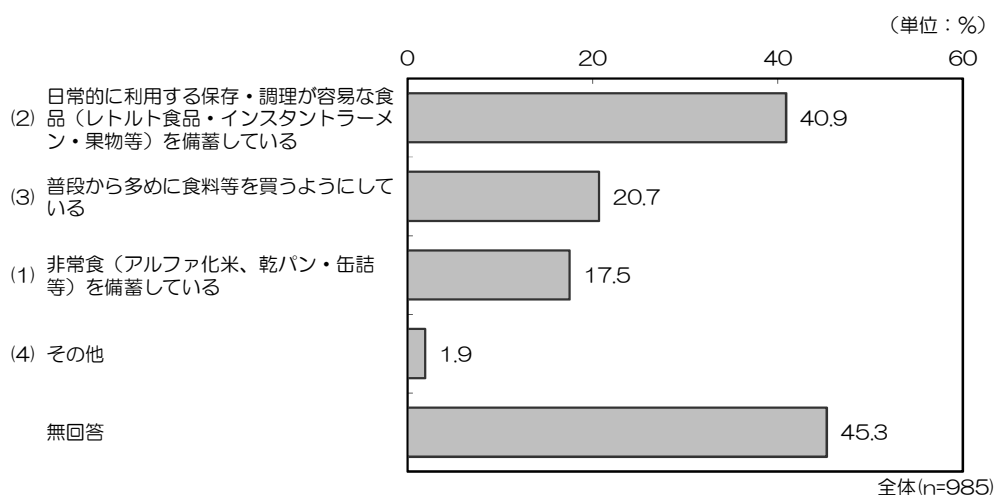
問10-2. 食料が必要となった場合はどのようにして確保しますか。(〇はいくつでも)  
【問10で3日分未満に該当した方のみ】



食料を3日分以上備蓄していない人の確保手段についてたずねたところ、「避難所でもらう」が50.8%と圧倒的に高かった。次いで、「考えていない」が27.0%となっている。

### (4) 備蓄食料の種類

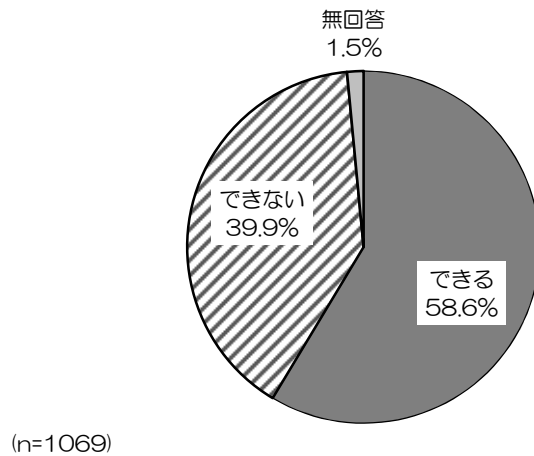
問10-3. 災害時に利用できる食料の用意のために何をしていますか。(〇はいくつでも)  
【問10で「7 無し」以外を選んだ方のみ】



備蓄食料の種類についてたずねたところ、「日常的に利用する保存・調理が容易な食品 (レトルト食品・インスタントラーメン・果物等) を備蓄している」が40.9%で最も高く、次いで、「普段から多めに食料等を買うようにしている」が20.7%となっており、非常食よりは日常利用する食料品の延長で用意している人が多いといえる。

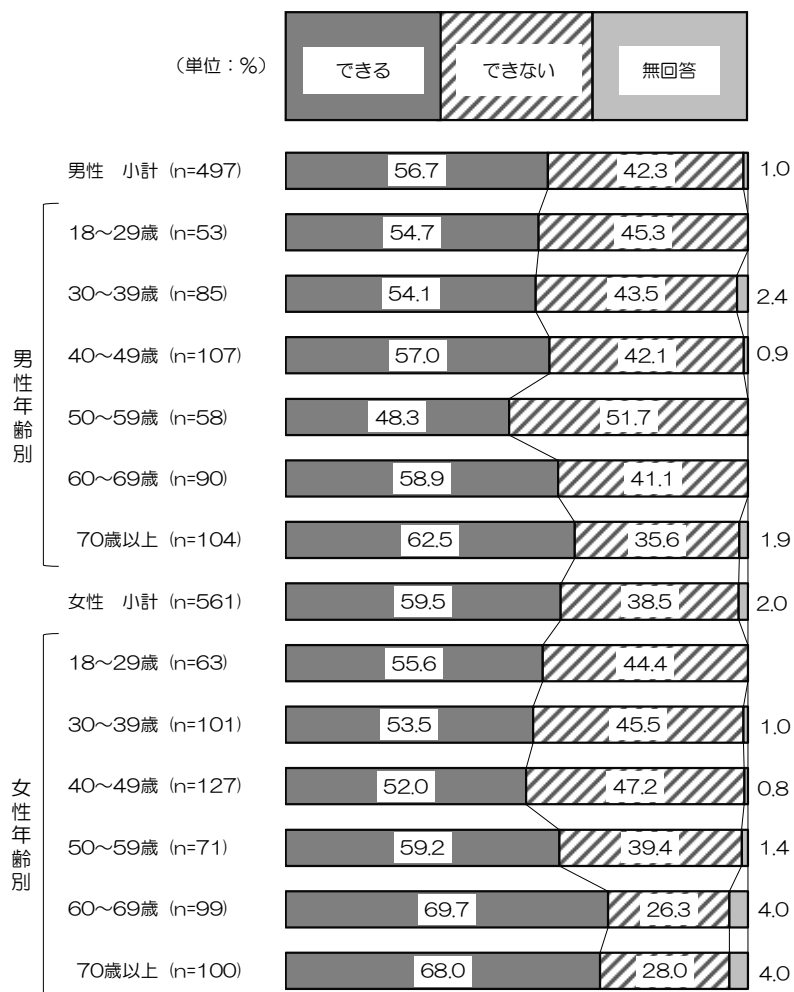
(5) 1週間を耐えしのご食料の有無

問11. 改めてお伺いします。あなたのお宅にある食料を全てかき集めれば（菜園があればそれも含む）、家族で1週間だけなら耐えしのご事はできますか。（○は1つ）



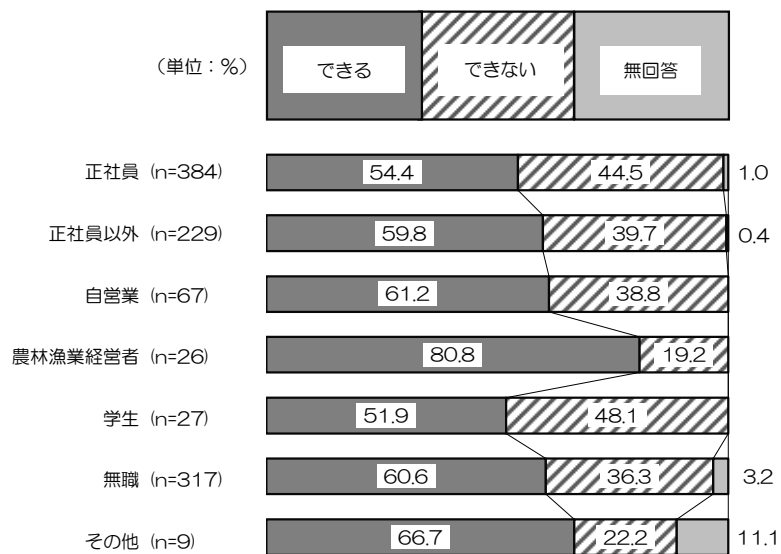
1週間を耐えしのご食料の有無についてたずねたところ、「できる」が58.6%と6割弱であった。

〔1週間を耐えしのご食料の有無（性・年齢別）〕



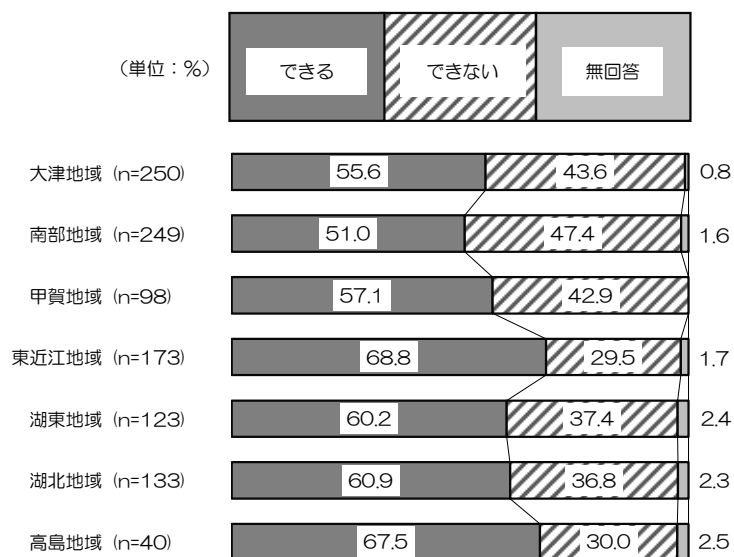
性・年齢別でみると、「できる」が最も高いのは『女性 60～69 歳』で 69.7%。『女性 70 歳以上』が 68.0%と僅差が続いている。男性でも『男性 70 歳以上』が 62.5%で最も高く、男女とも年配層で高い傾向となっている。最も低いのは、『男性 50～59 歳』で 48.3%である。

〔1週間を耐えしのぐ食料の有無（職業別）〕



職業別でみると、『農林漁業経営者』は「できる」が80.8%と非常に高いが、サンプル数が少ないため、参考値とする。

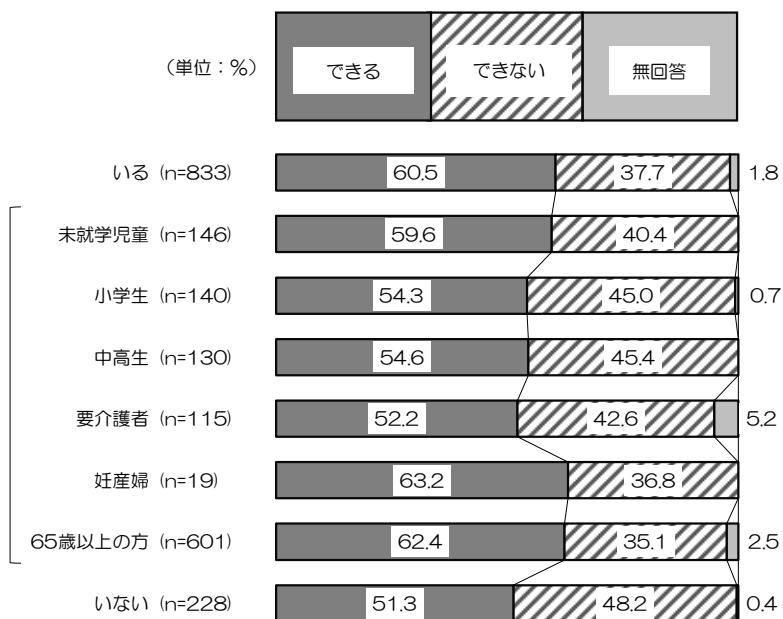
〔1週間を耐えしのぐ食料の有無（地域別）〕



地域別でみると、「できる」の割合が最も高いのは『東近江地域』で68.8%。『高島地域』も67.5%と高くなっている。最も低いのは『南部地域』で51.0%となっている。

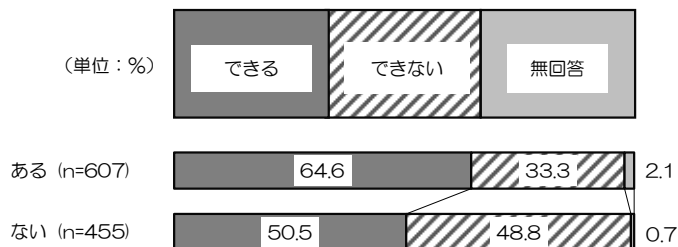


〔1週間を耐えしのご食料の有無（要配慮者の有無別）〕



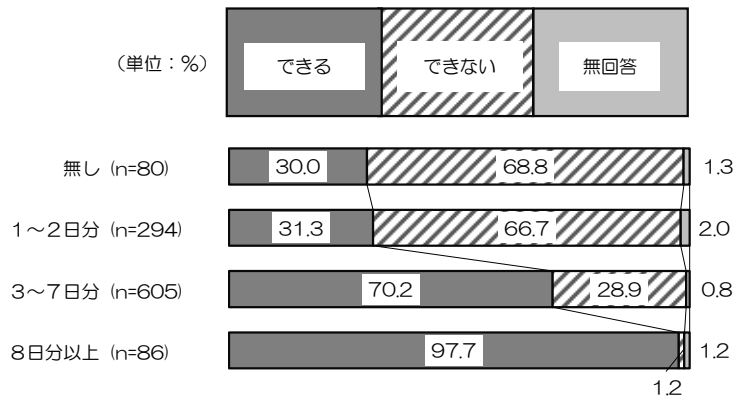
要配慮者の有無別でみると、「できる」は『いる』で60.5%、『いない』で51.3%と、9.2ポイントの差がみられた。要配慮者の中でも「できる」が高いのは、『65歳以上の方』で、62.4%となっている。（※『妊産婦』はサンプル数が少ないため、参考値とする。）

〔1週間を耐えしのご食料の有無（近所付き合いの有無別）〕



近所付き合いの有無別でみると、「できる」は『ある』で64.6%、『ない』で50.5%と、14.1ポイントの差がみられた。

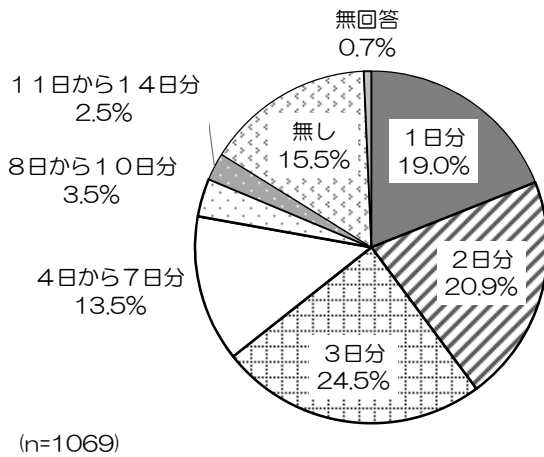
〔1週間を耐えしのご食料の有無（食料備蓄日数別）〕



食料備蓄日数別で見ると、既に『8日以上』の備蓄をしている層ではほぼ全員が「できる」としている。『3～7日分』では、「できる」としたのは70.2%であった。『無し』『1～2日分』ではいずれも「できる」が約3割と同程度であった。

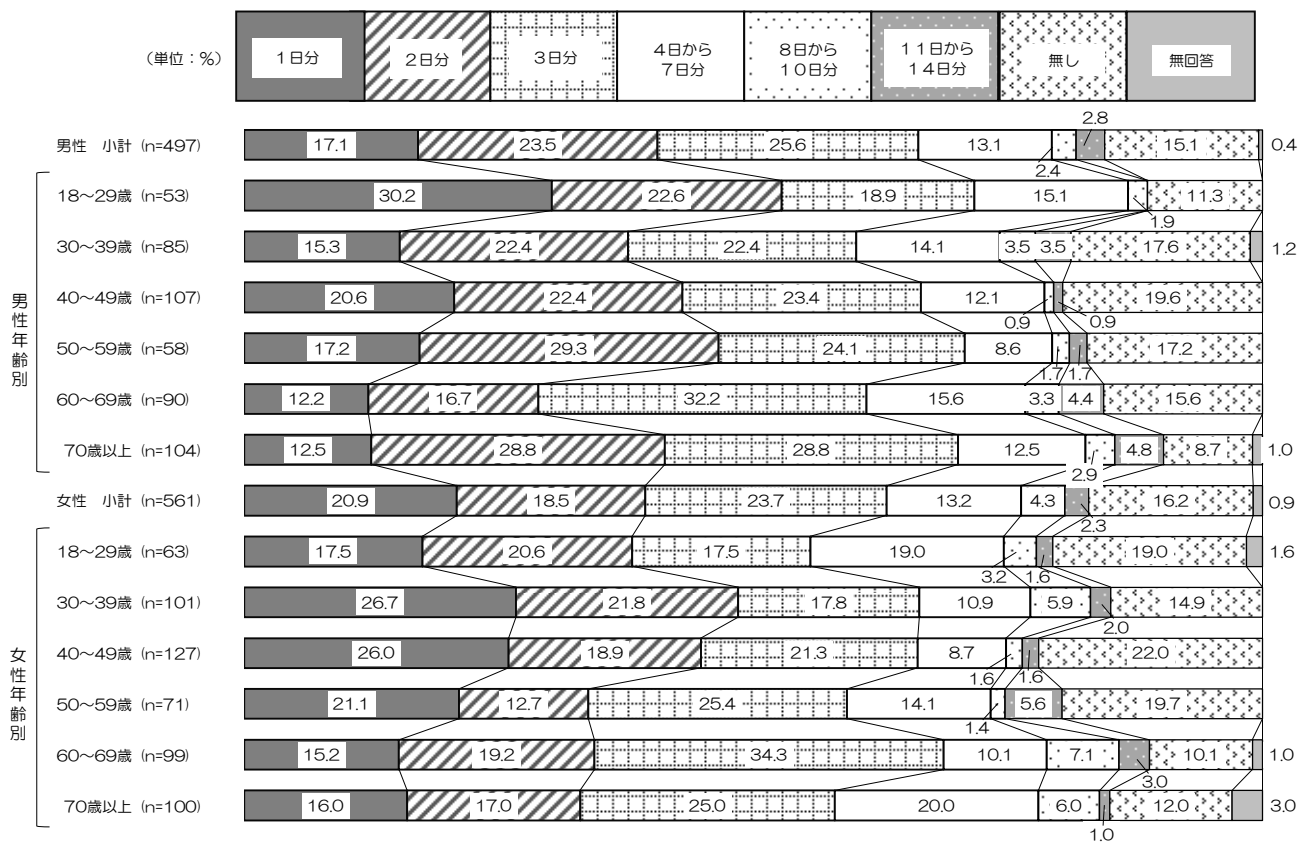
(6) 飲料水の備蓄日数

問12. あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。(〇は1つ)



飲料水の備蓄日数についてたずねたところ、「3日分」が24.5%で最も高く、「2日分」が20.9%で続いた。以下、「1日分」(19.0%)、「無し」(15.5%)、「4日から7日分」(13.5%)の順となっている。「3日分」以上の合計は44.0%となっている。

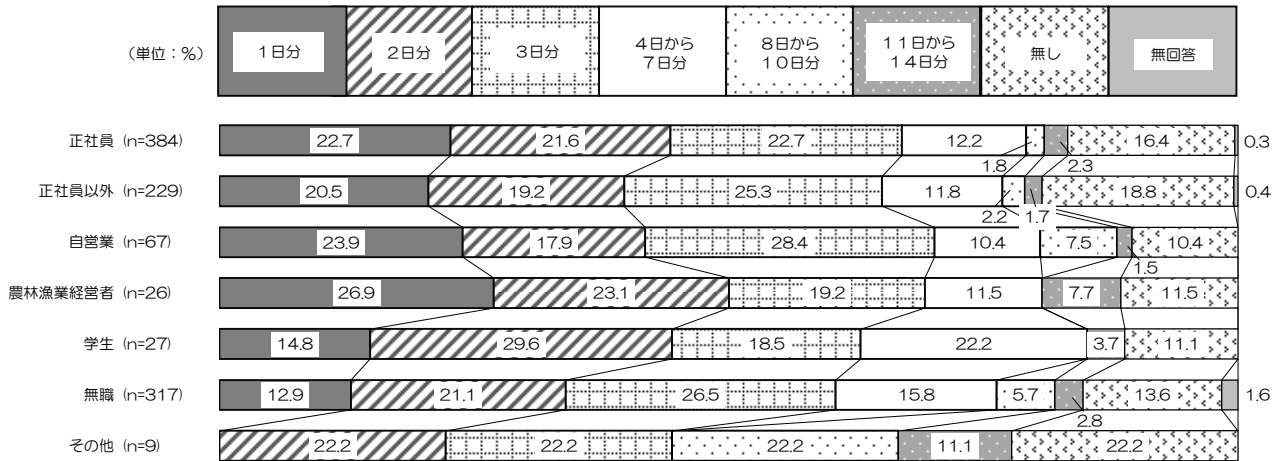
〔飲料水の備蓄日数（性・年齢別）〕



性・年齢別でみると、「3日分」以上の備蓄をしているのは、『男性 60～69 歳』『女性 60～69 歳』で約 55%と最も高くなっている。『男性 70 歳以上』『女性 70 歳以上』でも 5 割前後と高く、食料と同様、年配層での備蓄率が高い。

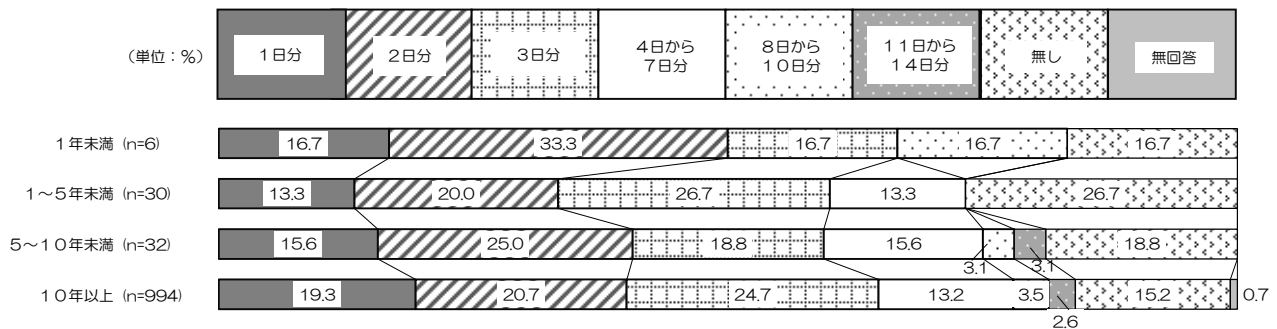
『女性 40～49 歳』では「3日分」以上の備蓄をしているのが 33.2%と最も低くなっている。『男性 18～29 歳』『男性 40～49 歳』『男性 50～59 歳』『女性 30～39 歳』でも 3 割台と低い。

〔飲料水の備蓄日数（職業別）〕



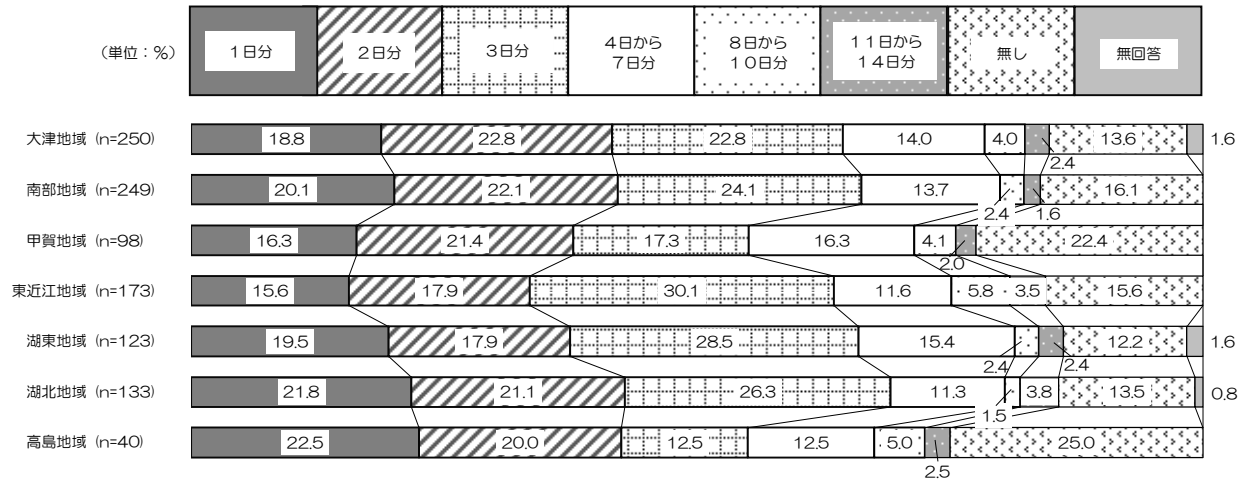
職業別で見ると、「3日分」以上の備蓄率が最も高いのは『無職』で50.8%、最も低いのは『正社員』で39.0%となっている。（※『農林漁業経営者』『その他』はサンプル数が少ないため、参考値とする。）

〔飲料水の備蓄日数（居住年数別）〕



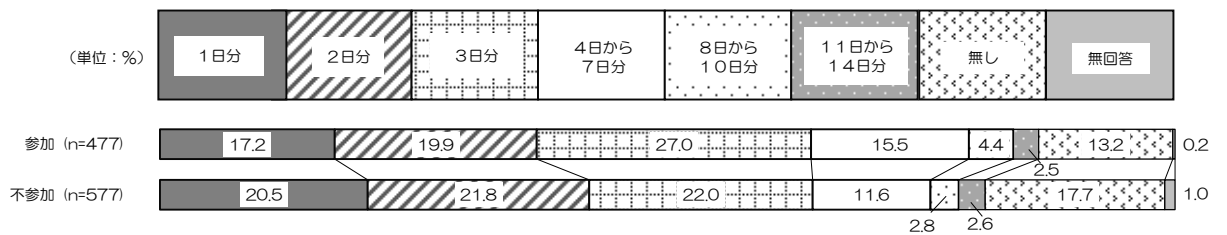
居住年数別で見ると、「3日分」以上の備蓄率は『10年以上』で44.0%と最も高いが、『1～5年未満』『5～10年未満』でも約4割と、差はあまり大きくない。（※『1年未満』はサンプル数が少ないため、参考値とする。）

〔飲料水の備蓄日数（地域別）〕



地域別でみると、「3日分」以上の備蓄率は、『東近江地域』で 51.0%と最も高く、『高島地域』で 32.5%と最も低くなっており、18.5 ポイントの差がある。

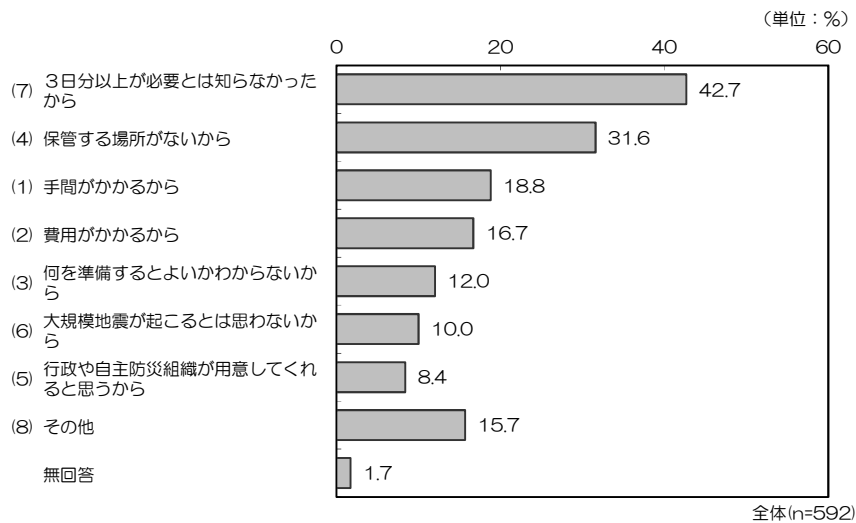
〔飲料水の備蓄日数（地震防災訓練参加の有無別）〕



地震防災訓練参加の有無別でみると、『参加』は『不参加』に比べて、「3日分」以上の備蓄率が 10.4 ポイント高くなっている。

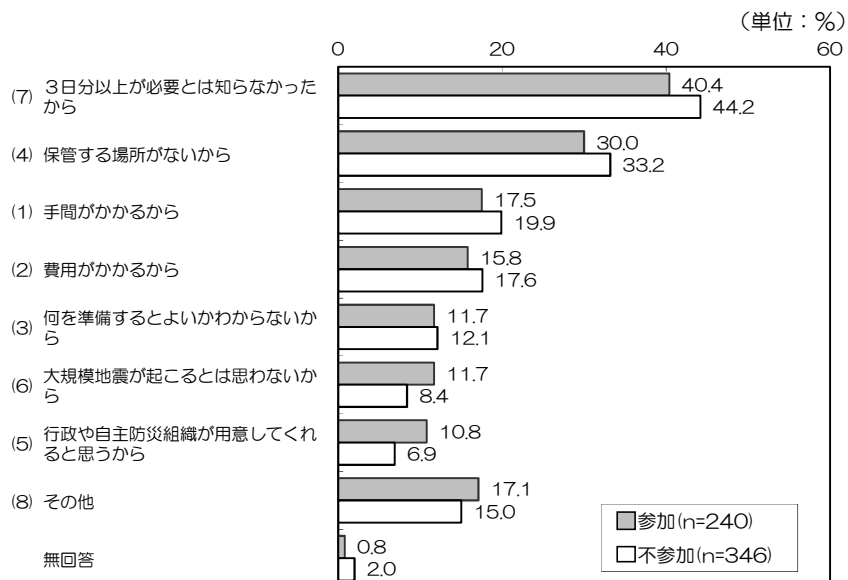
## (7) 飲料水を3日以上備蓄していない理由

問12-1. あなたのお宅で現在のところ3日以上飲料水を備蓄していないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)【問12で3日未満に該当した方のみ】



飲料水を3日以上備蓄していない理由についてたずねたところ、「3日以上が必要とは知らなかったから」が42.7%で最も高く、以下、「保管する場所がないから」(31.6%)、「手間がかかるから」(18.8%)、「費用がかかるから」(16.7%)の順となっている。

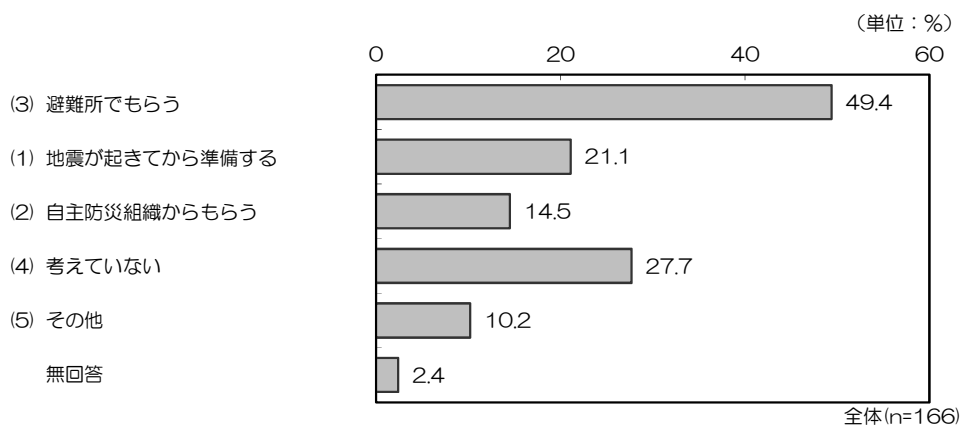
### 〔飲料水を3日以上備蓄していない理由(地震防災訓練参加の有無別)〕



地震防災訓練参加の有無別でみると、『不参加』は『参加』より「3日以上が必要とは知らなかったから」が3.8ポイント高くなっている。一方、「行政や自主防災組織が用意してくれると思うから」は、『参加』が『不参加』より3.9ポイント高くなっている。

## (8) 飲料水を1日分も備蓄していない人の確保手段

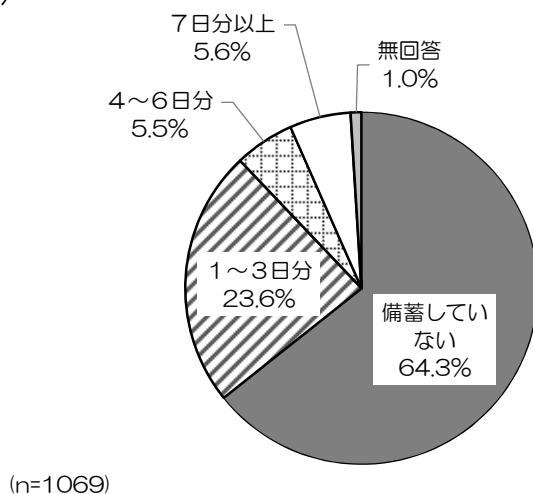
問12-2. 飲料水が必要となった場合はどのようにして確保しますか。(〇はいくつでも)  
【問12で「7 無し」を選んだ方のみ】



飲料水を1日分も備蓄していない人の確保手段についてたずねたところ、「避難所でもらう」が49.4%と圧倒的に高かった。次いで、「考えていない」が27.7%となっている。

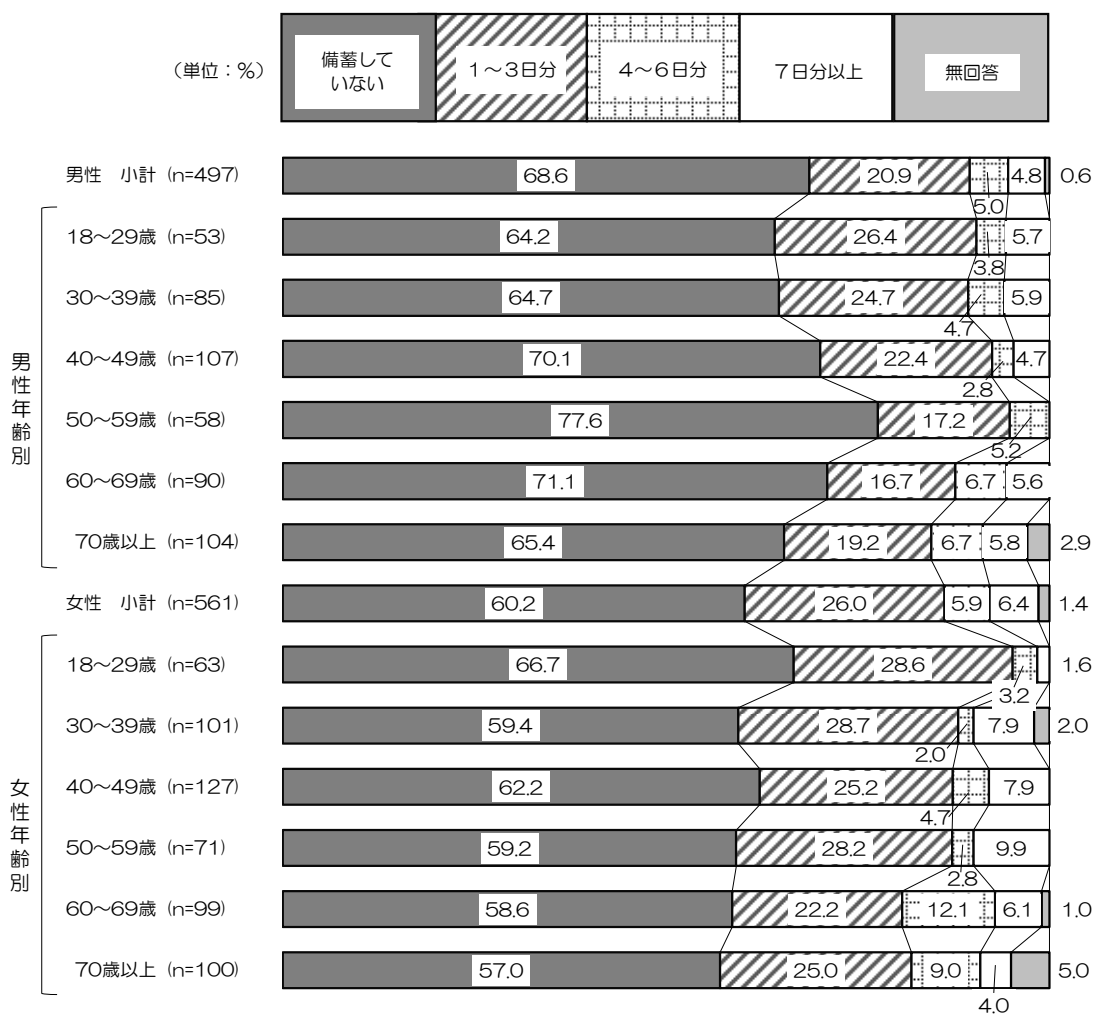
## (9) 携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数

問13. あなたのお宅では、何日分の携帯トイレ・簡易トイレ（ビニール袋などによる代用を含む）を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり5回分で計算してください。  
(〇は1つ)



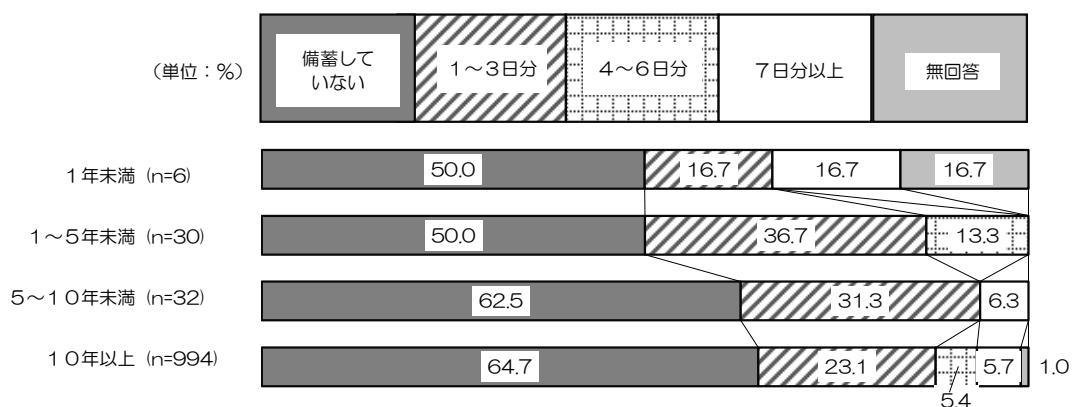
携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数についてたずねたところ、「備蓄していない」が64.3%と6割以上を占めた。次いで、「1~3日分」が23.6%となっている。備蓄がある人の合計は34.7%である。

〔携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数（性・年齢別）〕



性・年齢別でみると、備蓄がある人の合計は、『男性』の30.7%に対し、『女性』は38.3%と、7.6ポイント高い。特に、『女性 50～59歳』『女性 60～69歳』では、40%台と高くなっている。

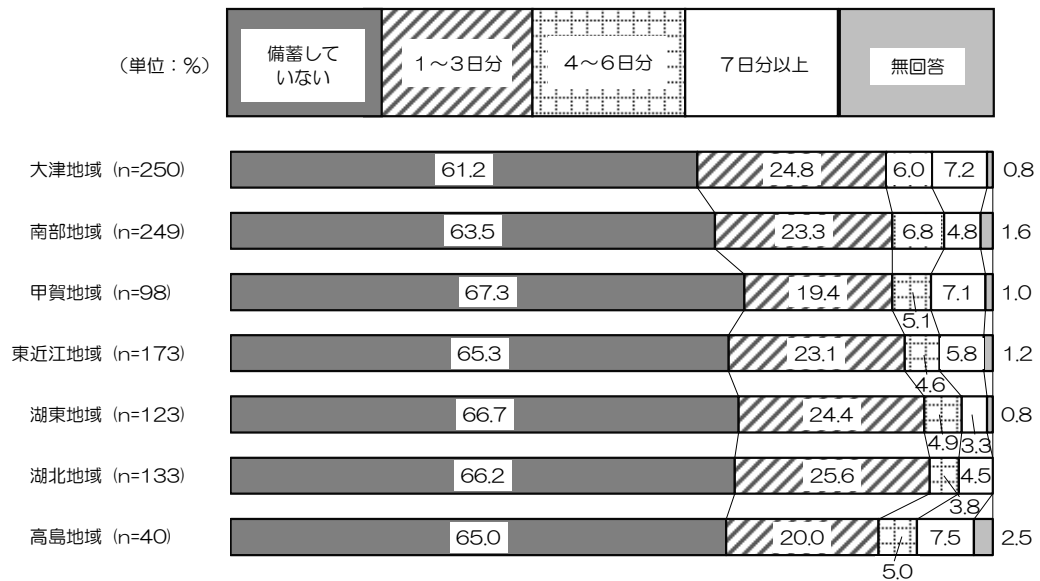
〔携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数（居住年数別）〕



居住年数別でみると、『1～5年未満』で備蓄率が50.0%と最も高い。

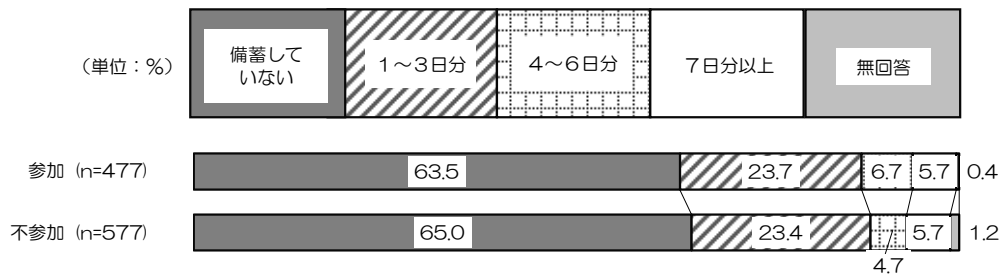


〔携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数（地域別）〕



地域別でみると、備蓄がある人の合計はいずれの地区でも3割台だが、『大津地域』で38.0%と最も高く、『甲賀地域』で31.6%と最も低い。

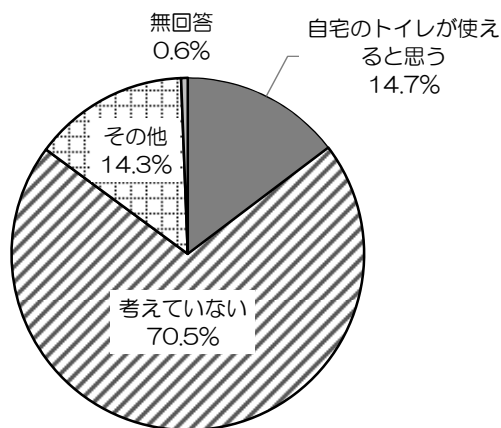
〔携帯トイレ・簡易トイレの備蓄日数（地域防災訓練参加の有無別）〕



地域防災訓練参加の有無別でみると、備蓄率は『参加』で36.1%、『不参加』で33.8%と、『参加』の方がやや高い。

(10) 被災時のトイレの対応

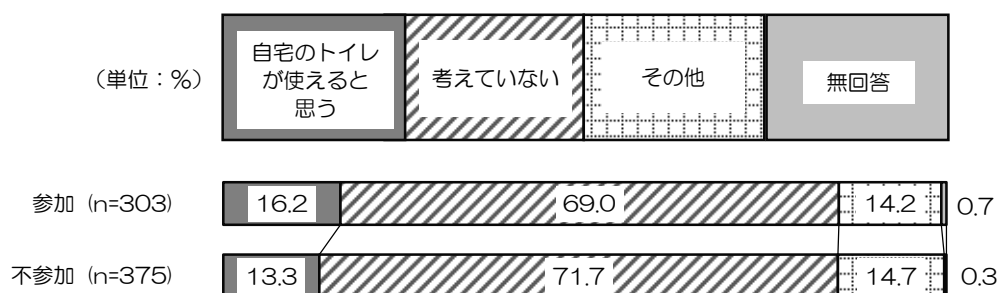
問13-1. 被災時にはどのような対応を想定していますか。(〇は1つ)【問13で「1 備蓄していない」を選んだ方のみ】



(n=687)

被災時のトイレの対応についてたずねたところ、「考えていない」が70.5%と多数を占め、「自宅のトイレが使えると思う」が14.7%となった。

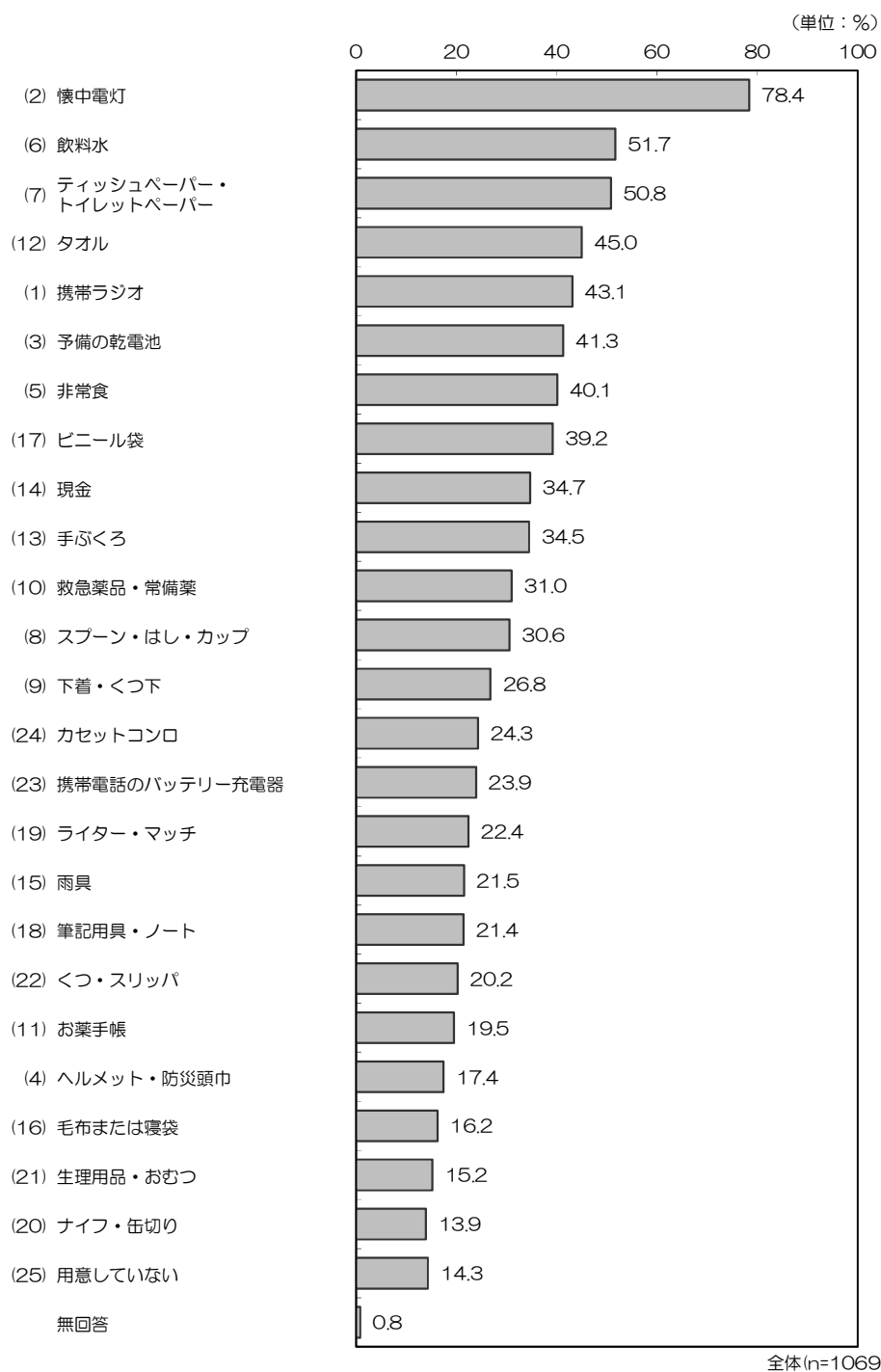
〔被災時のトイレの対応（地震防災訓練参加の有無別）〕



地域防災訓練参加の有無別で見ると、「自宅のトイレが使えると思う」は『参加』が2.9ポイント、「考えていない」は『不参加』が2.7ポイント高くなっている。

## (11) 用意している持ち出し品

問14. 非常持出品として何を用意していますか。(〇はいくつでも)

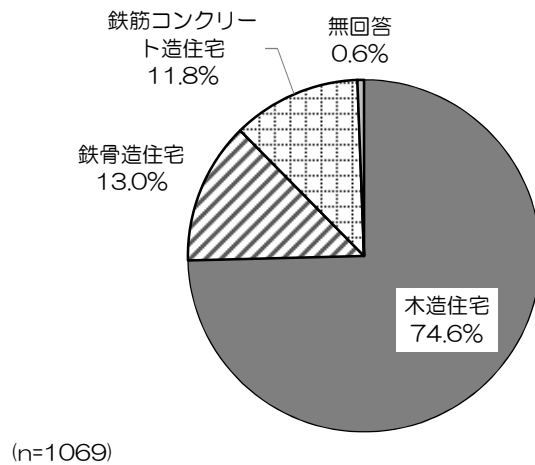


用意している持ち出し品についてたずねたところ、「懐中電灯」が78.4%で特に高く、以下、「飲料水」(51.7%)、「ティッシュペーパー・トイレットペーパー」(50.8%)、「タオル」(45.0%)、「携帯ラジオ」(43.1%)、「予備の乾電池」(41.3%)、「非常食」(40.1%)の順となっている。

## 4 建物・家財の防災対策について

### (1) 住居構造

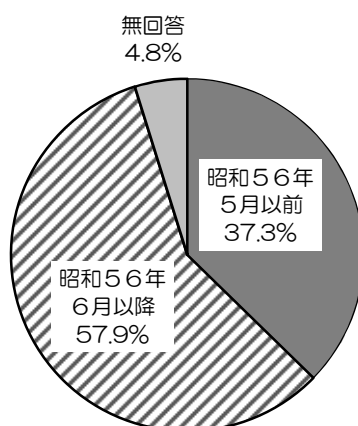
問15. あなたのお住まいの家は、次のどれにあたりますか。(〇は1つ)



住居構造についてたずねたところ、「木造住宅」が74.6%と多数を占めており、「鉄骨造住宅」が13.0%、「鉄筋コンクリート造住宅」が11.8%となっている。

## (2) 木造建築の着工年時

問15-1. あなたのお住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。工事に着手した時点でお答えください。(○は1つ)【問15で「1 木造住宅」を選んだ方のみ】

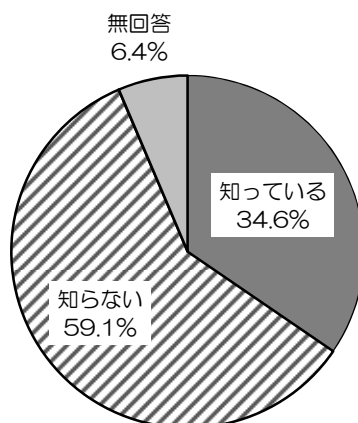


(n=798)

木造住宅の着工年時についてたずねたところ、「昭和56年6月以降」が57.9%と過半数を占め、「昭和56年5月以前」は37.3%であった。

## (3) 無料耐震診断の認知

問15-2. 県内の市町では、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料(条件あり)で実施していることを知っていますか。(○は1つ)【問15-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方のみ】

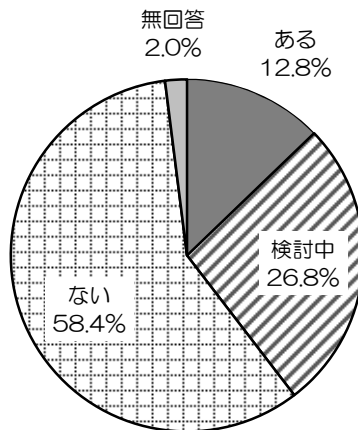


(n=298)

無料耐震診断の認知についてたずねたところ、「知らない」が59.1%と過半数を占め、「知っている」は34.6%であった。

#### (4) 耐震診断実施経験の有無

問15-3. これまでにあなたのお宅の耐震診断をしたこと、または、今後する予定がありますか。(○は1つ)【問15-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方のみ】

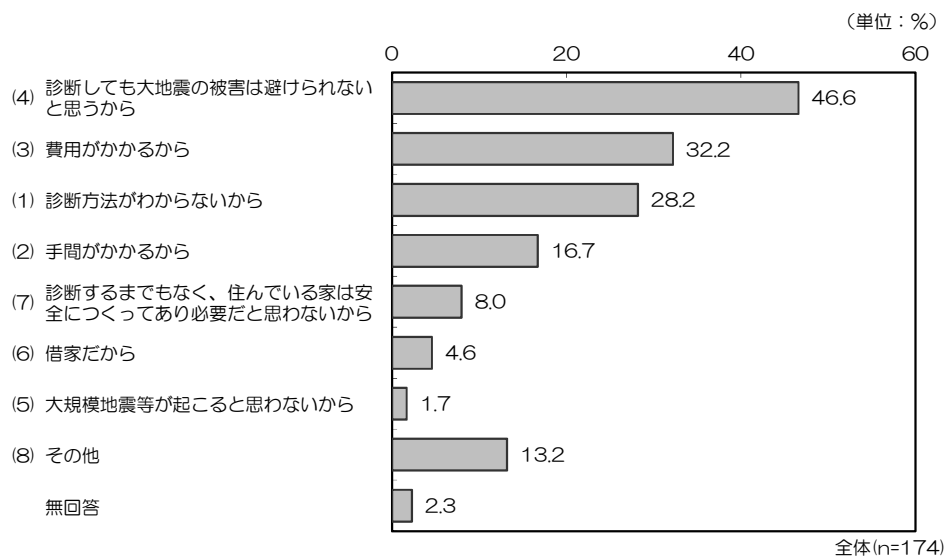


(n=298)

耐震診断実施経験の有無についてたずねたところ、「ない」が58.4%で最も高く、「検討中」が26.8%、「ある」が12.8%であった。

#### (5) 耐震診断をしない理由

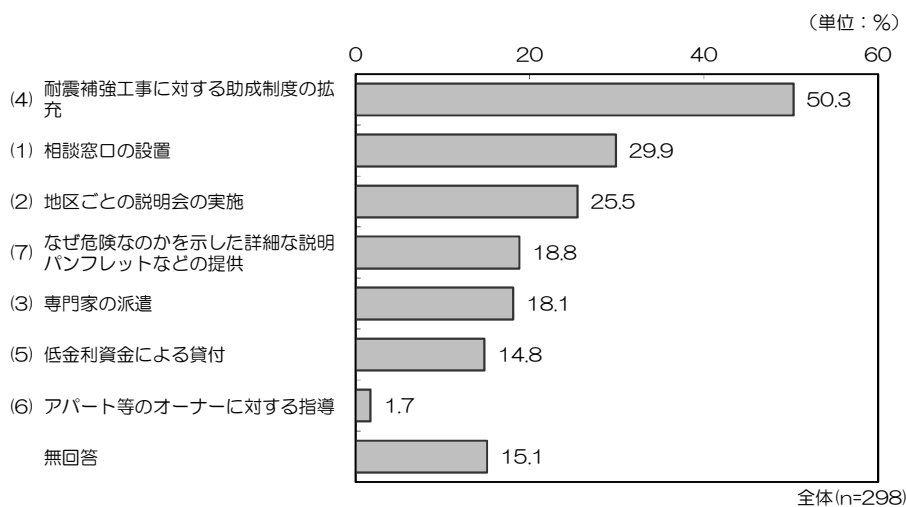
問15-4. 耐震診断をしない、または、今後する予定が無いのはなぜですか。(○はいくつでも)【問15-3で「3 ない」を選んだ方のみ】



耐震診断をしない理由についてたずねたところ、「診断しても大地震の被害は避けられないと思うから」が46.6%で最も高い。次いで、「費用がかかるから」(32.2%)、「診断方法がわからないから」(28.2%)の順となっている。

## (6) 耐震化についての要望

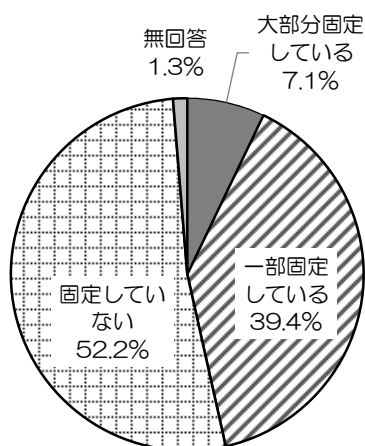
問15-5. 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがありますか。(〇はいくつでも)【問15-1で「1 昭和56年5月以前」を選んだ方のみ】



耐震化についての要望についてたずねたところ、「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」が50.3%で特に高い。次いで、「相談窓口の設置」(29.9%)、「地区ごとの説明会の実施」(25.5%)の順となっている。

## (7) 家具の固定状況

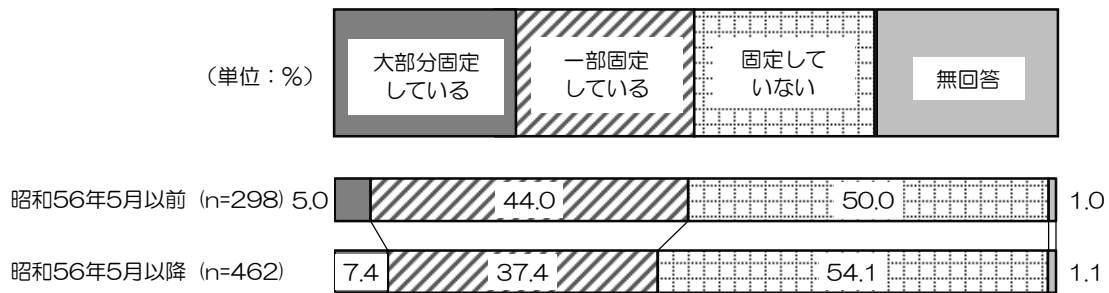
問16. あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。(〇は1つ)



(n=1069)

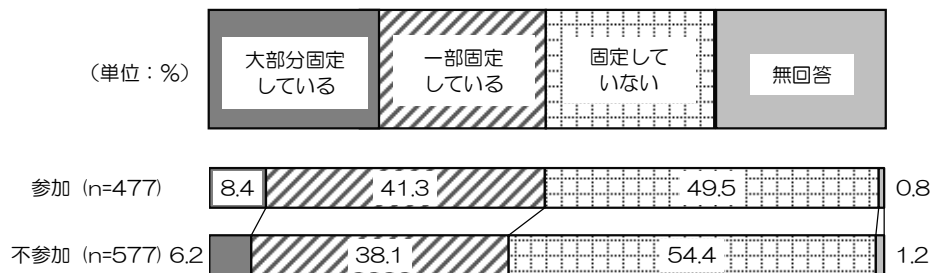
家具の固定状況についてたずねたところ、「固定していない」が52.2%で最も高く、「一部固定している」が39.4%、「大部分固定している」は7.1%と1割未満であった。

〔家具の固定状況（木造建築着工時期別）〕



木造建築着工時期別でみると、「固定していない」は『昭和56年5月以降』で54.1%と、『昭和56年5月以前』より4.1ポイント高くなっている。

〔家具の固定状況（地震防災訓練参加の有無別）〕

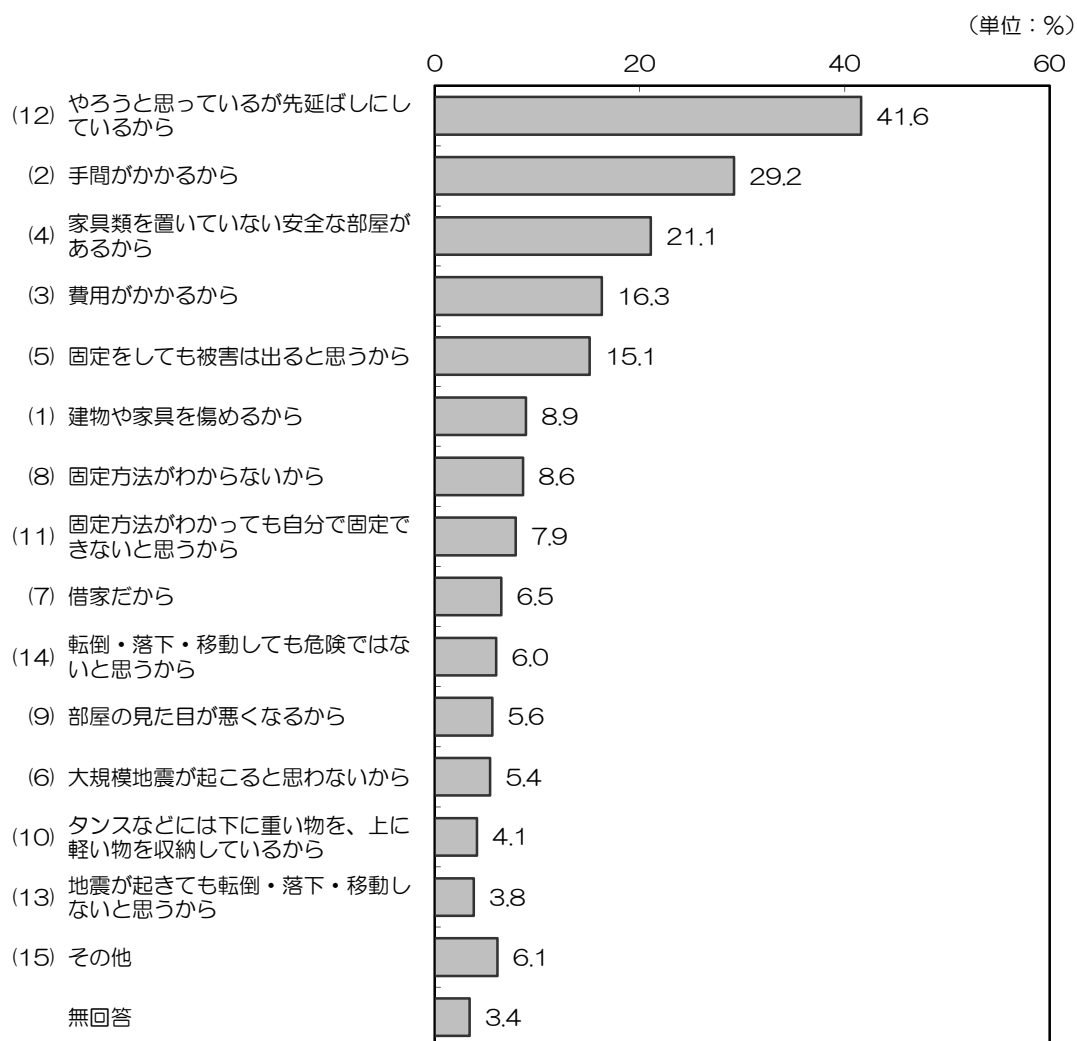


地震防災訓練参加の有無別でみると、「固定していない」は『不参加』で54.4%と、『参加』より4.9ポイント高くなっている。



## (8) 家具を固定していない理由

問16-1. 家具類の固定をしていないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)  
【問16で「2 一部固定している」または「3 固定していない」を選んだ方のみ】

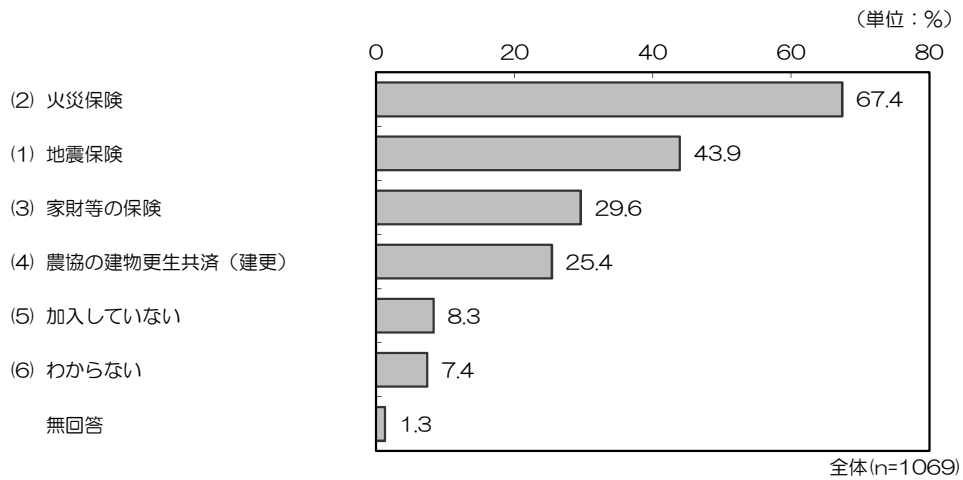


全体(n=979)

家具を固定していない理由についてたずねたところ、「やろうと思っているが先延ばしにしているから」が41.6%で最も高くなっている。以下、「手間がかかるから」(29.2%)、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」(21.1%)と続いている。

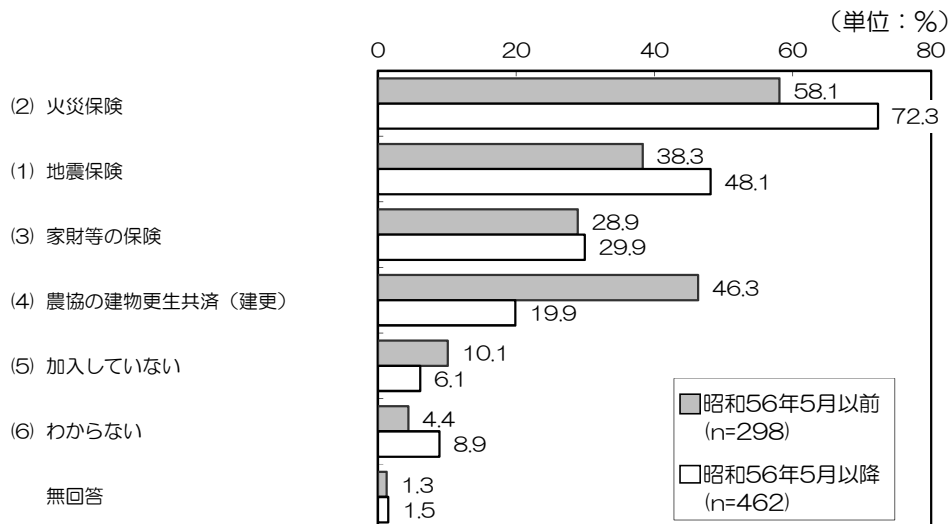
(9) 建物や家財に関する保険への加入状況

問17. あなたのお宅はどのような建物や家財に関わる保険に加入していますか。(〇はいくつでも)



建物や家財に関する保険への加入状況についてたずねたところ、「火災保険」が最も高く67.4%、「地震保険」が43.9%で続いている。

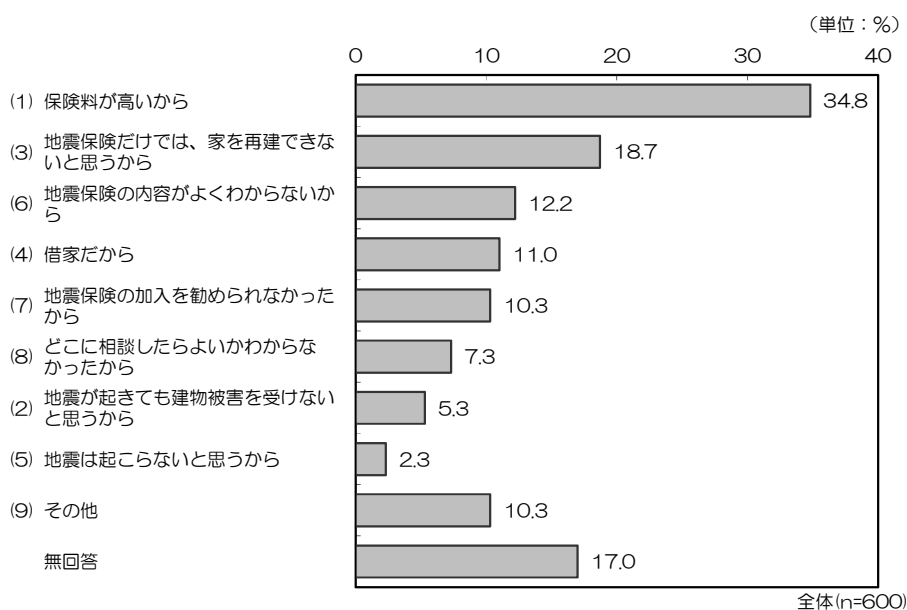
〔建物や家財に関する保険への加入状況(木造建築着工時期別)〕



木造建築着工時期別でみると、『昭和56年5月以降』は「火災保険」で14.2ポイント、「地震保険」で9.8ポイント、『昭和56年5月以前』より高くなっている。『昭和56年5月以前』は、「農協の建物更生共済(建更)」で26.4ポイント、『昭和56年5月以降』より高くなっている。

## (10) 地震保険未加入理由

問17-1. 地震保険に加入していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)【問17で「1 地震保険」を選ばなかった方のみ】

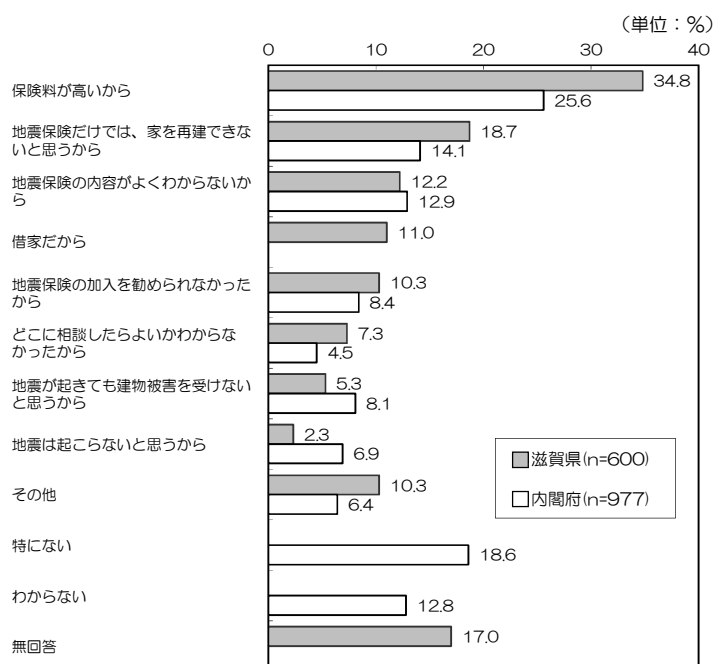


地震保険未加入理由についてたずねたところ、「保険料が高いから」が34.8%で最も高く、「地震保険だけでは、家を再建できないと思うから」が18.7%で続いている。

### 〔地震保険未加入理由（内閣府調査との比較）〕

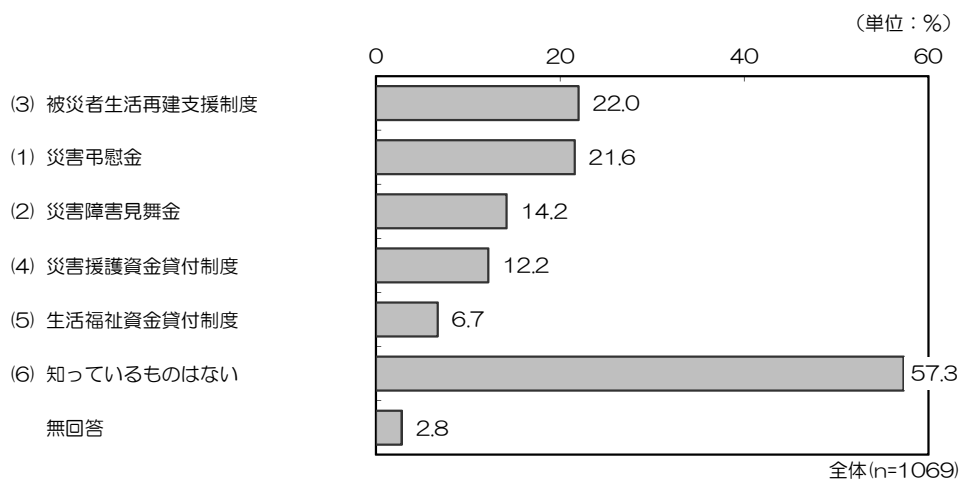
内閣府調査との比較でみると、『滋賀県』は「保険料が高いから」が9.2ポイント、「地震保険だけでは、家を再建できないと思うから」が4.6ポイント、『内閣府』より高くなっている。

『内閣府』は、「地震は起こらないと思うから」が『滋賀県』より4.6ポイント高い。



## (11) 生活再建支援制度の認知

問18. 生活再建支援制度で知っているものはありますか。(〇はいくつでも)

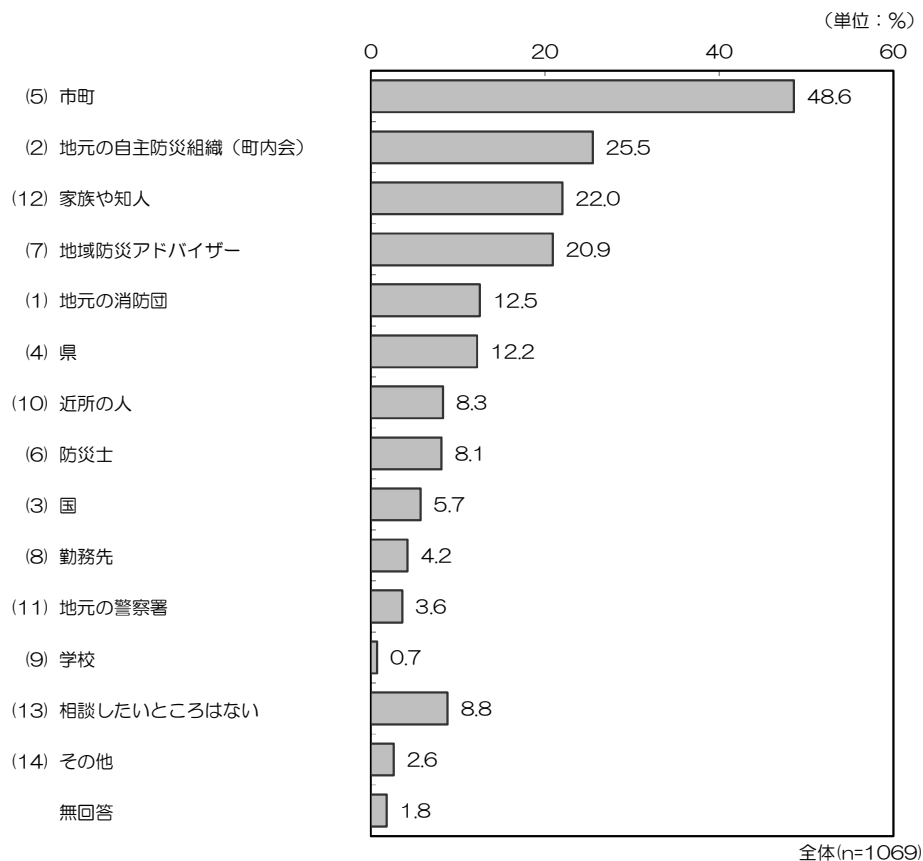


生活再建支援制度の認知についてたずねたところ、「知っているものはない」が57.3%と高かった。制度の中では「被災者生活再建支援制度」が22.0%で最も認知率が高く、以下、「災害弔慰金」(21.6%)、「災害障害見舞金」(14.2%)、「災害援護資金貸付制度」(12.2%)、「生活福祉資金貸付制度」(6.7%)となっている。

## 5 地域での防災活動について

### (1) 防災対策の相談先

問19. あなたは、防災の対策をするにあたり具体的にどこに相談したいですか。(〇はいくつでも)



防災対策の相談先についてたずねたところ、「市町」が48.6%で特に高かった。以下、「地元の自主防災組織 (町内会)」(25.5%)、「家族や知人」(22.0%)、「地域防災アドバイザー」(20.9%)の順となっている。

〔防災対策の相談先（性・年齢別）〕

(単位：%)

		回答者数	(5) 市町	(2) 地元の内会 の自主防災組織 (町)	(12) 家族や知人	(7) 地域防災アドバイザー	(1) 地元の消防団	(4) 県	(10) 近所の人	(6) 防災士	(3) 国	(8) 勤務先	(11) 地元の警察署	(9) 学校	(13) ない相 談した ところは	(14) その他	無回答
全 体		1069	48.6	25.5	22.0	20.9	12.5	12.2	8.3	8.1	5.7	4.2	3.6	0.7	8.8	2.6	1.8
性・年齢別	男性 小計	497	54.9	27.4	16.1	15.9	11.9	14.3	8.2	7.6	6.6	3.8	3.4	0.6	10.3	2.6	1.8
	18～29歳	53	50.9	15.1	15.1	22.6	11.3	24.5	5.7	3.8	17.0	11.3	1.9	1.9	15.1	5.7	1.9
	30～39歳	85	47.1	16.5	23.5	15.3	8.2	23.5	9.4	11.8	4.7	1.2	1.2	10.6	4.7	1.2	
	40～49歳	107	50.5	26.2	19.6	15.9	17.8	12.1	8.4	7.5	5.6	5.6	1.9	0.9	9.3	2.8	-
	50～59歳	58	65.5	32.8	8.6	19.0	10.3	10.3	3.4	6.9	1.7	5.2	1.7	-	6.9	-	1.7
	60～69歳	90	55.6	31.1	10.0	15.6	8.9	8.9	8.9	6.7	3.3	-	6.7	-	16.7	1.1	1.1
	70歳以上	104	61.5	37.5	16.3	11.5	12.5	10.6	10.6	7.7	3.8	-	5.8	-	4.8	1.9	4.8
	女性 小計	561	43.1	23.4	27.5	25.1	13.2	10.5	8.4	8.7	5.0	4.6	3.7	0.7	7.7	2.5	1.6
	18～29歳	63	46.0	7.9	36.5	36.5	9.5	20.6	4.8	12.7	11.1	6.3	4.8	3.2	14.3	-	-
	30～39歳	101	44.6	13.9	29.7	31.7	11.9	10.9	5.0	10.9	5.0	5.9	4.0	1.0	7.9	3.0	-
	40～49歳	127	45.7	15.7	22.0	29.1	6.3	6.3	7.1	9.4	3.1	7.9	3.1	-	6.3	6.3	-
	50～59歳	71	52.1	26.8	23.9	31.0	15.5	8.5	7.0	12.7	-	5.6	5.6	1.4	9.9	-	1.4
60～69歳	99	39.4	34.3	22.2	17.2	15.2	9.1	8.1	6.1	5.1	2.0	2.0	-	7.1	1.0	4.0	
70歳以上	100	34.0	39.0	34.0	10.0	22.0	12.0	17.0	3.0	7.0	-	4.0	-	4.0	2.0	4.0	

※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

性・年齢別にみると、「市町」は『男性 50～59 歳』『男性 70 歳以上』で6割以上と特に高くなっているが、一方、『女性 60～69 歳』『女性 70 歳以上』では3割台と低い。

『女性』は『男性』より「家族や知人」「地域防災アドバイザー」が高くなっている。

〔防災対策の相談先（地域別）〕

(単位：%)

		回答者数	(5) 市町	(2) 地元の内会 の自主防災組織 (町)	(12) 家族や知人	(7) 地域防災アドバイザー	(1) 地元の消防団	(4) 県	(10) 近所の人	(6) 防災士	(3) 国	(8) 勤務先	(11) 地元の警察署	(9) 学校	(13) ない相 談した ところは	(14) その他	無回答
全 体		1069	48.6	25.5	22.0	20.9	12.5	12.2	8.3	8.1	5.7	4.2	3.6	0.7	8.8	2.6	1.8
地 域 別	大津地域	250	43.6	28.4	20.4	19.2	13.6	15.2	7.6	12.0	5.6	4.8	4.0	0.4	9.6	3.2	1.2
	南部地域	249	46.2	26.5	28.9	23.3	10.8	13.3	9.6	8.0	6.8	4.8	4.0	0.4	6.4	3.6	-
	甲賀地域	98	57.1	20.4	19.4	17.3	16.3	10.2	10.2	5.1	5.1	1.0	1.0	-	9.2	4.1	3.1
	東近江地域	173	46.2	28.9	19.7	22.5	13.3	8.7	5.8	7.5	6.9	4.0	3.5	1.7	10.4	0.6	2.9
	湖東地域	123	49.6	26.8	24.4	21.1	16.3	8.9	9.8	5.7	3.3	5.7	2.4	-	4.9	0.8	4.1
	湖北地域	133	57.1	19.5	15.8	21.1	9.8	15.8	9.0	7.5	6.8	3.0	5.3	1.5	10.5	2.3	0.8
	高島地域	40	50.0	15.0	17.5	12.5	2.5	5.0	5.0	5.0	-	5.0	2.5	-	17.5	5.0	5.0

※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

地域別にみると、「市町」は『甲賀地域』『湖北地域』で57.1%と高くなっている。『高島地域』は「相談したいところはない」が17.5%と他地域より高い。

〔防災対策の相談先（要配慮者の有無別）〕

(単位：%)

		回答者数	(5) 市町	(2) 地元の自主防災組織（町内会）	(12) 家族や知人	(7) 地域防災アドバイザー	(1) 地元の消防団	(4) 県	(10) 近所の人	(6) 防災士	(3) 国	(8) 勤務先	(11) 地元の警察署	(9) 学校	(13) 相談したいところはない	(14) その他	無回答
全 体		1069	48.6	25.5	22.0	20.9	12.5	12.2	8.3	8.1	5.7	4.2	3.6	0.7	8.8	2.6	1.8
要配慮者の有無別	いる	833	49.1	27.3	22.4	19.7	12.8	12.2	8.5	8.2	5.4	3.6	3.5	0.7	7.4	2.4	2.0
	未就学児童	146	50.0	23.3	25.3	23.3	13.0	9.6	8.9	11.0	3.4	4.1	3.4	0.7	8.2	0.7	0.7
	小学生	140	51.4	16.4	20.0	26.4	8.6	10.0	10.7	11.4	7.9	5.7	1.4	1.4	7.1	2.9	0.7
	中高生	130	45.4	17.7	20.8	25.4	10.8	12.3	3.8	7.7	5.4	6.9	1.5	3.1	7.7	3.8	0.8
	要介護者	115	52.2	26.1	21.7	20.0	14.8	13.9	11.3	8.7	3.5	2.6	4.3	-	9.6	5.2	0.9
	妊産婦	19	36.8	15.8	36.8	10.5	10.5	15.8	-	5.3	5.3	5.3	10.5	5.3	21.1	-	-
	65歳以上の方	601	49.6	30.4	22.0	17.0	14.3	12.6	9.7	7.2	5.5	2.2	3.8	0.2	7.5	2.2	2.7
	いない	228	46.5	18.9	20.6	24.1	11.0	11.8	7.0	8.3	6.6	6.6	3.5	0.4	13.6	3.5	0.9

※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

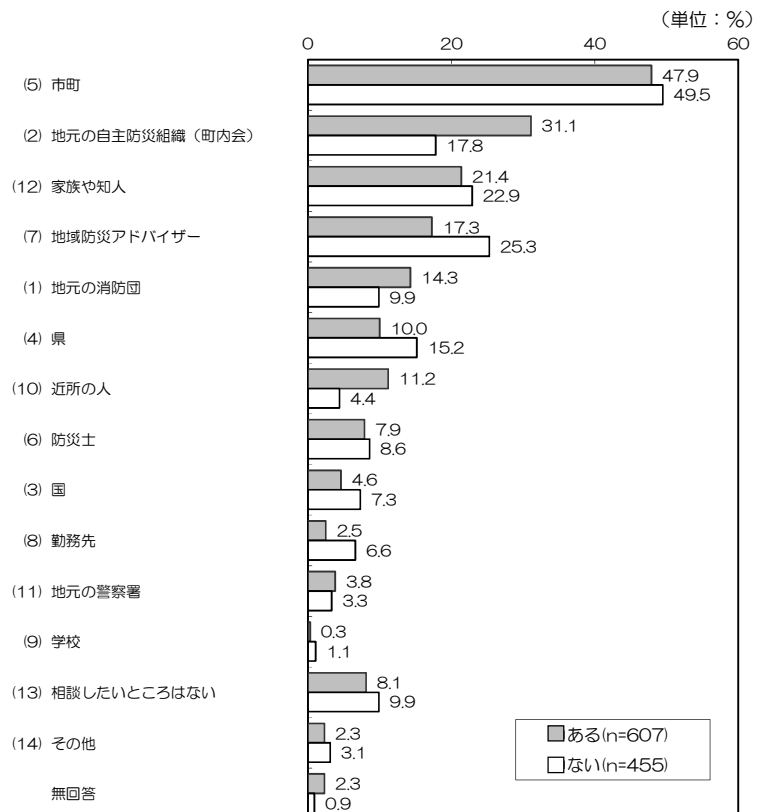
要配慮者の有無別にみると、『小学生』『中学生』『いない』では「地元の自主防災組織（町内会）」が低く、「地域防災アドバイザー」が高い。（※『妊産婦』はサンプル数が少ないため、参考値とする。）

〔防災対策の相談先（近所付き合いの有無別）〕

(単位：%)

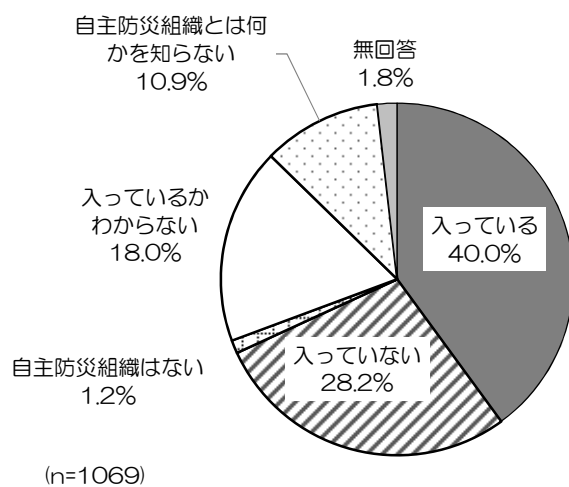
近所付き合いの有無別にみると、『ある』では『ない』より「地元の自主防災組織（町内会）」が 13.3 ポイント、「近所の人」が 6.8 ポイント高い。

『ない』では『ある』より「地域防災アドバイザー」が 8.0 ポイント高い。



## (2) 自主防災組織への加入状況

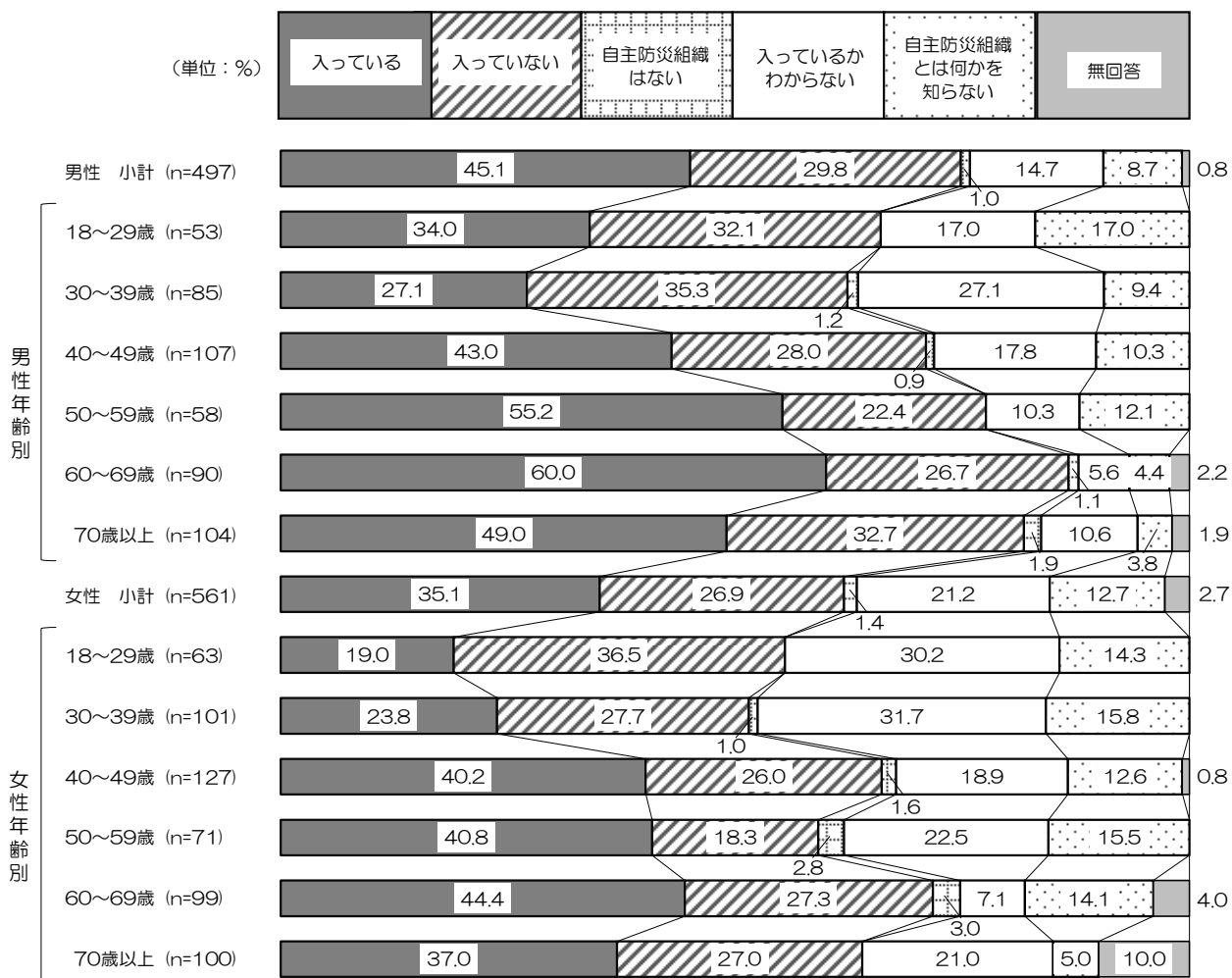
問20. あなた、または、家族は、地域の自主防災組織に入っていますか。(〇は1つ)



自主防災組織への加入状況についてたずねたところ、「加入している」が40.0%、「加入していない」が28.2%であった。「加入しているかわからない」が18.0%、「自主防災組織とは何かを知らない」が10.9%みられた。

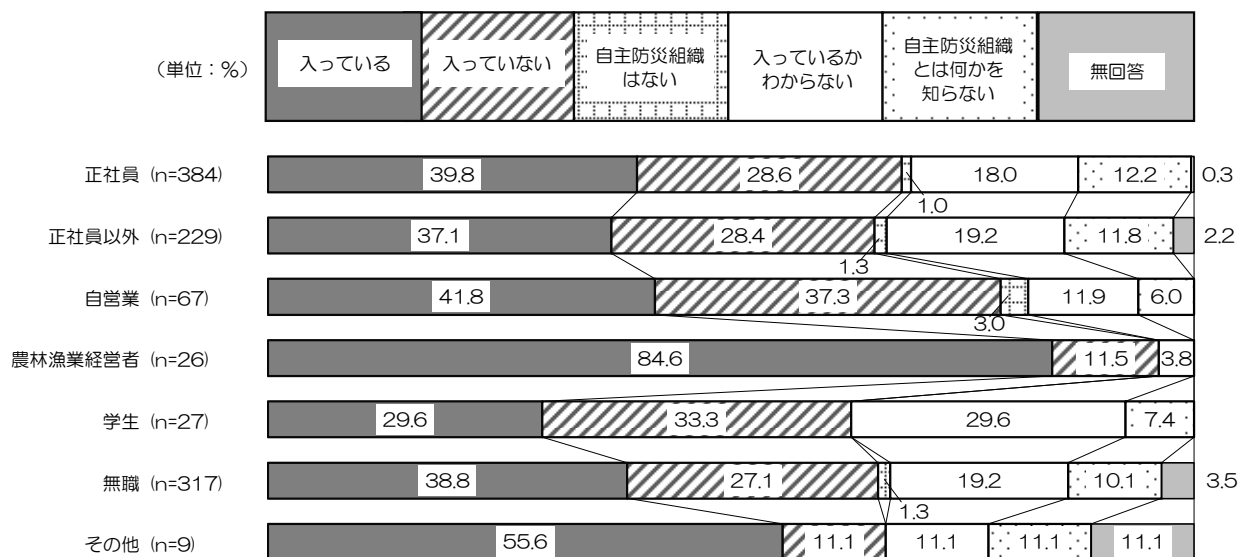


〔自主防災組織への加入状況（性・年齢別）〕



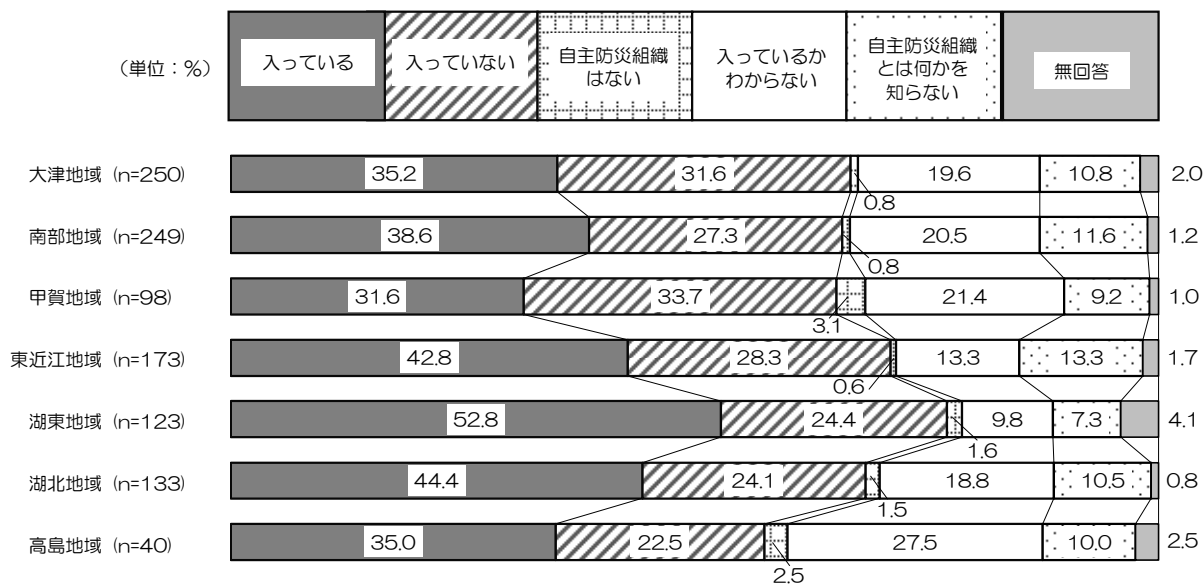
性別にみると、「入っている」は『男性』で45.1%、『女性』で35.1%と、男性が10.0ポイント高い。  
 また、性・年齢別にみると、「入っている」は『男性 50~59歳』『男性 60~69歳』で5割以上と高く、『男性 30~39歳』『女性 18~29歳』『女性 30~39歳』で3割未満と低い。『女性 18~29歳』『女性 30~39歳』では、「入っているかわからない」が高くなっている。

〔自主防災組織への加入状況（職業別）〕



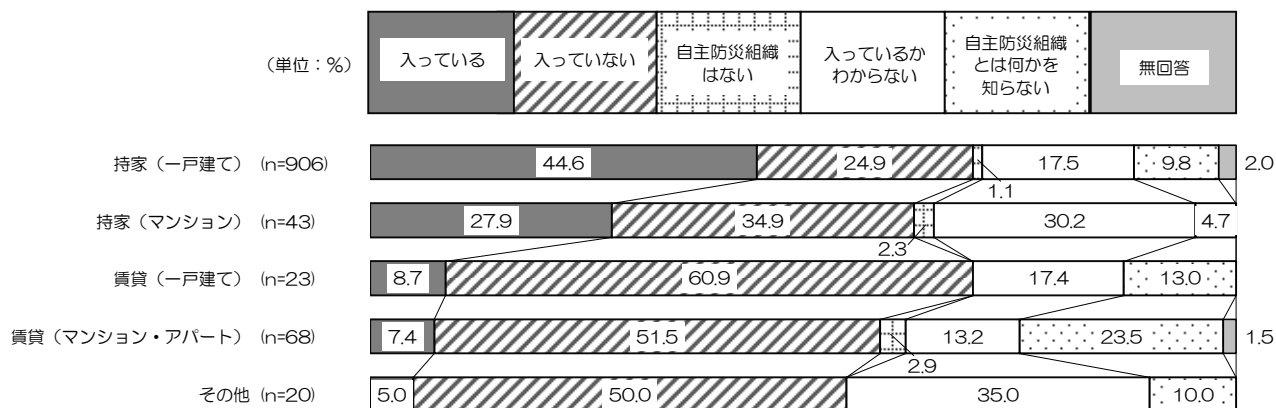
職業別にみると、『農林漁業経営者』で「入っている」が84.6%と非常に高いが、サンプル数が少ないため、参考値とする。

〔自主防災組織への加入状況（地域別）〕



地域別にみると、「入っている」は、『湖東地域』で52.8%と最も高く、『甲賀地域』で31.6%と最も低い。『高島地域』では、「入っているかわからない」が27.5%と高い。

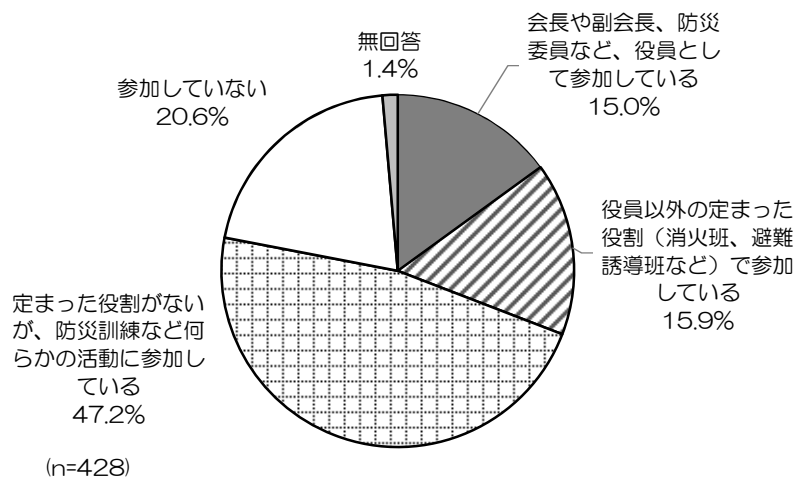
〔自主防災組織への加入状況（住居形態別）〕



住居形態別にみると、『持家（一戸建て）』で「入っている」が44.6%と高い。『賃貸』はいずれも「入っていない」が半数を超えている。

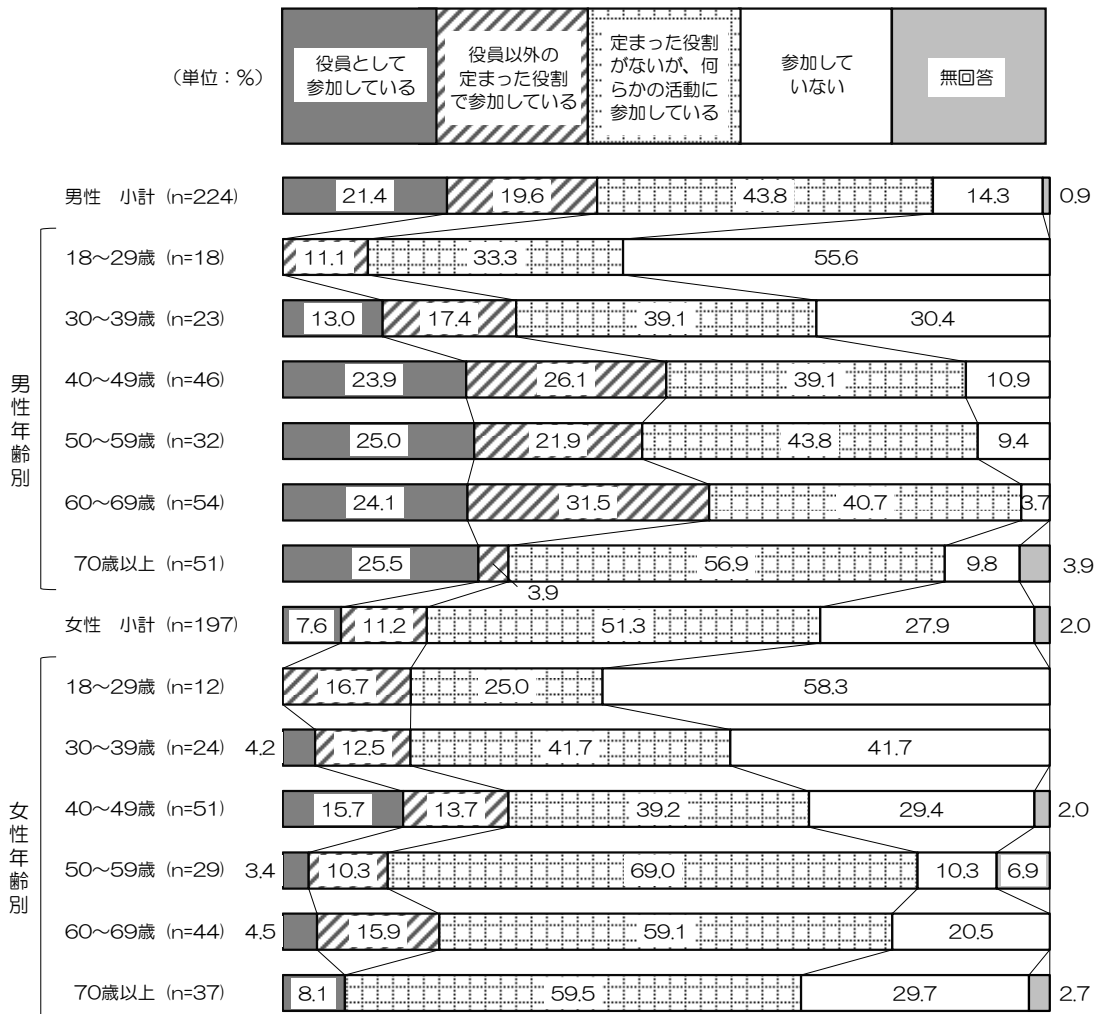
(3) 自主防災組織の活動への参加状況

問20-1. あなた自身は、自主防災組織の活動に参加していますか。(○は1つ)【問20で「1 入っている」を選んだ方のみ】



自主防災組織の活動への参加状況についてたずねたところ、「定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している」が47.2%で最も高い。以下、「参加していない」(20.6%)、「役員以外の定まった役割（消火班、避難誘導班など）で参加している」(15.9%)、「会長や副会長、防災委員など、役員として参加している」(15.0%)の順となっている。

〔自主防災組織の活動への参加状況（性・年齢別）〕



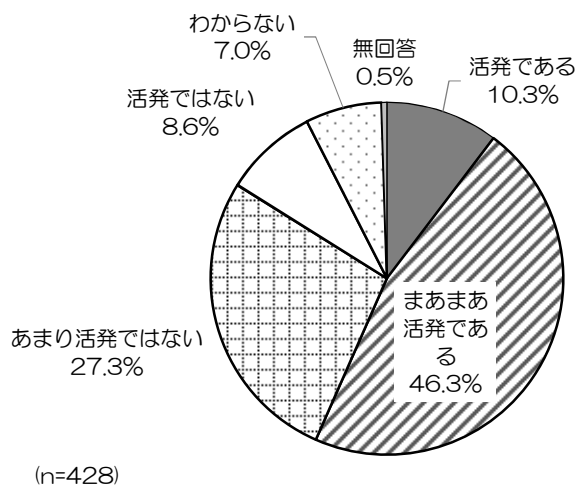
性・年齢別にみると、『男性 40~49 歳』『男性 50~59 歳』『男性 60~69 歳』『男性 70 歳以上』はいずれも「役員として参加している」が 2 割台と高くなっており、さらに『男性 40~49 歳』『男性 50~59 歳』『男性 60~69 歳』は「役員以外の定まった役割で参加している」も約 2~3 割と高い。女性では、『女性 40~49 歳』で「役員として参加している」が 15.7% と高い。

『男性 70 歳以上』『女性 50~59 歳』『女性 60~69 歳』『女性 70 歳以上』では、「定まった役割はないが、何らかの活動に参加している」が 5 割以上と高くなっている。

また、男女とも『18~29 歳』では「参加していない」が 5 割台と高い。

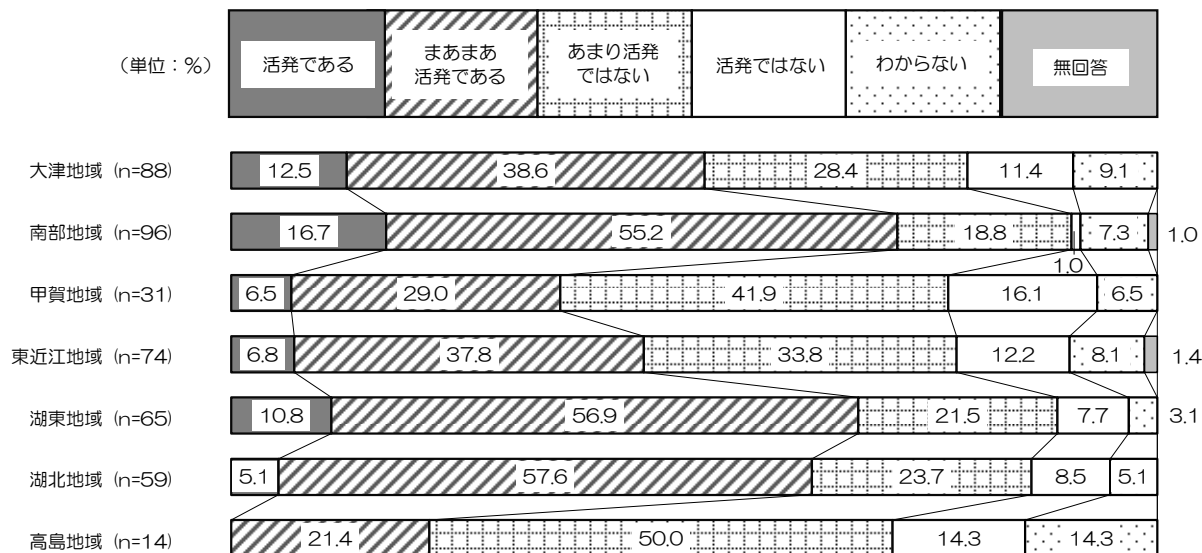
#### (4) 自主防災組織の活動程度

問20-2. あなたの地区の自主防災組織の活動は活発と思いますか。(〇は1つ)【問20で「1 入っている」を選んだ方のみ】



自主防災組織の活動程度についてたずねたところ、「まあまあ活発である」が46.3%と最も高い。次いで、「あまり活発ではない」が27.3%となっている。「活発である」は10.3%と約1割であった。

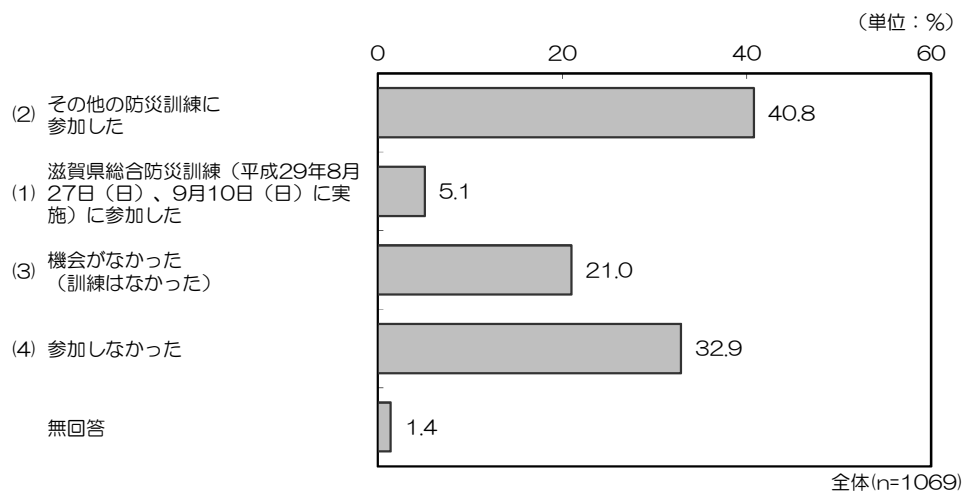
#### 〔自主防災組織の活動程度（地域別）〕



地域別にみると、「活発である」は『南部地域』で16.7%と最も高く、「活発である」と「まあまあ活発である」を合計した「活発である計」でも『南部地域』が71.9%と最も高い。「活発である計」は、『湖東地域』『湖北地域』でも6割台と高くなっている。『甲賀地域』『高島地域』では、「あまり活発ではない」と「活発ではない」を合計した「活発ではない計」が半数を超えている。

(5) 過去1年以内の地震防災訓練への参加有無

問21. あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。  
(〇はいくつでも)



過去1年以内の地震防災訓練への参加有無についてたずねたところ、「その他の防災訓練に参加した」が40.8%で、「滋賀県総合防災訓練に参加した」は5.1%であった。「参加しなかった」が32.9%、「機会がなかった(訓練はなかった)」が21.0%となっている。

〔過去1年以内の地震防災訓練への参加有無（性・年齢別）〕

（単位：％）

		回答者数	(2) 参加した （その他の防災訓練に）	(1) 参加した （成賀県総合防災訓練（平成29年9月12日）に実施）	(3) 機会がなかった （訓練はなかった）	(4) 参加しなかった	無回答
全 体		1069	40.8	5.1	21.0	32.9	1.4
性・年齢別	男性 小計	497	45.3	6.6	20.1	28.8	0.8
	18～29歳	53	43.4	1.9	17.0	37.7	-
	30～39歳	85	36.5	3.5	32.9	29.4	-
	40～49歳	107	45.8	6.5	16.8	30.8	-
	50～59歳	58	60.3	10.3	12.1	22.4	-
	60～69歳	90	54.4	3.3	20.0	21.1	2.2
	70歳以上	104	36.5	12.5	19.2	31.7	1.9
	女性 小計	561	36.2	3.7	22.1	37.1	1.8
	18～29歳	63	25.4	3.2	28.6	42.9	1.6
	30～39歳	101	34.7	1.0	35.6	28.7	-
	40～49歳	127	37.0	5.5	20.5	38.6	-
	50～59歳	71	47.9	5.6	16.9	31.0	-
	60～69歳	99	40.4	4.0	17.2	38.4	1.0
	70歳以上	100	31.0	3.0	15.0	43.0	8.0

※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

性・年齢別にみると、『男性 50～59 歳』は「その他の防災訓練に参加した」「滋賀県総合防災訓練に参加した」の両方が高くなっている。『男性 60～69 歳』は「その他の防災訓練に参加した」のみが高い。

男女とも『30～39 歳』は「機会がなかった（訓練はなかった）」が3割台と高く、『女性 18～29 歳』『女性 70 歳以上』は「参加しなかった」が4割台と高い。

〔過去1年以内の地震防災訓練への参加有無（地域別）〕

（単位：％）

		回答者数	(2) 参 加 し た の 防 災 訓 練 に	(1) た （ 日 ） （ 日 ） に 実 施 ） に 参 加 し	(3) （ 訓 練 が な か つ た ）	(4) 参 加 し な か つ た	無 回 答
全 体		1069	40.8	5.1	21.0	32.9	1.4
地 域 別	大津地域	250	29.6	6.0	22.4	40.8	1.2
	南部地域	249	42.2	3.2	21.7	34.1	-
	甲賀地域	98	38.8	13.3	19.4	33.7	1.0
	東近江地域	173	43.9	4.6	21.4	29.5	1.7
	湖東地域	123	48.0	5.7	17.1	27.6	2.4
	湖北地域	133	54.1	2.3	15.0	27.1	2.3
	高島地域	40	27.5	-	42.5	27.5	2.5

※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

地域別にみると、「その他の防災訓練に参加した」は『湖北地域』で 54.1%、『湖東地域』で 48.0%と高い。『高島地域』では「機会がなかった（訓練はなかった）」が 42.5%と高く、『大津地域』では「参加しなかった」が 40.8%と高い。

〔過去1年以内の地震防災訓練への参加有無（要配慮者の有無別）〕

（単位：％）

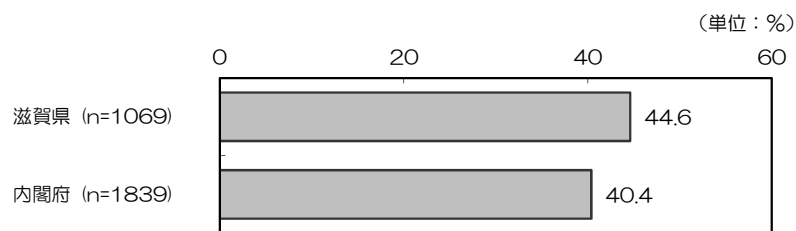
		回答者数	(2) 参 加 し た の 防 災 訓 練 に	(1) た （ 日 ） （ 日 ） に 実 施 ） に 参 加 し	(3) （ 訓 練 が な か つ た ）	(4) 参 加 し な か つ た	無 回 答
全 体		1069	40.8	5.1	21.0	32.9	1.4
要 配 慮 者 の 有 無 別	いる	833	40.8	5.3	20.8	32.8	1.6
	未就学児童	146	41.1	4.8	27.4	28.1	-
	小学生	140	43.6	5.0	23.6	30.0	-
	中高生	130	44.6	6.2	14.6	34.6	2.3
	要介護者	115	32.2	3.5	21.7	40.9	1.7
	妊産婦	19	52.6	5.3	15.8	26.3	5.3
	65歳以上の方	601	39.8	6.0	20.1	33.4	1.8
	いない	228	41.2	4.4	21.9	33.8	-

※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

要配慮者の有無別にみると、『要介護者』で「その他の訓練に参加した」が 32.2%と低く、「参加しなかった」が 40.9%と高い。



〔過去1年以内の地震防災訓練への参加有無（内閣府調査との比較）〕

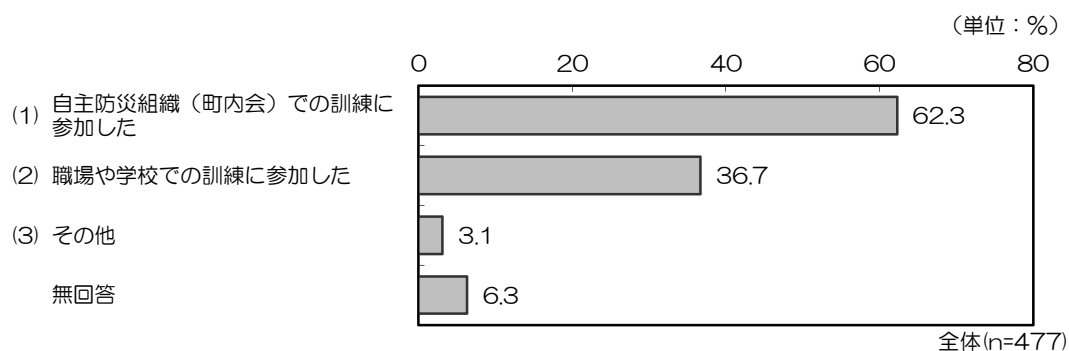


※何らかの訓練に参加した人の割合

内閣府調査との比較で見ると、訓練への参加率は『滋賀県』で44.6%、『内閣府』で40.4%と、『滋賀県』の方が4.2ポイント高くなっている。

(6) 参加した訓練の実施主体

問21-1. その防災訓練はどちらで参加しましたか。(○はいくつでも)【問21で「1 滋賀県総合防災訓練に参加した」「2 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方のみ】



参加した訓練の実施主体についてたずねたところ、「自主防災組織（町内会）での訓練に参加した」が62.3%、「職場や学校での訓練に参加した」が36.7%であった。

〔参加した訓練の実施主体（性・年齢別）〕

（単位：％）

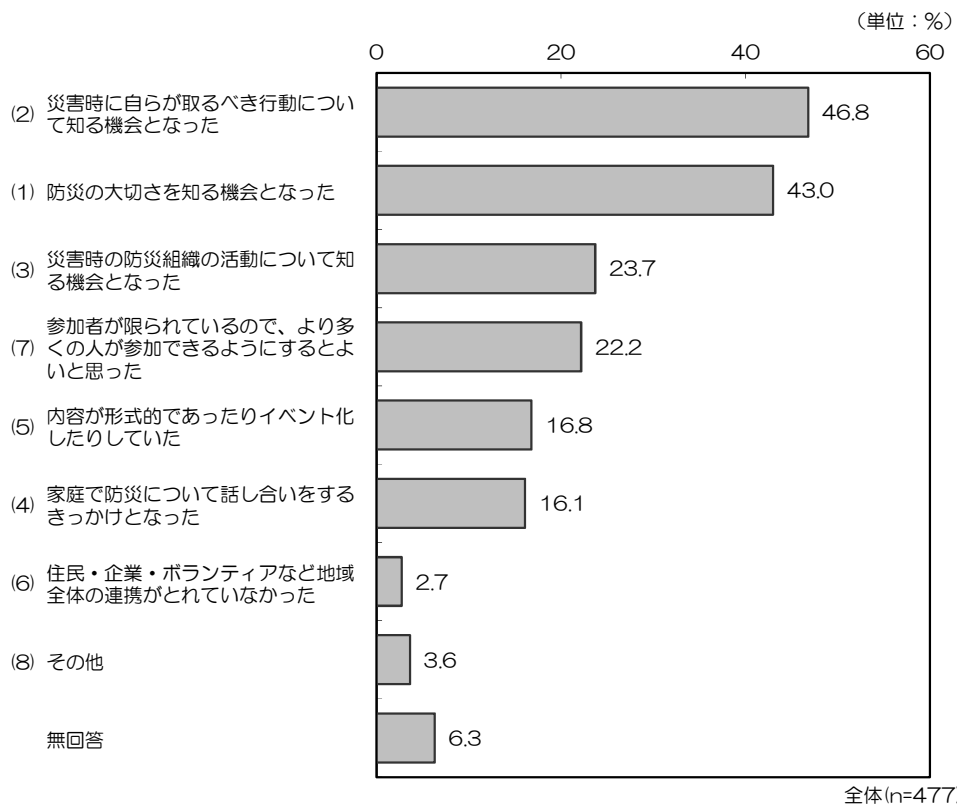
		回答者数	(1) で自主防災組織 に参加した (町内会)	(2) 加職場や学校での訓練に参 加した	(3) その他	無回答
全 体		477	62.3	36.7	3.1	6.3
性・年齢別	男性 小計	250	67.6	32.0	3.2	6.4
	18～29歳	24	25.0	75.0	-	4.2
	30～39歳	32	46.9	53.1	-	12.5
	40～49歳	56	60.7	37.5	7.1	5.4
	50～59歳	38	73.7	34.2	2.6	2.6
	60～69歳	51	78.4	19.6	5.9	9.8
	70歳以上	49	93.9	2.0	-	4.1
	女性 小計	219	55.3	42.9	3.2	5.9
	18～29歳	17	5.9	88.2	5.9	11.8
	30～39歳	36	30.6	61.1	-	11.1
	40～49歳	52	53.8	61.5	1.9	1.9
	50～59歳	37	54.1	43.2	5.4	2.7
	60～69歳	43	76.7	16.3	7.0	2.3
70歳以上	34	82.4	5.9	-	11.8	

※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

性・年齢別にみると、若年層は「職場や学校での訓練に参加した」、年配層は「自主防災組織（町内会）での訓練に参加した」が高い傾向がみられる。

## (7) 訓練に参加した感想

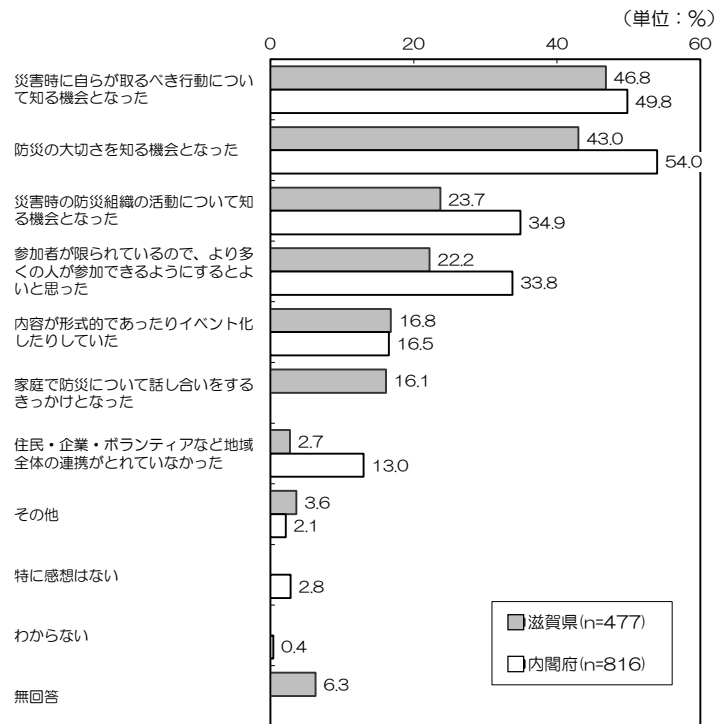
問 2 1 - 2. 参加してみてどのようなことを感じましたか。(〇はいくつでも)【問 21 で「1 滋賀県総合防災訓練に参加した」「2 その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方のみ】



訓練に参加した感想についてたずねたところ、「災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった」が46.8%で最も高く、以下、「防災の大切さを知る機会となった」(43.0%)、「災害時の防災組織の活動について知る機会となった」(23.7%)、「参加者が限られているので、より多くの人に参加できるようにするとよいと思った」(22.2%)の順となっている。

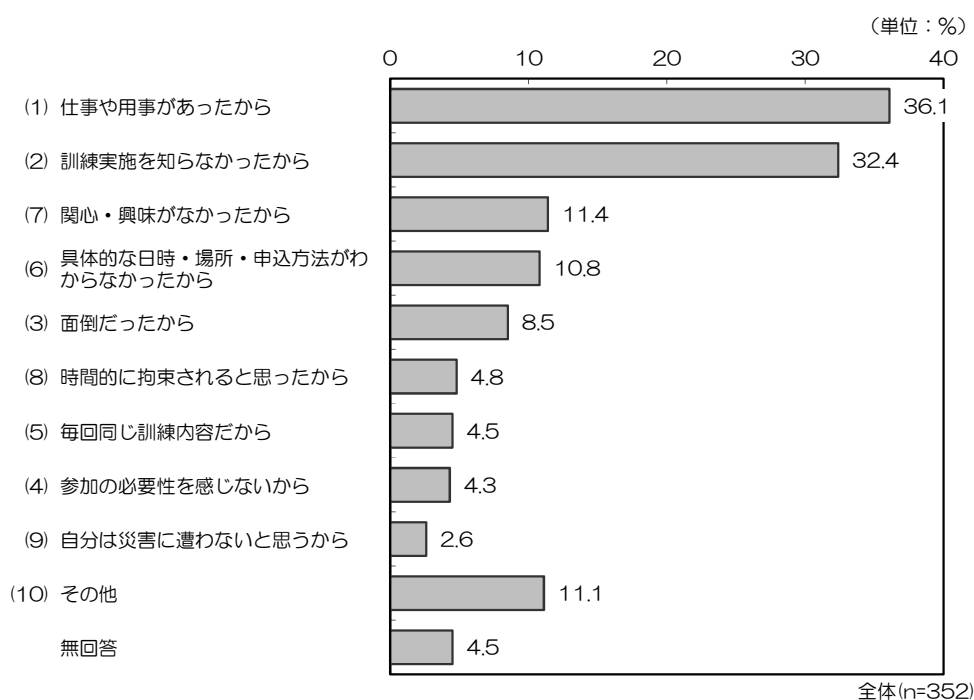
〔訓練に参加した感想（内閣府調査との比較）〕

内閣府調査との比較でみると、『滋賀県』は『内閣府』より、「防災の大切さを知る機会となった」が11.0ポイント、「災害時の防災組織の活動について知る機会となった」が11.2ポイント、「参加者が限られているので、より多くの人が参加できるようにするとよいと思った」が11.6ポイント、「住民・企業・ボランティアなど地域全体の連携がとれていなかった」が10.3ポイント低くなっている。



## (8) 訓練不参加理由

問 2 1 - 3. 参加しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)【問 21 で「4 参加しなかった」を選んだ方のみ】

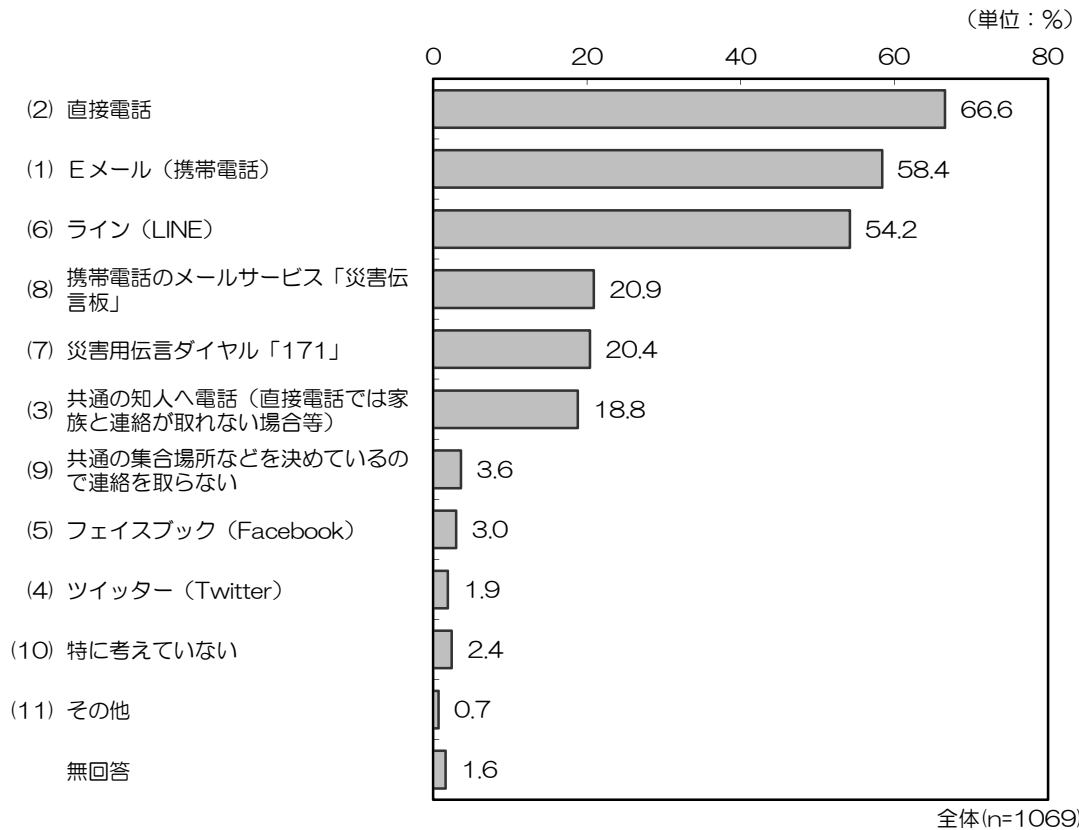


訓練不参加理由についてたずねたところ、「仕事や用事があったから」(36.1%)、「訓練実施を知らなかったから」(32.4%)の2点が高くなっている。

## 6 大規模地震が発生した時の行動について

### (1) 家族の安否確認手段

問22. 家族が離ればなれとなっている時に突然、地震が起こった場合、家族の安否を確認する手段として何を使うことを考えていますか。(〇はいくつでも)



家族の安否確認手段についてたずねたところ、「直接電話」が66.6%で最も高く、次いで、「Eメール (携帯電話)」(58.4%)、「ライン (LINE)」(54.2%) の順となっている。

〔家族の安否確認手段（性・年齢別）〕

（単位：％）

		回答者数	(2) 直接電話	(1) Eメール（携帯電話）	(6) ライン（LINE）	(8) 携帯電話のメールサービス「災害伝言板」	(7) 「災害用伝言ダイヤル1771」	(3) 共通の知人へ電話（直接電話ではない場合等）	(9) 共通の集合場所などを決めているので連絡を取らない	(5) フェイスブック	(4) ツイッター	(10) 特に考えていない	(11) その他	無回答
全 体		1069	66.6	58.4	54.2	20.9	20.4	18.8	3.6	3.0	1.9	2.4	0.7	1.6
性・年齢別	男性 小計	497	66.0	58.4	48.3	19.1	17.7	16.7	2.4	3.4	1.4	3.8	0.8	1.0
	18～29歳	53	81.1	52.8	73.6	17.0	30.2	15.1	-	3.8	-	1.9	-	1.9
	30～39歳	85	68.2	63.5	67.1	12.9	15.3	15.3	3.5	7.1	4.7	-	-	-
	40～49歳	107	67.3	50.5	58.9	19.6	21.5	14.0	3.7	4.7	0.9	5.6	0.9	1.9
	50～59歳	58	63.8	53.4	51.7	20.7	20.7	20.7	1.7	-	-	3.4	1.7	-
	60～69歳	90	56.7	68.9	43.3	25.6	17.8	12.2	-	4.4	2.2	4.4	-	-
	70歳以上	104	64.4	58.7	11.5	18.3	7.7	23.1	3.8	-	-	5.8	1.9	1.9
	女性 小計	561	67.2	58.1	59.2	22.8	22.8	20.3	4.8	2.7	2.3	1.2	0.5	2.0
	18～29歳	63	79.4	49.2	85.7	22.2	20.6	23.8	6.3	4.8	6.3	-	1.6	-
	30～39歳	101	74.3	63.4	74.3	31.7	30.7	20.8	4.0	4.0	2.0	1.0	-	1.0
	40～49歳	127	65.4	57.5	70.9	26.8	28.3	18.9	8.7	3.1	1.6	-	0.8	-
	50～59歳	71	73.2	53.5	73.2	15.5	25.4	16.9	4.2	4.2	4.2	1.4	-	1.4
60～69歳	99	55.6	69.7	48.5	21.2	21.2	24.2	3.0	-	1.0	1.0	1.0	2.0	
70歳以上	100	62.0	51.0	13.0	16.0	9.0	18.0	2.0	1.0	1.0	4.0	-	7.0	

※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

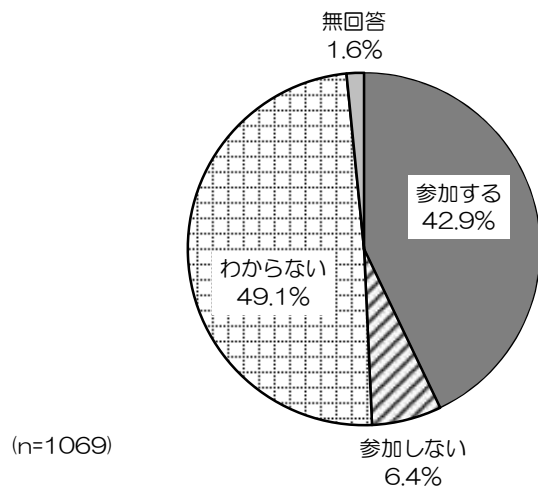
性・年齢別にみると、男女とも『60～69歳』では「Eメール（携帯電話）」が最も高くなっている。

「ライン（LINE）」は、『男性18～29歳』『女性18～29歳』『女性30～39歳』『女性40～49歳』『女性50～59歳』では7割以上となっており、女性を中心に若年層で高い傾向。一方、男女とも『70歳以上』では1割強程度となっている。

「直接電話」は男女とも『18～29歳』で最も高くなっている。

## (2) 震災時の防災活動への参加意向

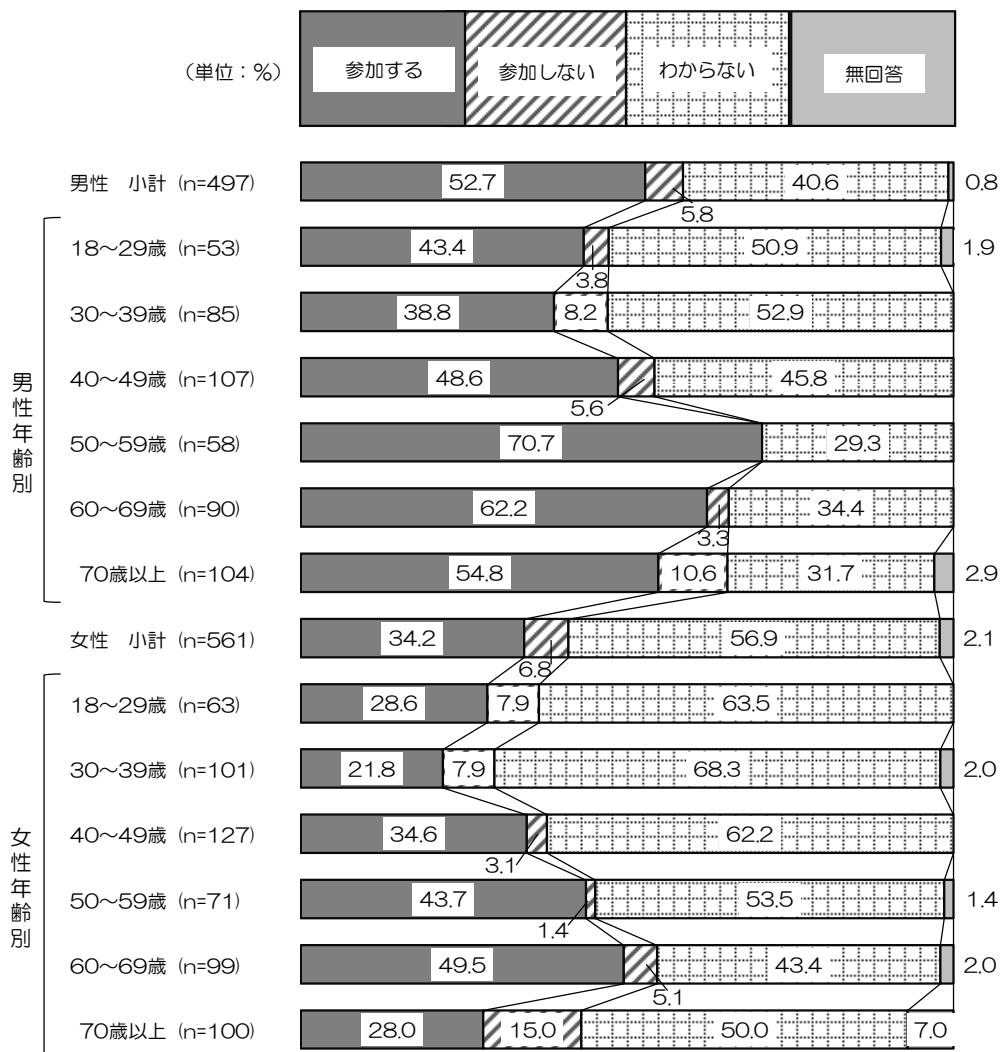
問23. 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。(○は1つ)



震災時の防災活動への参加意向についてたずねたところ、「参加する」は42.9%で、「わからない」の49.1%を下回った。「参加しない」は6.4%と少ない。



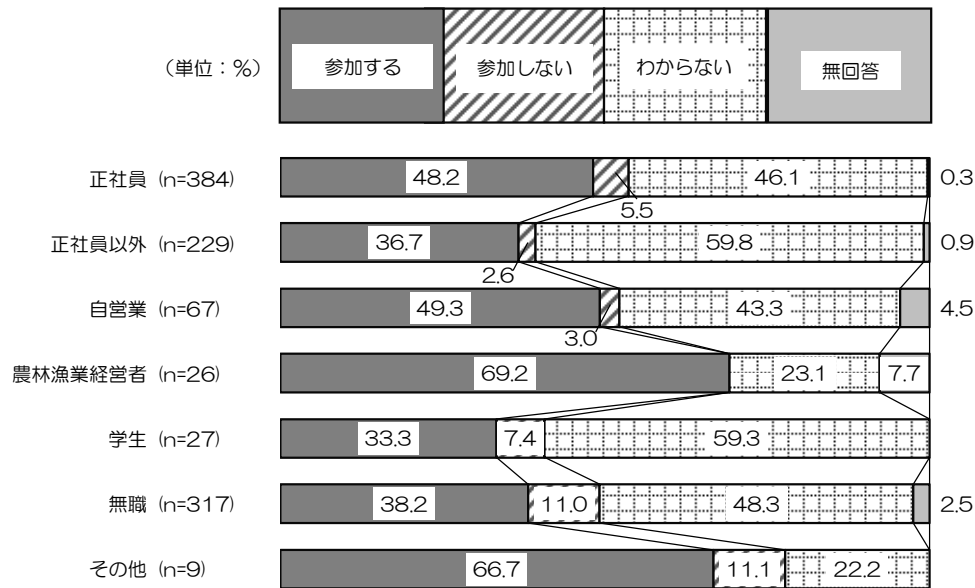
〔震災時の防災活動への参加意向（性・年齢別）〕



性別にみると、「参加する」は『男性』で52.7%、『女性』で34.2%と、18.5ポイントの差がある。

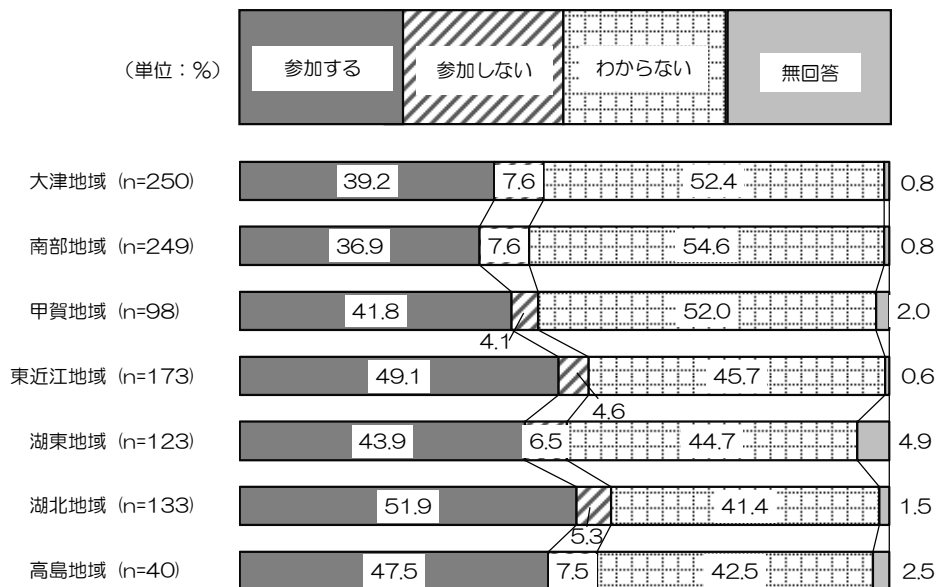
性・年齢別にみると、特に、『男性50~59歳』で70.7%、『男性60~69歳』で62.2%と参加意向が高い。最も参加意向が低いのは『女性30~39歳』で、21.8%となっている。

〔震災時の防災活動への参加意向（職業別）〕



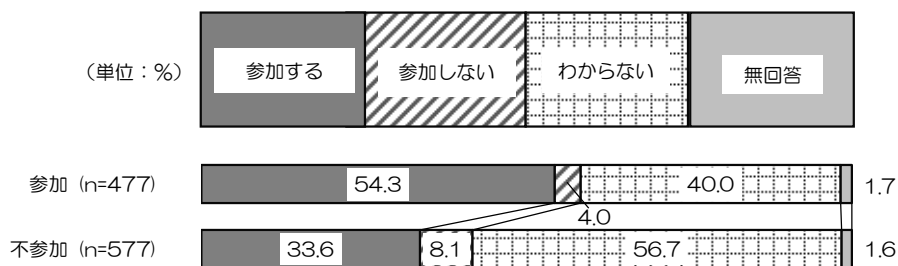
職業別にみると、『正社員』『自営業』は「参加する」が5割弱と高くなっている。(※『農林漁業経営者』『その他』はサンプル数が少ないため、参考値とする。)

〔震災時の防災活動への参加意向（地域別）〕



地域別にみると、「参加する」は『湖北地域』で51.9%、『東近江地域』で49.1%と高く、『南部地域』で36.9%と低い。

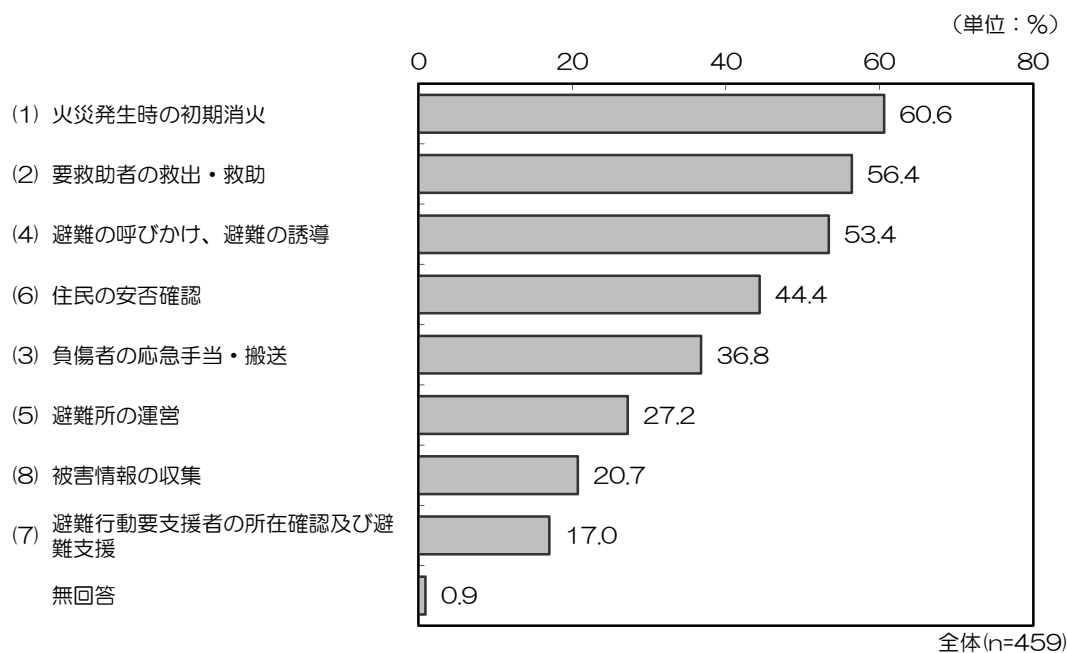
〔震災時の防災活動への参加意向（地震防災訓練参加の有無別）〕



地域防災訓練参加の有無別にみると、『参加』は「参加する」が54.3%と高く、『不参加』を20.7ポイント上回っている。

(3) 参加意向のある地震発生後の防災活動

問23-1. どのような活動に参加することを考えていますか。(〇はいくつでも)【問23で「1 参加する」を選んだ方のみ】



参加意向のある地震発生後の防災活動についてたずねたところ、「火災発生時の初期消火」(60.6%)、「要救助者の救出・救助」(56.4%)、「避難の呼びかけ、避難の誘導」(53.4%)、「住民の安否確認」(44.4%)の順となっている。

〔参加意向のある地震発生後の防災活動（性・年齢別）〕

（単位：％）

		回答者数	(1) 火災発生時の初期消火	(2) 要救助者の救出・救助	(4) 避難の呼びかけ、避難の誘導	(6) 住民の安否確認	(3) 負傷者の応急手当・搬送	(5) 避難所の運営	(8) 被害情報の収集	(7) 避難行動要支援者の確認及び避難支援者の所在	無回答
全 体		459	60.6	56.4	53.4	44.4	36.8	27.2	20.7	17.0	0.9
性・年齢別	男性 小計	262	69.8	70.6	55.0	43.5	37.8	24.0	23.7	16.4	0.4
	18～29歳	23	60.9	87.0	26.1	30.4	34.8	13.0	13.0	8.7	-
	30～39歳	33	72.7	63.6	57.6	48.5	39.4	36.4	30.3	30.3	-
	40～49歳	52	69.2	75.0	55.8	34.6	32.7	23.1	23.1	9.6	1.9
	50～59歳	41	70.7	70.7	51.2	34.1	31.7	22.0	17.1	4.9	-
	60～69歳	56	75.0	75.0	62.5	50.0	50.0	32.1	30.4	30.4	-
	70歳以上	57	66.7	59.6	59.6	54.4	35.1	15.8	22.8	12.3	-
	女性 小計	192	47.4	37.0	51.0	46.4	35.4	32.3	16.7	17.7	1.6
	18～29歳	18	55.6	38.9	66.7	38.9	55.6	61.1	44.4	27.8	-
	30～39歳	22	40.9	50.0	45.5	40.9	50.0	45.5	22.7	18.2	-
	40～49歳	44	38.6	38.6	47.7	34.1	38.6	22.7	2.3	9.1	-
	50～59歳	31	41.9	41.9	61.3	58.1	35.5	32.3	25.8	25.8	6.5
60～69歳	49	59.2	34.7	55.1	57.1	32.7	30.6	16.3	22.4	2.0	
70歳以上	28	46.4	21.4	32.1	42.9	10.7	21.4	7.1	7.1	-	

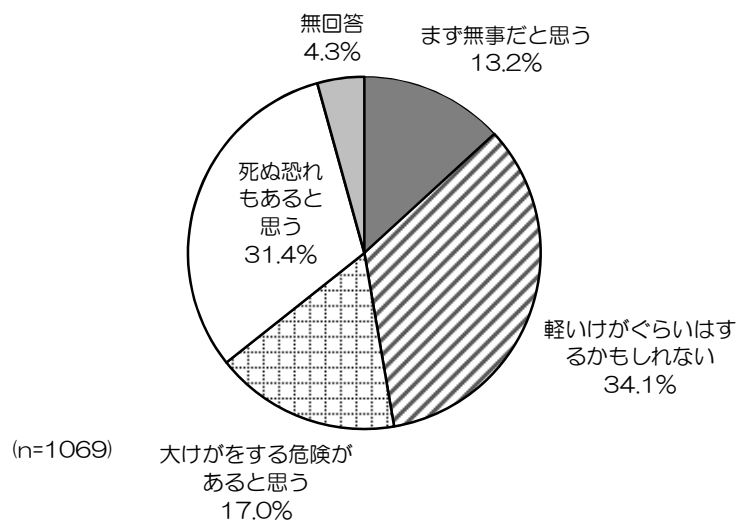
※■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い

性別にみると、「火災発生時の初期消火」は22.4ポイント、「要救助者の救出・救助」は33.6ポイント、『男性』が『女性』を上回っている。『女性』は「避難所の運営」で『男性』を8.3ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『女性 50～59歳』『女性 60～69歳』は「住民の安否確認」が6割弱と高い。『男性 60～69歳』は、全ての項目が高い傾向にある。

#### (4) 自分自身の安全に対する意識

問24. 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。(○は1つ)



自分自身の安全に対する意識についてたずねたところ、「軽いけがぐらいはするかもしれない」が34.1%で最も高く、次いで「死ぬ恐れもあると思う」が31.4%となっている。以下、「大けがをする危険があると思う」(17.0%)、「まず無事だと思う」(13.2%)となっている。

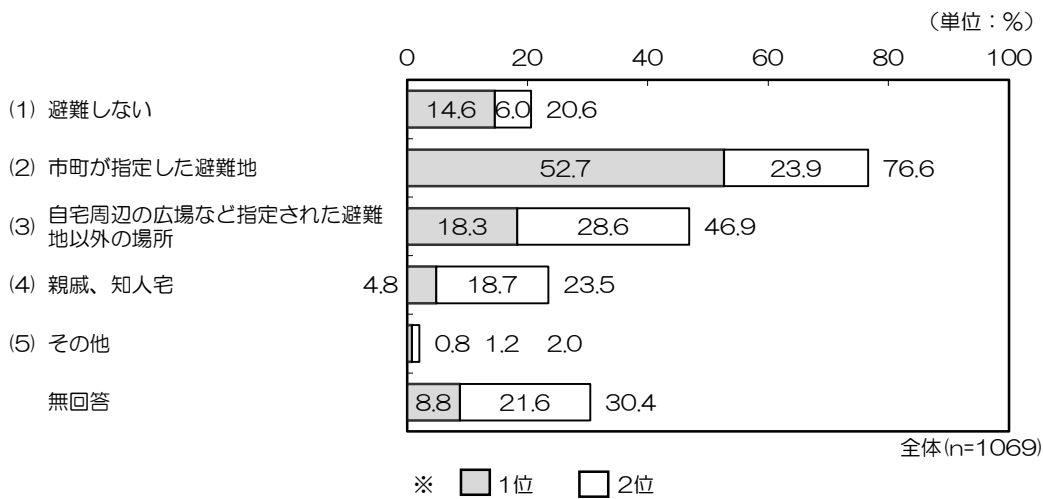
#### 〔自分自身の安全に対する意識（木造建築着工時期別）〕



木造建築着工時期別にみると、『昭和56年5月以前』と『昭和56年5月以降』であまり差はみられない。

## (5) 一時避難想定場所

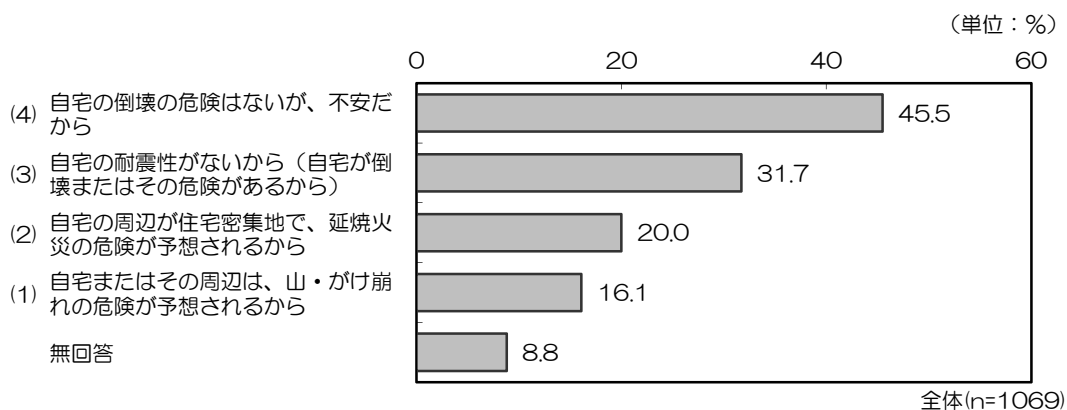
問25. あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族が一時的に避難する場所として、可能性が高い場所に○をつけてください。(○は1つ)



一時避難想定場所についてたずねたところ、1位、1～2位合計ともに、「市町が指定した避難地」が最も高く、次いで「自宅周辺の広場など指定された避難地以外の場所」となっている。

## (6) 避難する理由

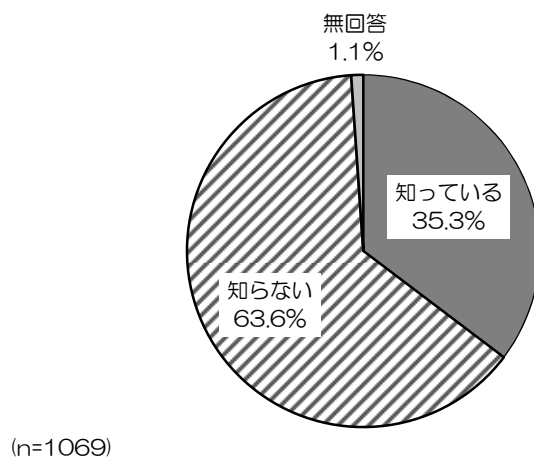
問25-1. 避難する場合の理由は何ですか。(○はいくつでも)



避難する理由についてたずねたところ、「自宅の倒壊の危険はないが、不安だから」が45.5%で最も高く、「自宅の耐震性がないから（自宅が倒壊またはその危険があるから）」が31.7%で続いている。

## (7) 特別警戒区域の認知

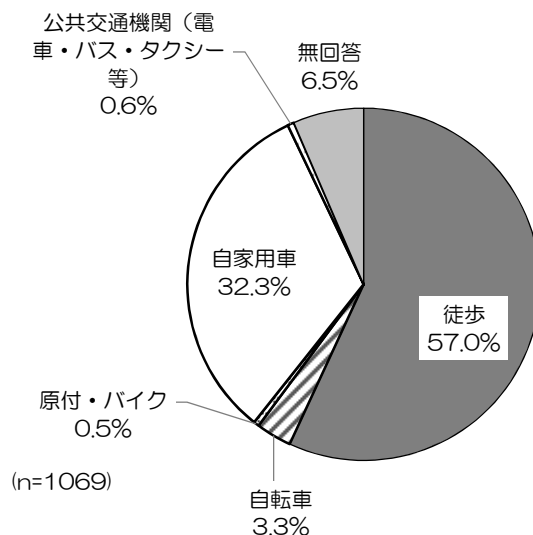
問25-2. 地震が起こった場合、土砂災害も起こりやすくなります。あなたは、土砂災害警戒区域および土砂災害特別警戒区域を知っていますか。(〇は1つ)



特別警戒区域の認知についてたずねたところ、「知らない」が63.6%を占め、「知っている」は35.3%であった。

## (8) 避難時の交通手段

問25-3. 避難するときの交通手段は何ですか。(〇は1つ)



避難時の交通手段についてたずねたところ、「徒歩」が57.0%で最も高く、次いで「自家用車」が32.3%となっている。





**付 調査票**



## 滋賀県の地震防災についての県民意識調査のお願い

### 御協力をお願い

盛夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本県には、多くの活断層があり、県内のどの地域でも阪神・淡路大震災や平成 28 年熊本地震のような直下型地震の被害を受けるおそれがあります。また、今後 30 年以内に 70～80%の確率で発生するとされる「南海トラフ地震」でも、最大で震度 6 強の揺れが起こることが想定されています。

このため、滋賀県ではこれまで、地震被害想定に基づき、様々な地震対策を行ってきました。

今回、県民の皆様の大規模地震に対する日ごろの考え方や対策状況等を伺い、今後の地震対策に役立てるため、「滋賀県の地震防災についての県民意識調査」を実施することになりました。

調査にあたりまして、県内から 18 歳以上の 2,000 人の方を選挙人名簿から無作為に抽出したところ、今回あなた様が調査対象となりました。

お忙しいところ大変恐縮ですが、何とぞ本調査の主旨を御理解賜り、御協力くださいますよう御願い申し上げます。

### 御記入にあたってのお願い

◆ご回答は、封書宛名のご本人がお答えください。

◆全体で 15 分程度かかります。記入へのご協力をお願いします。

◆ご回答は、選択肢の中から当てはまる番号に○をつけてください。

「その他」の番号に○をつけた方は、( ) 内に具体的な内容をご記入ください。

◆回答によっては、一部の方だけにその後の質問にお答えいただくものがあります。

その場合、「→」などで説明を加えてありますので、説明に従ってお答えください。

◆ご記入は、どのような筆記用具でも構いません。

◆ご回答の内容は、統計的に処理を行うこととし、その秘密の保持には十分配慮しますので、ご回答いただいた方に迷惑をかけることは決してありません。

◆調査票は、ご記入が済みましたら、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**8 月 7 日（火）**までにご投函をお願いします。

◆ご不明な点等がございましたら、恐れ入りますが下記までご連絡ください。

滋賀県総合政策部防災危機管理局（担当：宮部、木村）

大津市京町四丁目 1-1

TEL 077-528-3438

E-mail : as0002@pref.shiga.lg.jp



# 調查票

まずは、あなた様やお宅のことについてご記入ください。

F 1 性別（○は1つ）

- |      |      |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F 2 出身（○は1つ）

- |      |      |
|------|------|
| 1 国内 | 2 国外 |
|------|------|

F 3 年齢（○は1つ）

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 18～29 歳 | 2 30～39 歳 | 3 40～49 歳 |
| 4 50～59 歳 | 5 60～69 歳 | 6 70 歳以上  |

F 4 あなた若しくはあなたの同居者が以下のいずれかに該当するか教えてください。

- |                         |
|-------------------------|
| 1 自分または同居者が65歳以上である     |
| 2 自分または同居者が妊娠中である       |
| 3 自分または同居者が要介護者又は障害者である |
| 4 同居者に未就学の児童がいる         |
| 5 いずれにも該当しない            |

F 5 職業（○は1つ）

- |                                  |
|----------------------------------|
| 1 正社員として勤務（会社員、会社役員、公務員、医療関係を含む） |
| 2 正社員以外として勤務（パート、フリーターを含む）       |
| 3 自営業                            |
| 4 農林漁業経営者                        |
| 5 学生                             |
| 6 無職                             |
| 7 その他（具体的に                       |

F 6 あなたは、滋賀県にお住みになって何年くらいになりますか。（○は1つ）

- |        |          |           |         |
|--------|----------|-----------|---------|
| 1 1年未満 | 2 1～5年未満 | 3 5～10年未満 | 4 10年以上 |
|--------|----------|-----------|---------|

F 7 あなたのお宅は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

- |                  |             |            |
|------------------|-------------|------------|
| 1 持家（一戸建て）       | 2 持家（マンション） | 3 賃貸（一戸建て） |
| 4 賃貸（マンション・アパート） | 5 その他（具体的に  |            |

F 8 あなたのお宅には次に該当する方がいますか。(○はいくつでも)

- |                  |       |           |       |
|------------------|-------|-----------|-------|
| 1 小学校に入学する前の子供   | 2 小学生 | 3 中高生     |       |
| 4 日常生活に介護を必要とする方 | 5 妊産婦 | 6 65歳以上の方 | 7 いない |

F 9 あなたは、近所づきあいをどのようにしていますか。(○は1つ)

- |                   |
|-------------------|
| 1 ほとんどつきあいがいい     |
| 2 挨拶をする程度         |
| 3 ときどき立ち話をする程度    |
| 4 留守を頼んだり、親しく話をする |

F 10 現在、あなたのお住まいの市町はどちらですか。(○は1つ)

- |         |        |         |
|---------|--------|---------|
| 1 大津市   | 2 彦根市  | 3 長浜市   |
| 4 近江八幡市 | 5 草津市  | 6 守山市   |
| 7 栗東市   | 8 甲賀市  | 9 野洲市   |
| 10 湖南市  | 11 高島市 | 12 東近江市 |
| 13 米原市  | 14 日野町 | 15 竜王町  |
| 16 愛荘町  | 17 豊郷町 | 18 甲良町  |
| 19 多賀町  |        |         |

以下の設問については、滋賀県内および周辺の活断層による内陸型地震や南海トラフ沿いを震源とする海溝型地震などの滋賀県に大きな被害を及ぼす大規模地震をイメージしてお答えください。

**1 滋賀県に大きな被害を及ぼす大規模地震について**

<全ての方にお伺いします。>

問1 あなたは現在、大規模地震にどの程度の関心を持っていますか。(〇は1つ)

- 1 非常に関心がある
- 2 多少関心がある
- 3 あまり関心はない
- 4 全く関心はない

<全ての方にお伺いします。>

問2 あなたは、滋賀県に大きな被害を及ぼす大規模地震が発生する仕組み（メカニズム）を知っていますか。(〇は1つ)

- 1 よく知っている
- 2 ある程度知っている
- 3 あまり知らない
- 4 全く知らない

<全ての方にお伺いします。>

問3 あなたは、滋賀県に大きな被害を及ぼす大規模地震に関して、どのようなことが心配ですか。(〇はいくつでも)

- |                        |                  |                 |
|------------------------|------------------|-----------------|
| 1 堤防の決壊、浸水             | 2 土砂崩れ、崖崩れ       | 3 地割れ、陥没        |
| 4 液状化現象                | 5 火災の発生          | 6 ガスなどの危険物の爆発   |
| 7 建物（自宅を含む）の倒壊         |                  |                 |
| 8 タンス・冷蔵庫などの家具類の転倒     |                  |                 |
| 9 外出先での避難方法がわからないこと    |                  |                 |
| 10 外出先・勤務先から帰宅できなくなること |                  |                 |
| 11 家族の安否の確認ができなくなること   |                  |                 |
| 12 生産活動の停止             | 13 治安の混乱         | 14 近くに避難場所がないこと |
| 15 食料や飲料水の確保が困難になること   |                  |                 |
| 16 ガソリン・灯油などの燃料不足      |                  |                 |
| 17 日用品の不足              | 18 電気、水道、ガスの供給停止 |                 |
| 19 原子力発電所事故            | 20 避難所生活         | 21 心配なことはない     |
| 22 その他（具体的に            |                  | )               |



<全ての方にお伺いします。>

問4 平常時に県や市町から滋賀県に大きな被害を及ぼす大規模地震に関する情報が提供される場合、皆さまに確実に伝わると思う方法は次のどれですか。(〇は3つまで)

- 1 新聞記事
- 2 パンフレットの全戸配布
- 3 新聞の折り込みチラシ
- 4 Eメール（パソコン）での受信
- 5 Eメール（携帯電話）
- 6 県や市町の広報誌
- 7 テレビによる報道
- 8 ラジオによる報道
- 9 自主防災新聞
- 10 スマホアプリ
- 11 ツイッター、フェイスブック
- 12 市町の防災無線による放送（こちらは広報〇〇です で始まる放送）
- 13 しらせる滋賀情報サービス
- 14 市町のメールサービス
- 15 その他（具体的に )

## 2 避難所について

<全ての方にお伺いします。>

問5 災害が発生した後、自宅が損壊した場合やライフラインが使えない場合、あなたはどこで避難生活をしますか。(〇は1つ)

- 1 避難所
- 2 自宅での生活が可能であれば自宅
- 3 親戚・知人宅等
- 4 車中泊
- 5 テント泊
- 6 わからない
- 7 その他(具体的には )

<全ての方にお伺いします。>

問5-1 問5で〇をつけられた理由はどれですか。(〇は1つ)

- 1 物資が貰えるから
- 2 周りに迷惑をかけるから
- 3 プライバシーを確保したいから
- 4 生活できる備蓄があるから
- 5 その他(具体的には )

<問5で「1 避難所」を選んだ方にお伺いします。>

問5-2 避難所の運営は基本的に、そこで生活する避難者が行うということを知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っていた
- 2 知らなかった

<全ての方にお伺いします。>

問6 避難所には、一般避難所と福祉避難所があることを知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っていた
- 2 知らなかった

<全ての方にお伺いします。>

問6-1 一般的に、福祉避難所は、一般避難所の避難者の状況により必要に応じて開設されるものであり、自宅等から直接避難することはできません。このことを知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っていた
- 2 知らなかった

<全ての方にお伺いします。>

問7 緊急に危険を避けるために避難する場所は「避難場所」、一時的に被災者が生活する場所は「避難所」として、2つは別のものとされています。このことを知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っていた
- 2 知らなかった

<全ての方にお伺いします。>

問8 平成28年4月に障害者差別解消法が施行され、災害時にも合理的配慮(女性、子ども、若者、高齢者、障害者、外国人等が、災害時に不都合を感じないように、過度の負担にならない範囲で必要かつ適当な変更や調整(配慮)を行うこと。)が求められていることを知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っていた
- 2 知らなかった

<全ての方にお伺いします。>

問9 あなたは避難所で避難生活を送る場合、どのようなことが心配ですか。

次の1～12について、あてはまる項目にそれぞれ1ずつ〇をつけてください。

質問事項	非常に心配	ある程度心配	あまり心配はない	全く心配していない	該当しない
1 食料や飲料水					
2 日用品(毛布や下着など)					
3 自分や家族が病気になったときの医療					
4 乳幼児、高齢者、体の不自由な者がいるので、一般の人と一緒に生活できるか心配					
5 洗濯や入浴					
6 トイレ					
7 応急の仮設住宅の建設される時期が心配					
8 不安や精神的なストレスのため体調を崩すこと					
9 プライバシーの保護					
10 離ればなれになった家族や親戚などの安否					
11 ペット(犬猫や小鳥など)					
12 避難する場所が少ない(狭い)等、その収容能力					

<全ての方にお伺いします。>

**3あなたのお宅における備蓄について**

問10 今、災害が発生したと仮定して、あなたのお宅では、利用できる食料は家族の何日分ありますか。(該当箇所に○を1つ)

1	2	3	4	5	6	7
1日分	2日分	3日分	4日から 7日分	8日から 10日分	11日から 14日分	無し

<問10で「1 1日分」「2 2日分」「7 無し」を選んだ方にお伺いします。>

問10-1 県では現在、各家庭で災害時に利用できる食料として、家族の3日分以上の用意を勧めています。

あなたのお宅で現在のところ3日分以上の食料を用意していないのはどのような理由からですか。

(○はいくつでも)

- 1 手間がかかるから
- 2 費用がかかるから
- 3 何を準備するとよいかわからないから
- 4 保管する場所がないから
- 5 行政や自主防災組織が用意してくれると思うから
- 6 大規模地震が起こるとは思わないから
- 7 3日分以上が必要とは知らなかったから
- 8 その他(具体的に

)

<問10で「1 1日分」「2 2日分」「7 無し」を選んだ方にお伺いします。>

問10-2 食料が必要となった場合はどのようにして確保しますか。(○はいくつでも)

- 1 地震が起きてから準備する
- 2 自主防災組織からもらう
- 3 避難所でもらう
- 4 知人、近所、親戚等からもらう
- 5 考えていない
- 6 その他(具体的に:

)

<問10で「7 なし」以外を選んだ方にお伺いします。>

問10-3 災害時に利用できる食料の用意のために何をしていますか。(〇はいくつでも)

- |   |
|---|
| 1 非常食（アルファ化米、乾パン・缶詰等）を備蓄している                        |
| 2 日常的に利用する保存・調理が容易な食品（レトルト食品・インスタントラーメン・果物等）を備蓄している |
| 3 普段から多めに食料等を買うようにしている                              |
| 4 その他（具体的に )  |

<全ての方にお伺いします。>

問11 改めてお伺いします。あなたのお宅にある食料を全てかき集めれば（菜園があればそれも含む）家族で1週間だけなら耐えしのぐ事はできますか。(〇は1つ)

- |        |
|--------|
| 1 できる  |
| 2 できない |

<全ての方にお伺いします。>

問12 あなたのお宅では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり3リットルで計算してください。(〇は1つ)

1	2	3	4	5	6	7
1日分	2日分	3日分	4日から 7日分	8日から 10日分	11日から 14日分	無し

<問12で「1 1日分」「2 2日分」「7 無し」を選んだ方にお伺いします。>

問12-1 県では現在、災害時に備えて、各家庭で家族の3日分以上の飲料水の備蓄を勧めています。あなたのお宅で現在のところ3日分以上の飲料水を備蓄していないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

- |                       |
|-----------------------|
| 1 手間がかかるから            |
| 2 費用がかかるから            |
| 3 何を準備するとよいかわからないから   |
| 4 保管する場所がないから         |
| 5 行政や自主防災組織が用意してくれるから |
| 6 大規模地震が起こるとは思わないから   |
| 7 3日分以上が必要とは知らなかったから  |
| 8 その他（具体的に )          |

<問12で「7 無し」を選んだ方にお伺いします。>

問12-2 飲料水が必要となった場合はどのようにして確保しますか。(〇はいくつでも)

- |  |   |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 地震が起きてから準備する</li><li>2 自主防災組織からもらう</li><li>3 避難所でもらう</li><li>4 考えていない</li><li>5 その他(具体的に</li></ol> | ) |
|--|---|

<全ての方にお伺いします。>

問13 あなたのお宅では、何日分の携帯トイレ・簡易トイレ(ビニール袋などによる代用を含む)を備蓄していますか。ご家族ひとり1日あたり5回分で計算してください。(〇は1つ)

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 備蓄していない</li><li>2 1～3日分</li><li>3 4～6日分</li><li>4 7日以上</li></ol> |
|--|

<問13で「1 備蓄していない」を選んだ方にお伺いします>

問13-1 被災時にはどのような対応を想定していますか。(〇は1つ)

- |   |   |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 自宅のトイレが使えると思う</li><li>2 考えていない</li><li>3 その他(具体的に</li></ol> | ) |
|---|---|

<全ての方にお伺いします。>

問14 非常持出品として何を用意していますか。(〇はいくつでも)

- 1 携帯ラジオ
- 2 懐中電灯
- 3 予備の乾電池
- 4 ヘルメット・防災頭巾
- 5 非常食
- 6 飲料水
- 7 ティッシュペーパー・トイレトペーパー
- 8 スプーン・はし・カップ
- 9 下着・くつ下
- 10 救急薬品・常備薬
- 11 お薬手帳
- 12 タオル
- 13 手ぶくろ
- 14 現金
- 15 雨具
- 16 毛布または寝袋
- 17 ビニール袋
- 18 筆記用具・ノート
- 19ライター・マッチ
- 20 ナイフ・缶切り
- 21 生理用品・おむつ
- 22くつ・スリッパ
- 23 携帯電話のバッテリー充電器
- 24 カセットコンロ
- 25 用意していない

#### 4 あなたのお宅の耐震補強、家具の固定等について

昭和 56 年以前に建築された木造住宅は古い耐震基準の建物であり、現在の耐震基準に基づく強度を満たしていない場合には、立地する地盤等にもよりますが、予想される大規模地震により大きな被害が起こるおそれがあると推測されます。このことを踏まえた上でお答えください。

<全ての方にお伺いします。>

問 1 5 あなたのお住まいの家は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- 1 木造住宅
- 2 鉄骨造住宅
- 3 鉄筋コンクリート造住宅

⇒木造住宅以外の方は、問 1 6 へ進んでください。

<問 1 5 で「1 木造住宅」を選んだ方にお伺いします。>

問 1 5-1 あなたのお住まいの「木造住宅」は、いつ建てられた住宅ですか。(○は1つ)

- 1 昭和 56 年 5 月以前
- 2 昭和 56 年 6 月以降 ※工事に着手した時点でお答えください。

⇒「2 昭和 56 年 6 月以降」を選んだ方は、問 1 6 へ進んでください。

<問 1 5-1 で「1 昭和 56 年 5 月以前」を選んだ方にお伺いします。>

問 1 5-2 県内の市町では、昭和 56 年 5 月以前に建てられた木造住宅の耐震診断を無料(条件あり)で実施していることを知っていますか。(○は1つ)

※市町が実施する耐震診断は、建築に関する知識と経験を有し滋賀県に登録された建築士(診断員)を派遣し、既存図面や目視等の簡易な調査でわかる範囲の情報に基づき診断を行います。

- 1 知っている
- 2 知らない

問 1 5-3 これまでにあなたのお宅の耐震診断をしたこと、または、今後する予定がありますか。(○は1つ)

- 1 ある
- 2 検討中
- 3 ない



<問15-3で「3 ない」を選んだ方にお伺いします。>

問15-4 耐震診断をしない、または、今後する予定が無いのはなぜですか。(〇はいくつでも)

- 1 診断方法がわからないから
- 2 手間がかかるから
- 3 費用がかかるから
- 4 診断しても大地震の被害は避けられないと思うから
- 5 大規模地震等が起こると思わないから
- 6 借家だから
- 7 診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくってあり必要だと思わないから
- 8 その他(具体的に )

問15-5 今後、あなたのお住まいの家の耐震化をする場合、県や市町に対して要望することがあります。次の中からあてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

- 1 相談窓口の設置
- 2 地区ごとの説明会の実施
- 3 専門家の派遣
- 4 耐震補強工事に対する助成制度の拡充
- 5 低金利資金による貸付
- 6 アパート等のオーナーに対する指導
- 7 なぜ危険なのかを示した詳細な説明パンフレットなどの提供

<全ての方にお伺いします。>

問16 あなたのお宅では、地震に備えて家具類の固定をしていますか。(〇は1つ)

- 1 大部分固定している
- 2 一部固定している
- 3 固定していない

<問16で「2 一部固定している」または「3 固定していない」を選んだ方にお伺いします。>

問16-1 どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

- 1 建物や家具を傷めるから
- 2 手間がかかるから
- 3 費用がかかるから
- 4 家具類を置いていない安全な部屋があるから
- 5 固定をしても被害は出ると思うから
- 6 大規模地震が起こると思わないから
- 7 借家だから
- 8 固定方法がわからないから
- 9 部屋の見た目が悪くなるから
- 10 タンスなどには下に重い物を、上に軽い物を収納しているから
- 11 固定方法がわかってでも自分で固定できないと思うから
- 12 やらうと思っているが先延ばしにしているから
- 13 地震が起きても転倒・落下・移動しないと思うから
- 14 転倒・落下・移動しても危険ではないと思うから
- 15 その他(具体的に )

<全ての方にお伺いします。>

問17 あなたの自宅はどのような建物や家財に関わる保険に加入していますか。(〇はいくつでも)

- 1 地震保険
- 2 火災保険
- 3 家財等の保険
- 4 農協の建物更生共済(建更)
- 5 加入していない
- 6 わからない

<問17で「1 地震保険」を選ばなかった方にお伺いします。>

問17-1 地震保険に加入していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 保険料が高いから
- 2 地震が起きても建物被害を受けないと思うから
- 3 地震保険だけでは、家を再建できないと思うから
- 4 借家だから
- 5 地震は起こらないと思うから
- 6 地震保険の内容がよくわからないから
- 7 地震保険の加入を勧められなかったから
- 8 どこに相談したらよいかわからなかったから
- 9 その他(具体的に )

<全ての方にお伺いします。>

問 18 生活再建支援制度で知っているものはありますか。(〇はいくつでも)

- 1 災害弔慰金
- 2 災害障害見舞金
- 3 被災者生活再建支援制度
- 4 災害援護資金貸付制度
- 5 生活福祉資金貸付制度
- 6 知っているものはない

5 自主防災組織・防災訓練について

<全ての方にお伺いします。>

問19 あなたは、防災の対策をするにあたり具体的にどこに相談したいですか（〇はいくつでも）

- 1 地元の消防団
- 2 地元の自主防災組織（町内会）
- 3 国
- 4 県
- 5 市町
- 6 防災士
- 7 地域防災アドバイザー
- 8 勤務先
- 9 学校
- 10 近所の人
- 11 地元の警察署
- 12 家族や知人
- 13 相談したいところはない
- 14 その他（具体的に )

<全ての方にお伺いします。>

問20 あなた、または、家族は、地域の自主防災組織に入っていますか。（〇は1つ）

- 1 入っている
- 2 入っていない
- 3 自主防災組織はない
- 4 入っているかわからない
- 5 自主防災組織とは何かを知らない

<問20で「1 入っている」を選んだ方にお伺いします。>

問20-1 あなた自身は、自主防災組織の活動に参加していますか。（〇は1つ）

- 1 自主防災組織の会長や副会長、防災委員など、自主防災組織の役員として参加している
- 2 役員以外の自主防災組織内で定まった役割（消火班、避難誘導班など）で参加している
- 3 自主防災組織内で定まった役割がないが、防災訓練など何らかの活動に参加している
- 4 参加していない

問20-2 あなたの地区の自主防災組織の活動は活発と思いますか。(○は1つ)

- 1 活発である
- 2 まあまあ活発である
- 3 あまり活発ではない
- 4 活発ではない
- 5 わからない

<全ての方にお伺いします。>

問21あなたは、過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。(○はいくつでも)

- 1 滋賀県総合防災訓練(平成29年8月27日(日)、9月10日(日)に実施)に参加した
- 2 その他の防災訓練に参加した
- 3 機会がなかった(訓練はなかった)
- 4 参加しなかった ⇒問21-3へ

<問21で「1滋賀県総合防災訓練(9月1日前後の8~9月に実施)に参加した」「2その他の防災訓練に参加した」のいずれかを選んだ方にお伺いします。>

問21-1 その防災訓練はどちらで参加しましたか。(○はいくつでも)

- 1 自主防災組織(町内会)での訓練に参加した
- 2 職場や学校での訓練に参加した
- 3 その他(訓練の実施主体を具体的に )

問21-2 参加してみてどのようなことを感じましたか。(○はいくつでも)

- 1 防災の大切さを知る機会となった
- 2 災害時に自らが取るべき行動について知る機会となった
- 3 災害時の防災組織の活動について知る機会となった
- 4 家庭で防災について話し合いをするきっかけとなった
- 5 内容が形式的であったりイベント化したりしていた
- 6 住民・企業・ボランティアなど地域全体の連携がとれていなかった
- 7 参加者が限られているので、より多くの人に参加できるようにするとよいと思った
- 8 その他(具体的に )

<問21で「4 参加しなかった」を選んだ方にお伺いします。>

問21-3 参加しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 仕事や用事があったから
- 2 訓練実施を知らなかったから
- 3 面倒だったから
- 4 参加の必要性を感じないから
- 5 毎回同じ訓練内容だから
- 6 具体的な日時・場所・申込方法がわからなかったから
- 7 関心・興味がなかったから
- 8 時間的に拘束されと思ったから
- 9 自分は災害に遭わないと思うから
- 10 その他(具体的に

)

6 大規模地震が突然発生したときの行動について

以下の質問は、突然、震度6強（固定していない家具類はほとんど倒れ、足元をすくわれ、立っていることができないような揺れ）以上の地震が起こった場合を想定してお伺いします。

<全ての方にお伺いします。>

問22 家族が離ればなれとなっている時に突然、地震が起こった場合、家族の安否を確認する手段として何を使うことを考えていますか。（〇はいくつでも）

- 1 Eメール（携帯電話）
- 2 直接電話
- 3 共通の知人へ電話（直接電話では家族と連絡が取れない場合等）
- 4 ツイッター（Twitter）
- 5 フェイスブック(Facebook)
- 6 ライン(LINE)
- 7 災害用伝言ダイヤル「171」
- 8 携帯電話のメールサービス「災害伝言板」
- 9 共通の集合場所などを決めているので連絡を取らない
- 10 特に考えていない
- 11 その他（具体的に

<全ての方にお伺いします。>

問23 突然、地震が起こった場合、あなたは自主的に地域の防災活動に参加しますか。（〇は1つ）

- 1 参加する
- 2 参加しない
- 3 わからない

<問23で「1 参加する」を選んだ方にお伺いします。>

問23-1 どのような活動に参加することを考えていますか。（〇はいくつでも）

- 1 火災発生時の初期消火
- 2 要救助者の救出・救助
- 3 負傷者の応急手当・搬送
- 4 避難の呼びかけ、避難の誘導
- 5 避難所の運営
- 6 住民の安否確認
- 7 避難行動要支援者の所在確認及び避難支援
- 8 被害情報の収集

<全ての方にお伺いします。>

問24 突然、地震が起こった場合、あなた自身の安全についてどう考えていますか。

- 1 まず無事だと思う
- 2 軽いけがぐらいはするかもしれない
- 3 大けがをする危険があると思う
- 4 死ぬ恐れもあると思う

<全ての方にお伺いします。>

問25 あなたがご自宅にいるときに、突然地震が起こった場合、あなたやご家族が一時的に避難する場所として、可能性が高い場所の1位、2位にそれぞれ○をつけてください。

選 択 項 目	避難する可能性が 高い1位の場所	避難する可能性が 高い2位の場所
1 避難しない		
2 市町が指定した避難地		
3 自宅周辺の広場など指定された避難地以外の場所		
4 親戚、知人宅		
5 その他（具体的に )		

問25-1 避難する場合の理由は何ですか。（○はいくつでも）

- 1 自宅またはその周辺は、山・がけ崩れの危険が予想されるから
- 2 自宅の周辺が住宅密集地で、延焼火災の危険が予想されるから
- 3 自宅の耐震性がないから（自宅が倒壊またはその危険があるから）
- 4 自宅の倒壊の危険はないが、不安だから

<全ての方にお伺いします。>

問25-2 地震が起こった場合、土砂災害も起こりやすくなります。あなたは、土砂災害警戒区域および土砂災害特別警戒区域を知っていますか。（○は1つ）

- 1 知っている
- 2 知らない

<全ての方にお伺いします。>

問25-3 避難するときの交通手段は何ですか。（○は1つ）

- 1 徒歩
- 2 自転車
- 3 原付・バイク
- 4 自家用車
- 5 公共交通機関（電車・バス・タクシー等）



お疲れ様でした。

質問は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

